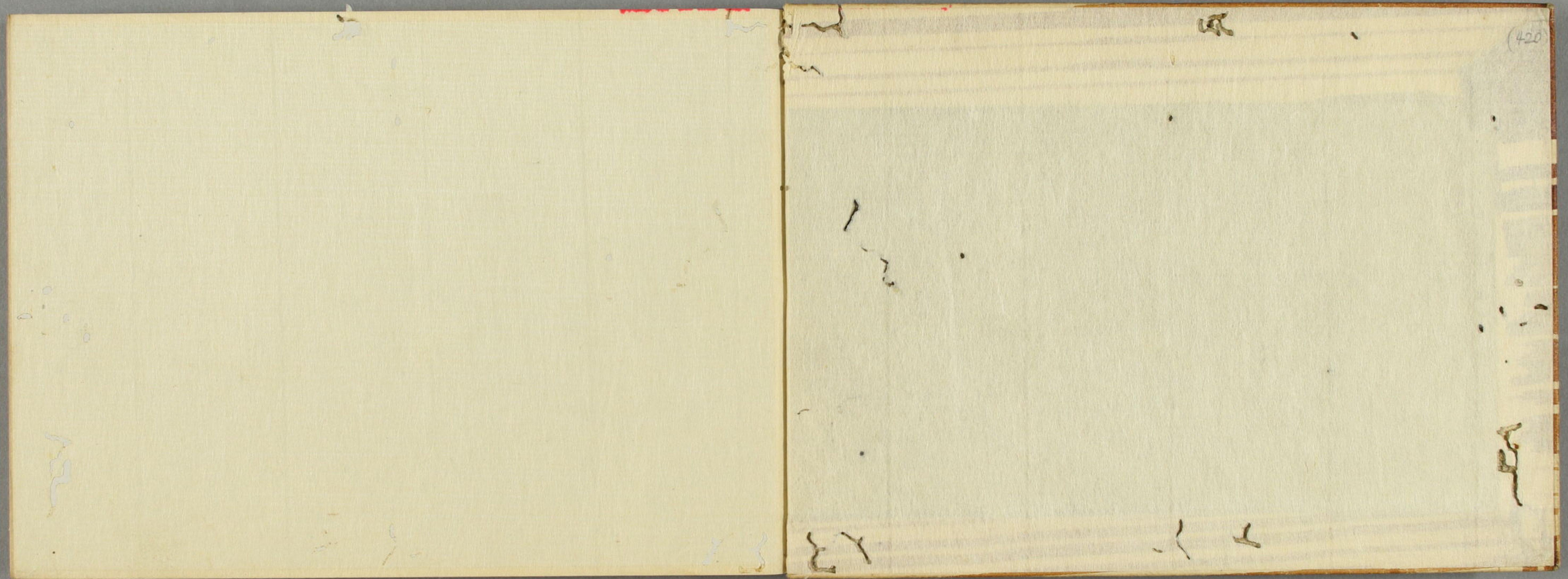




馬法禮  
月

73  
3645  
420





門 73  
號 3645  
卷 420

一 馬臭名所

二 同蓋奧

三 櫻狩之卷

四 講尺昏

五 七丹之昏

一 梅

二 楓

三 柳

四 椿

五 檉

六 桃

七

六 胸明集

馬濟禮目錄口傳 乾坤



和名久良  
縮ヨリエラ 磁ト云

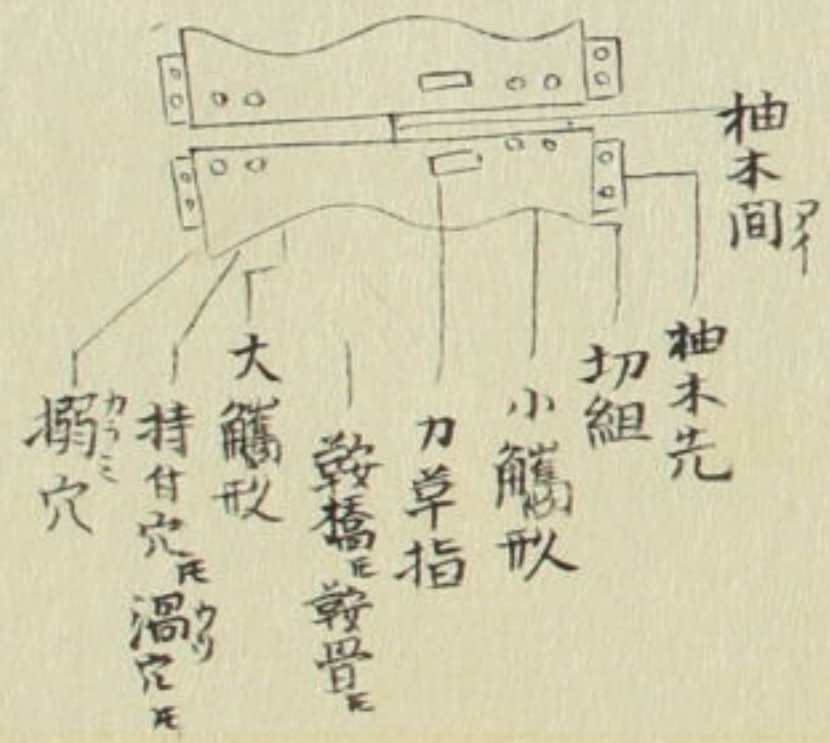
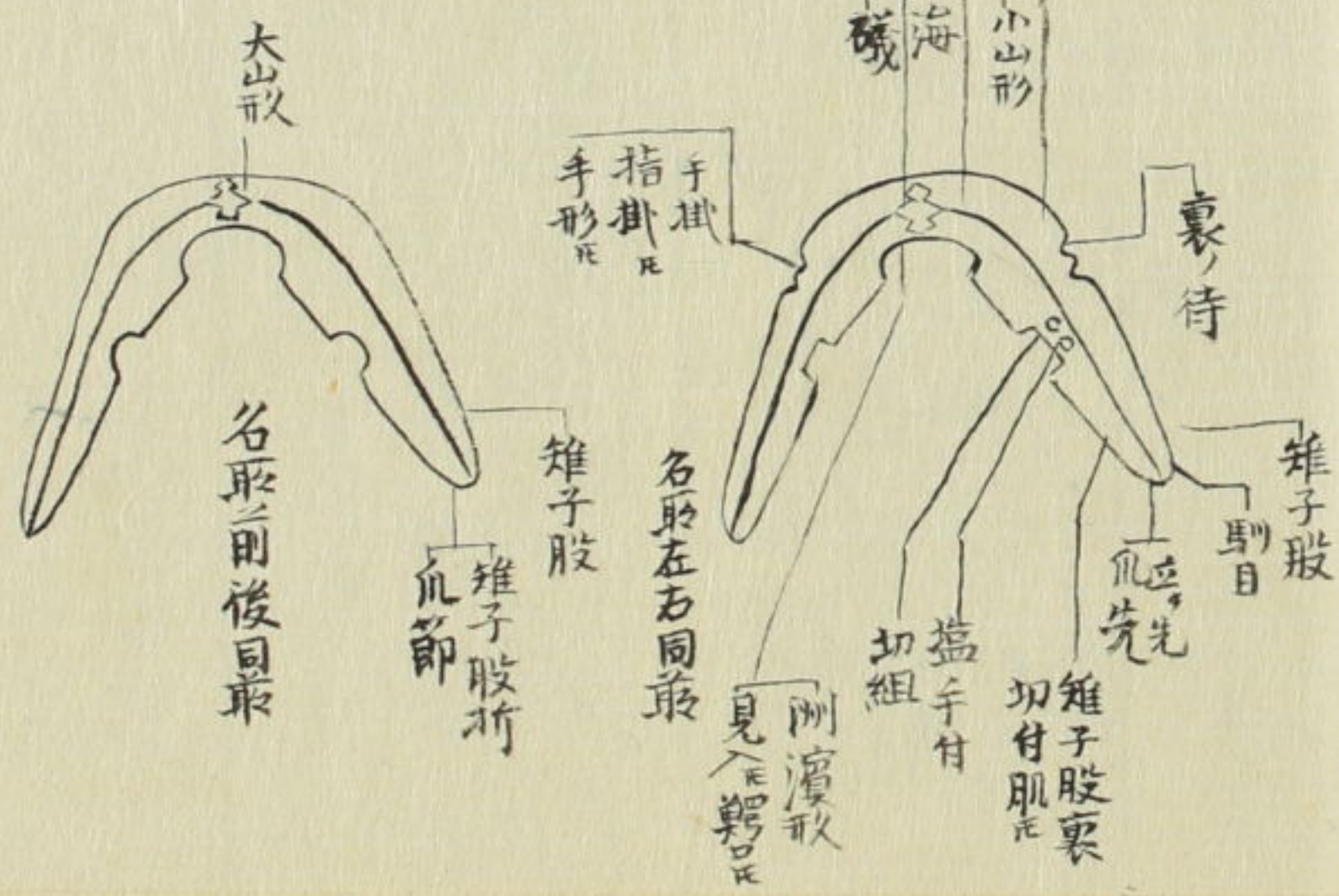
鞍

馬具名所

前輪

後輪

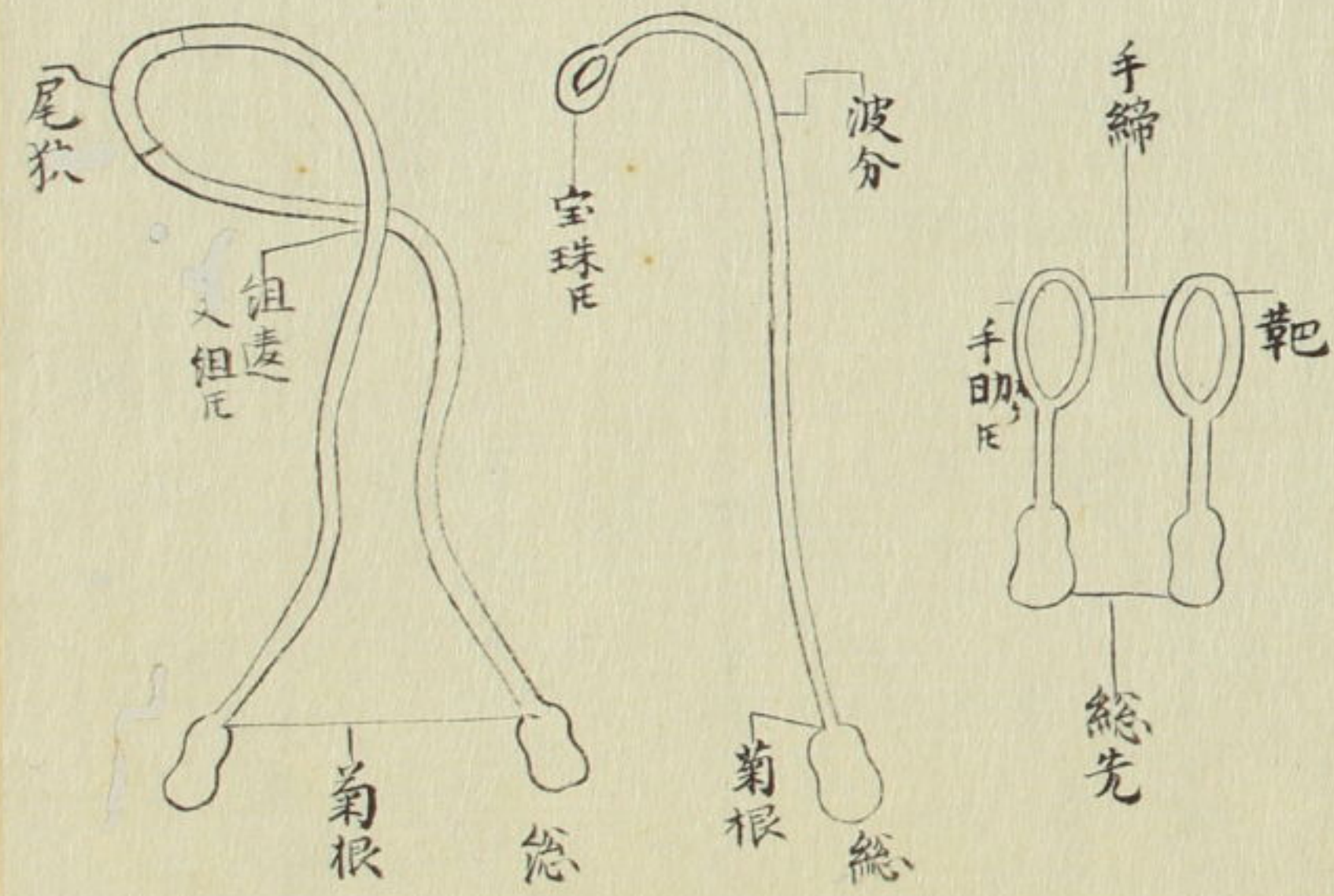
工  
袖木  
居木



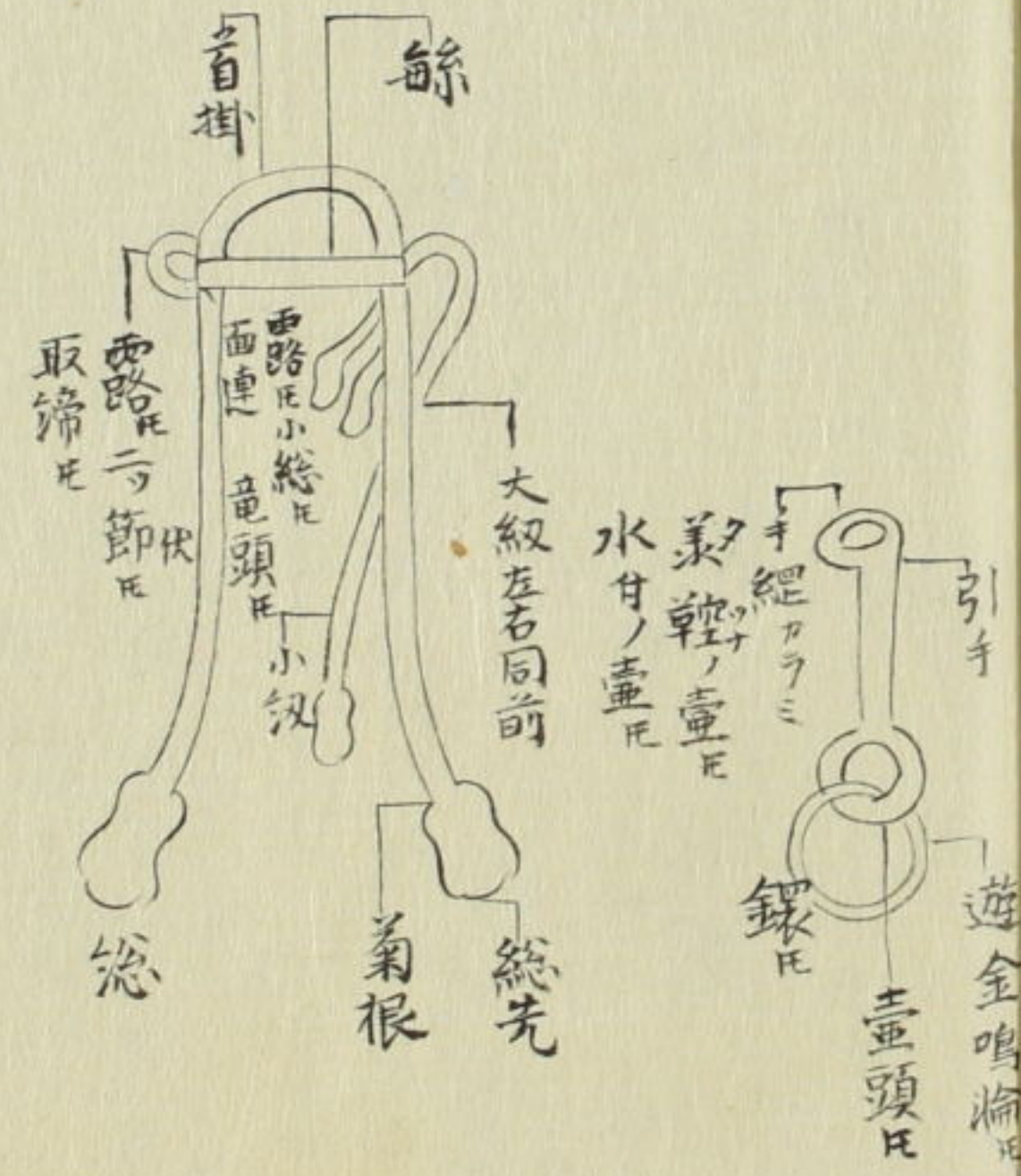
左右同前



鞞 鞞

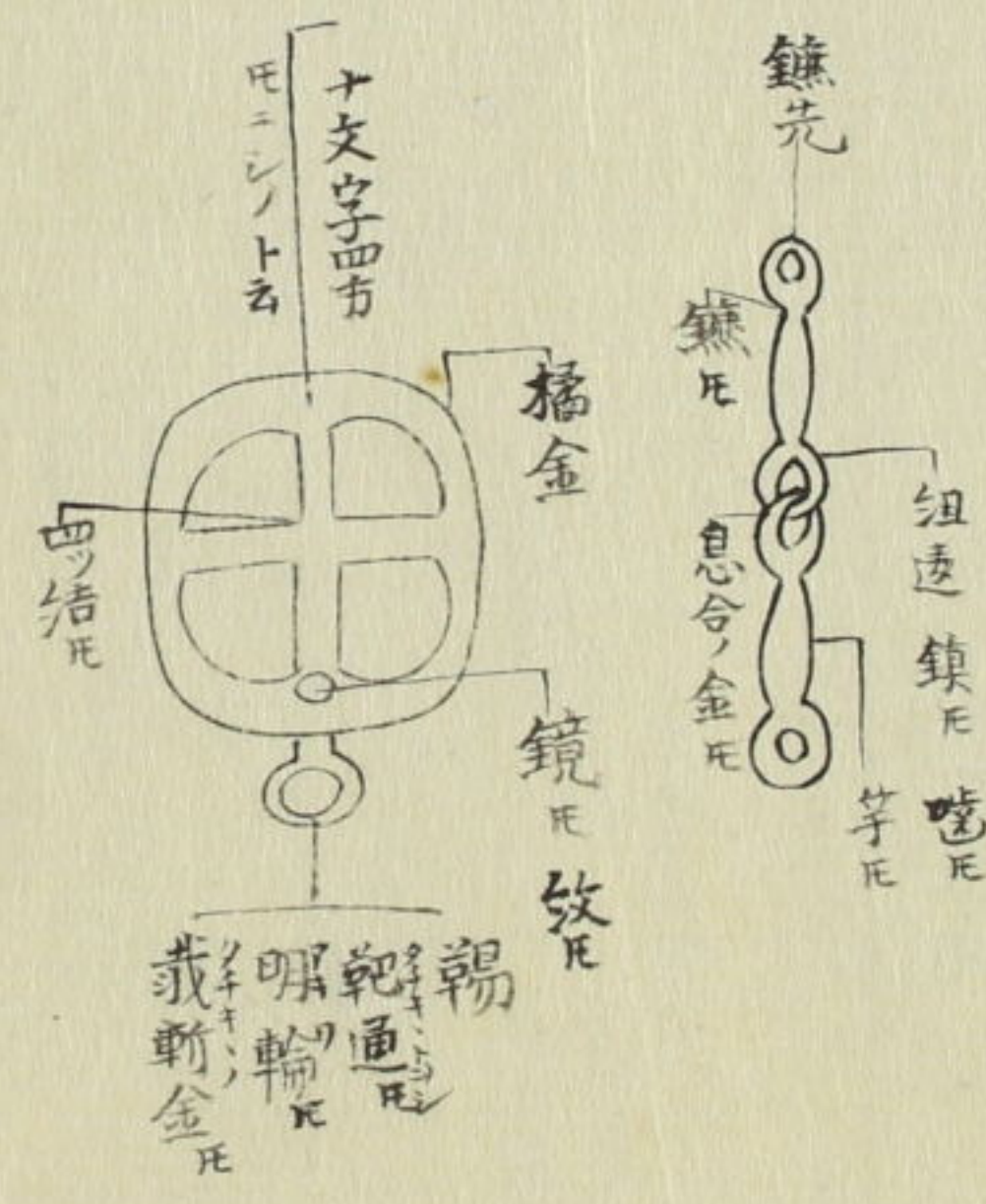


鞞

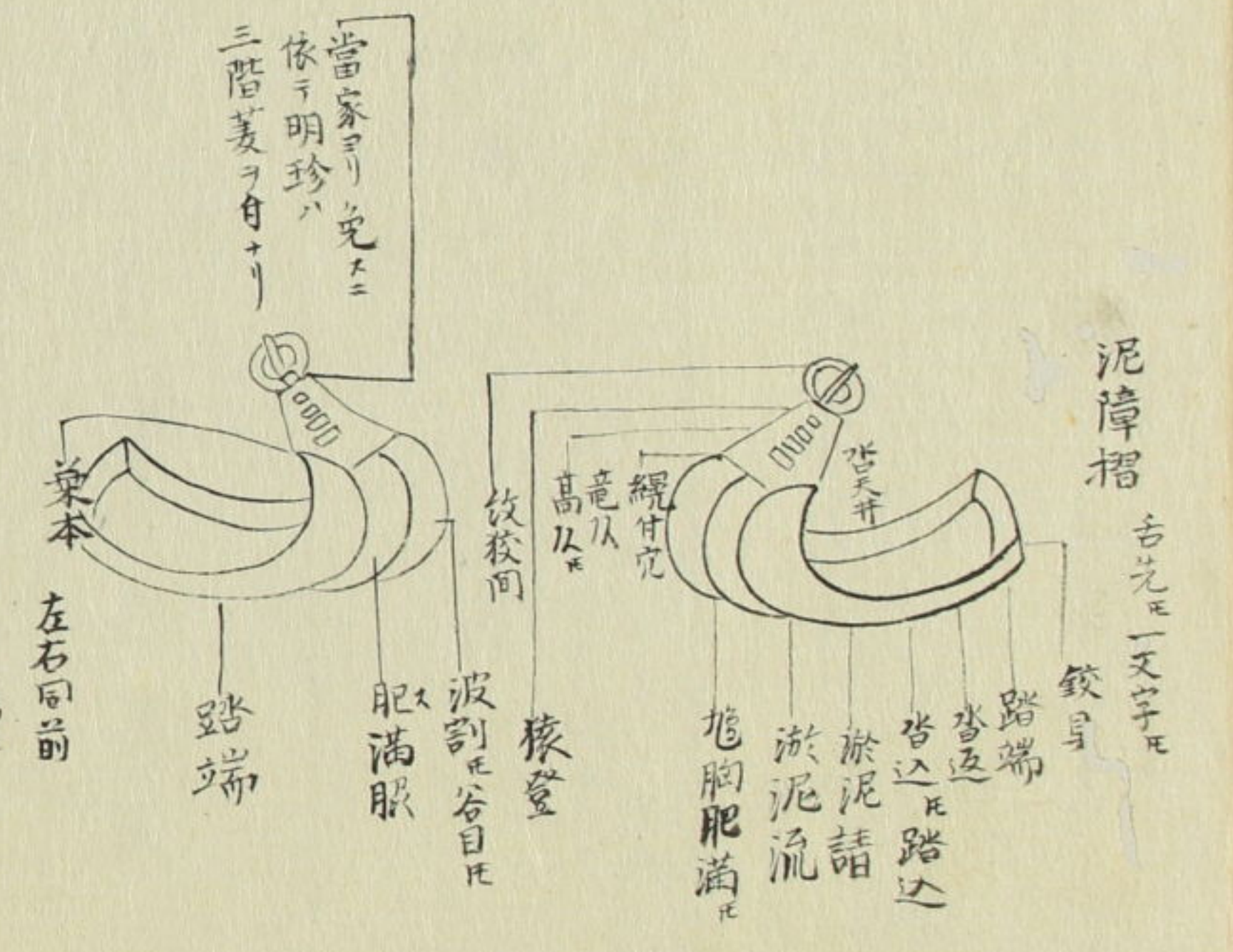


洗鞞 鞞 鞞 鞞

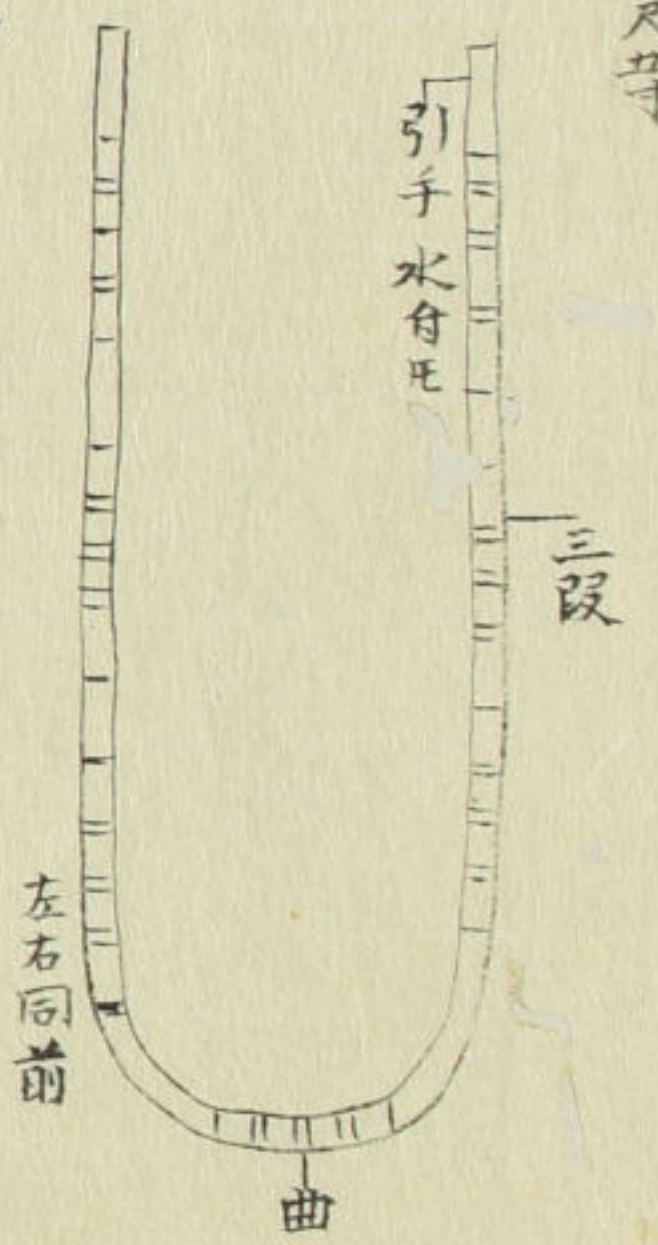
鞞



鞞

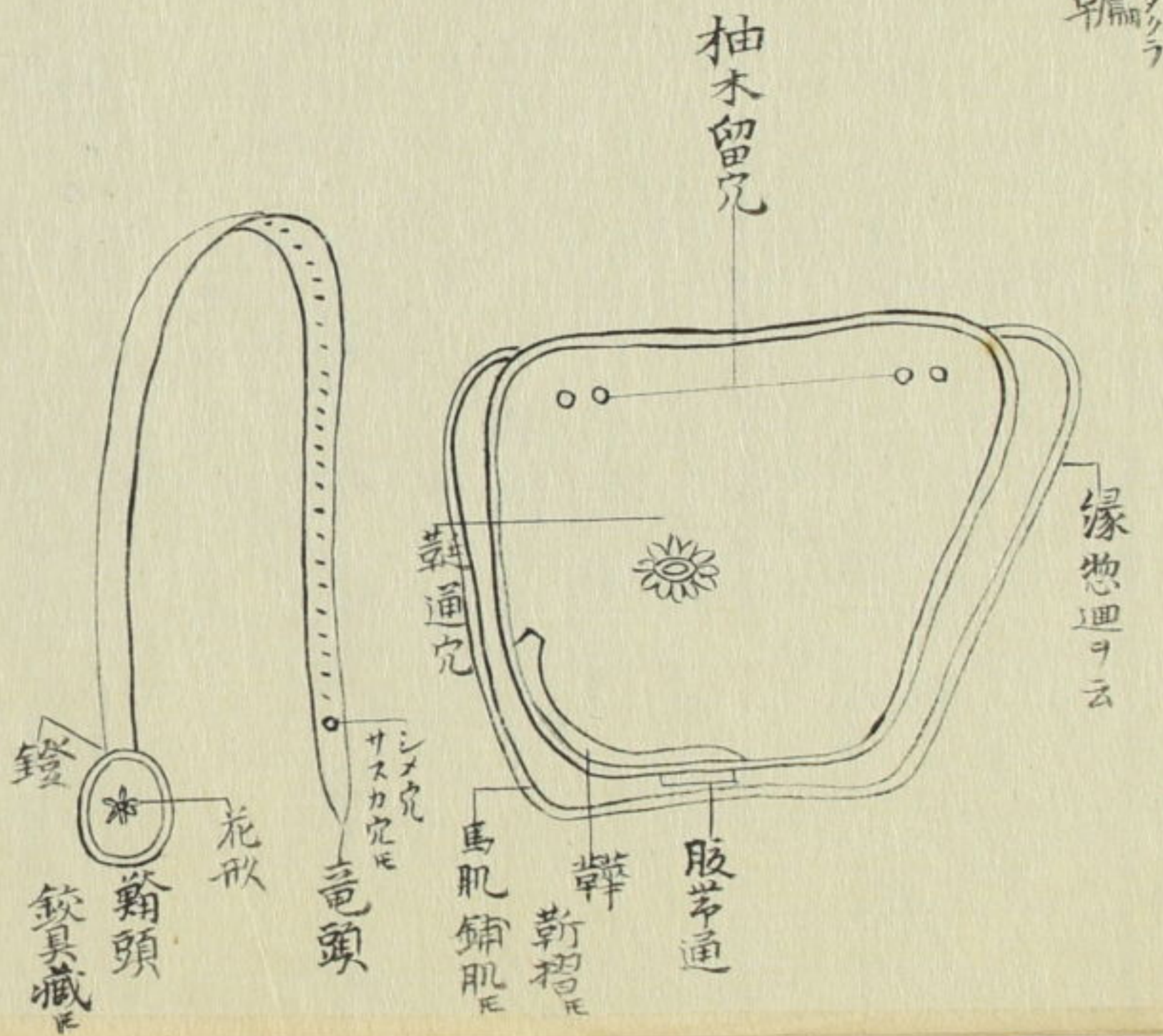


手綱 長七尺寸



切舟 韃 (シククラ)

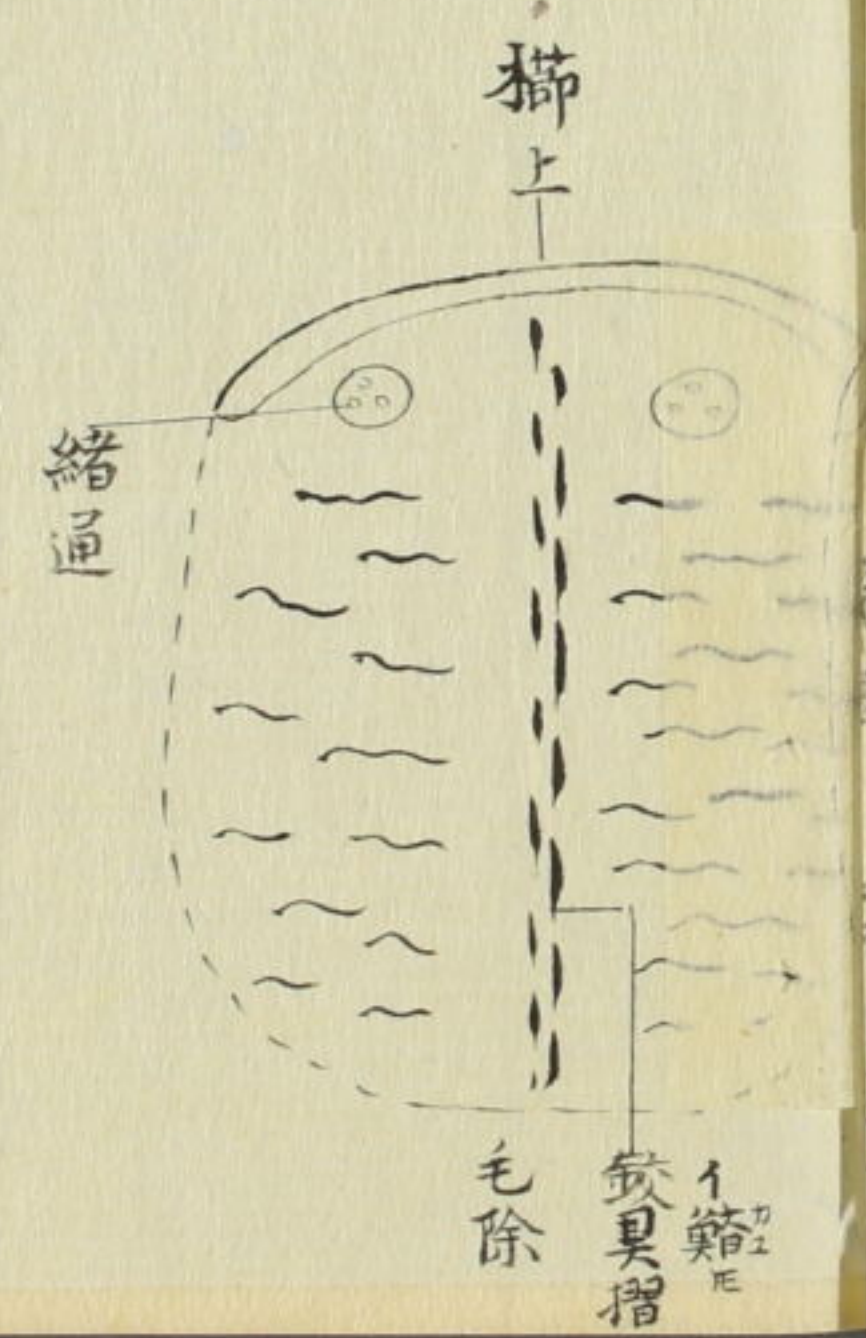
刀草



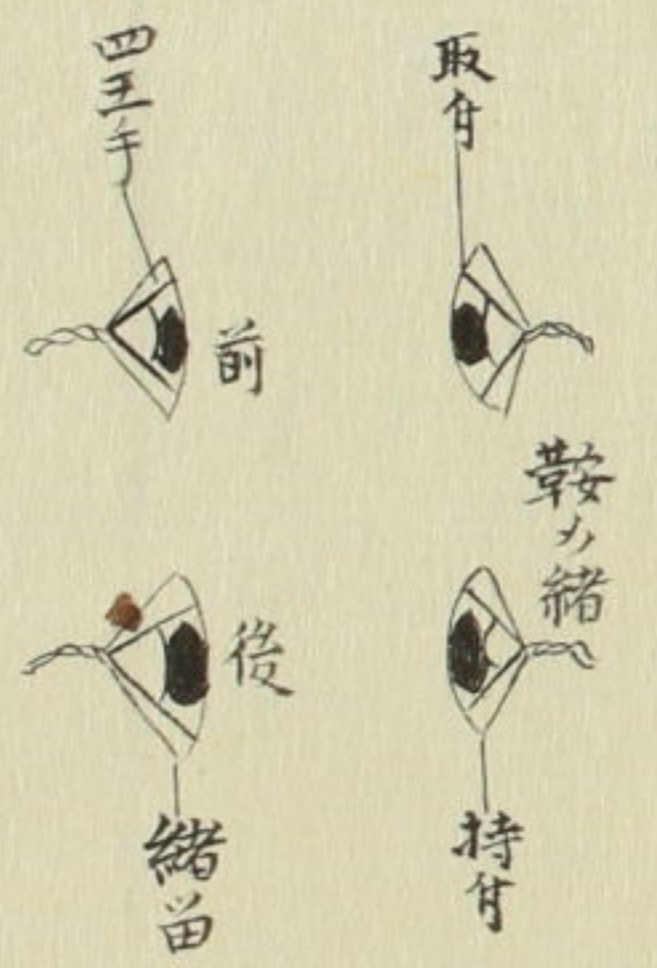
馬槽



泥障



鞆 四方手 (鞆 塩手)

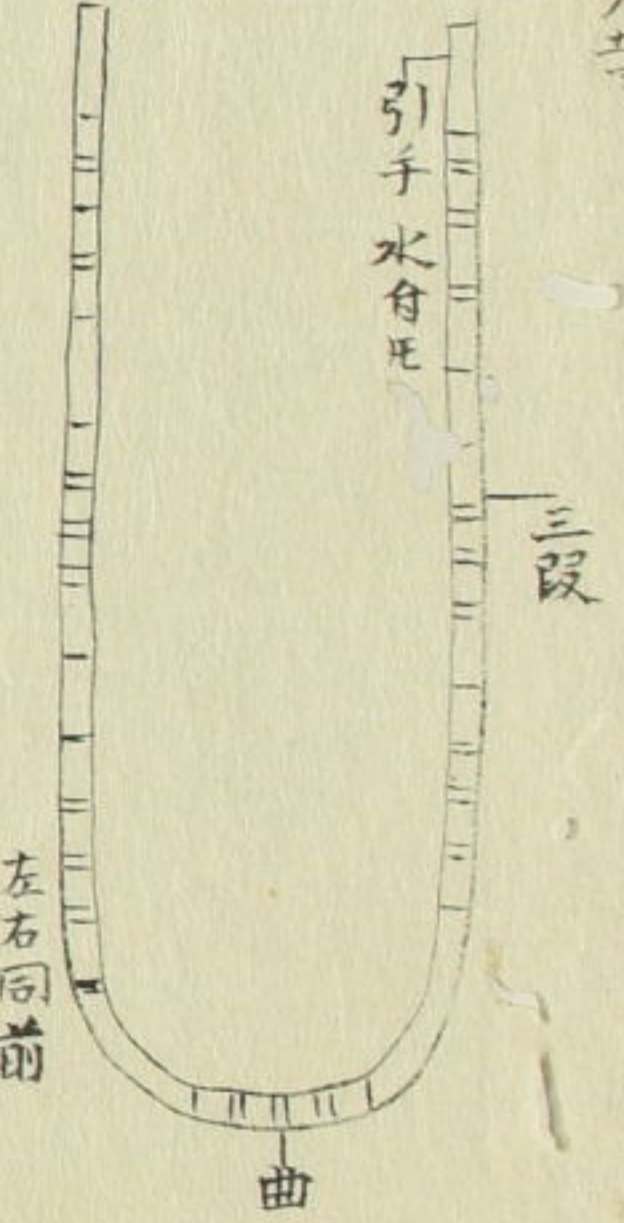


馬具温奥卷

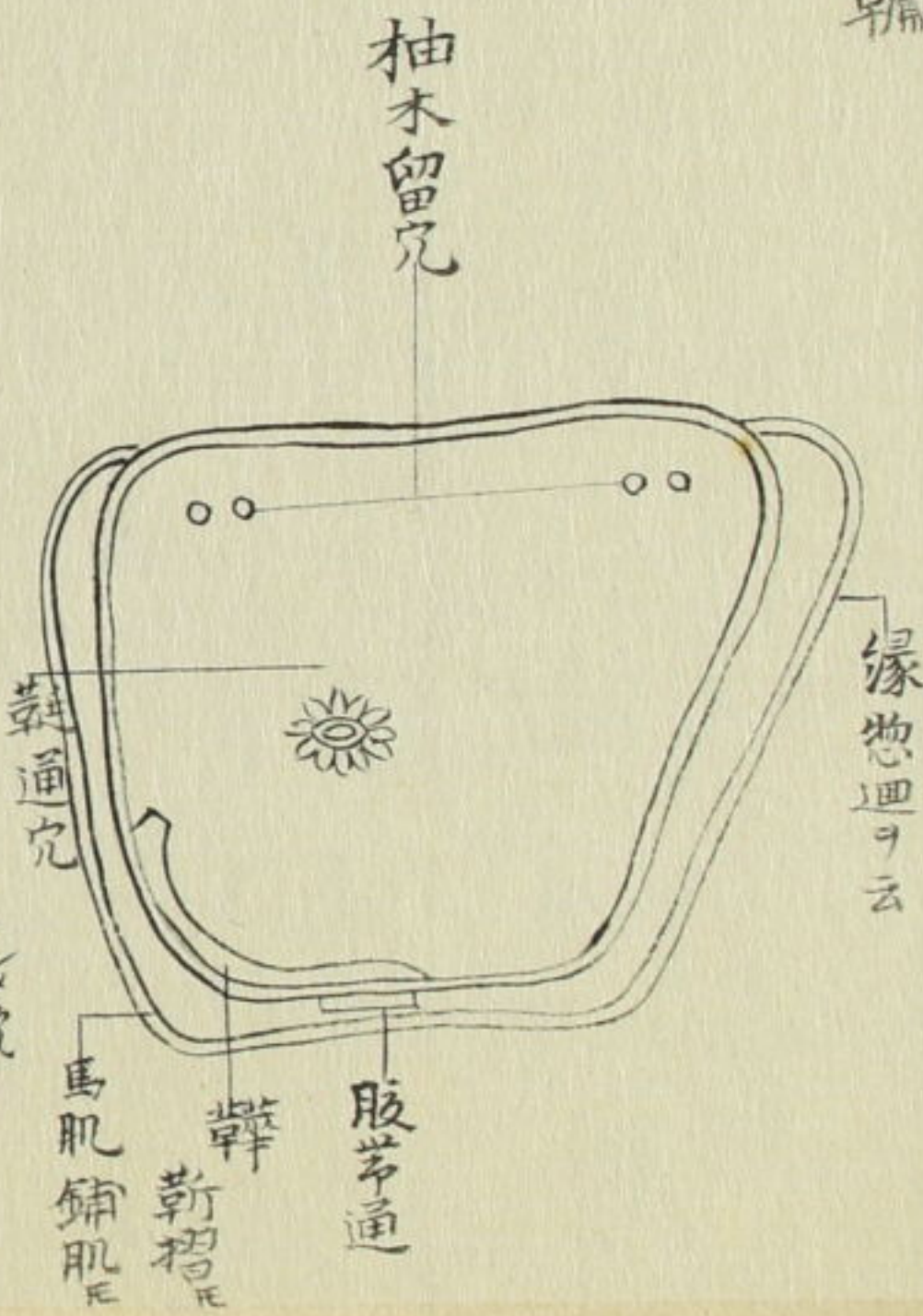
一寸深さ

七尺寸 九尺 九尺三寸  
六尺七寸 先い大い立念流滴るよ因  
及は世に河の深深柳梅小鳥のふも  
の紫波の川と深天守の  
祢海小川と深と世系とと表  
紋ありと止る

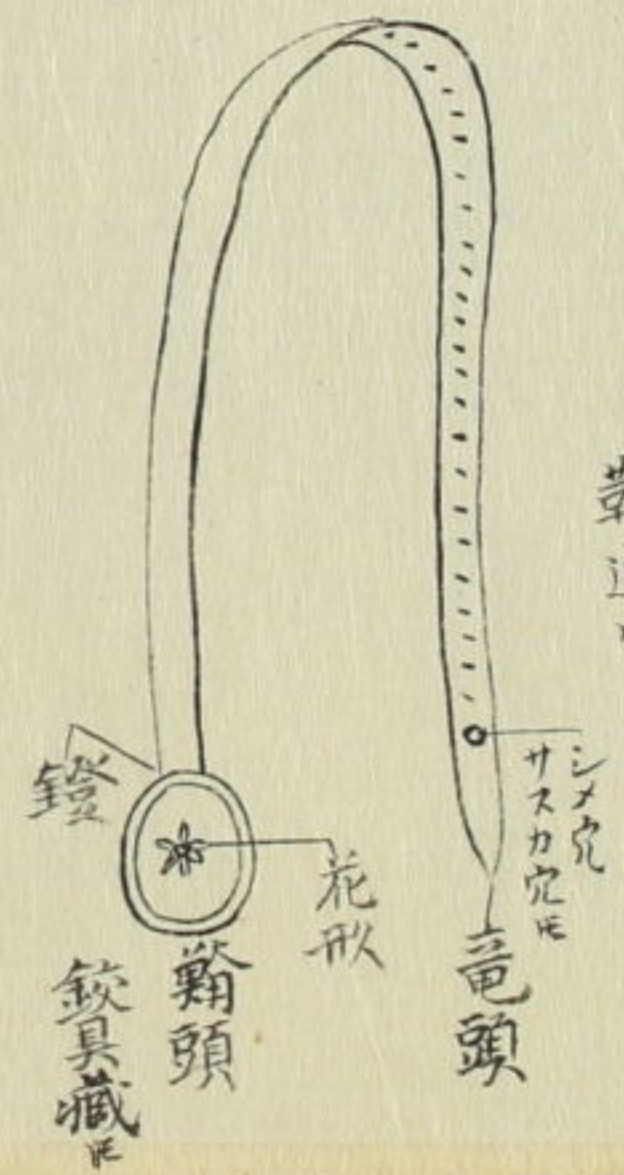
手廻 長七尺寸



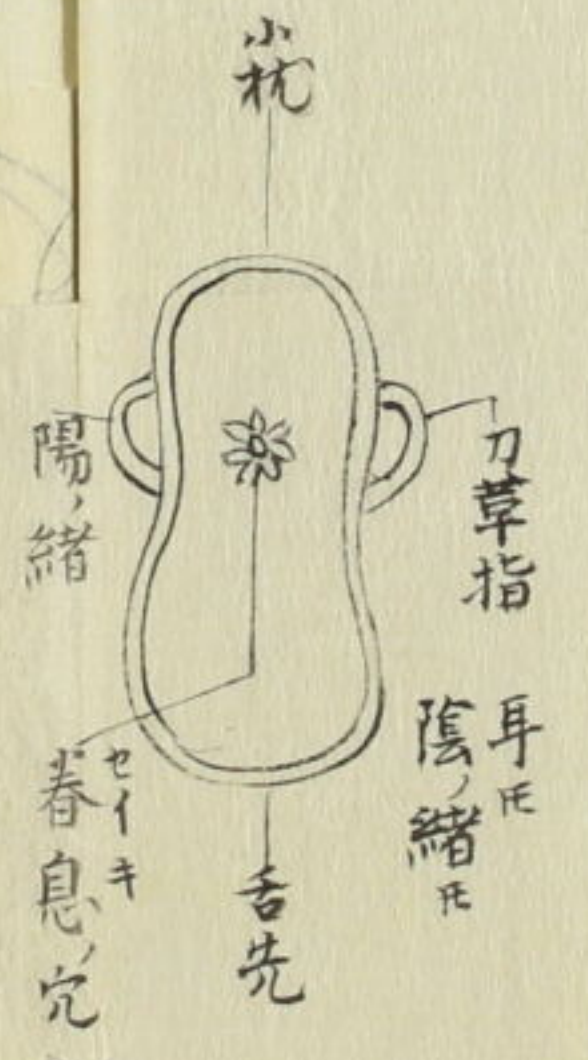
切舟 轆



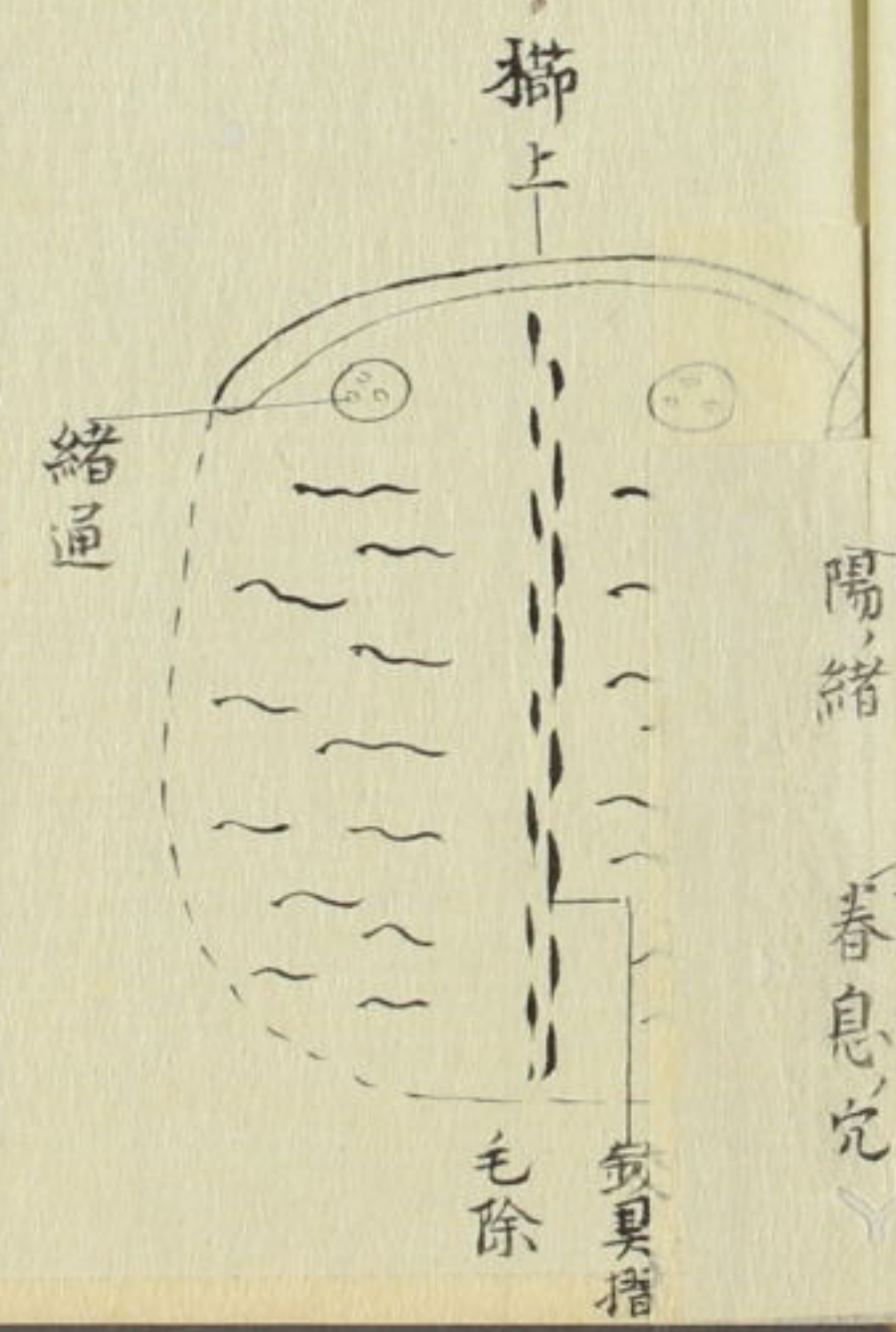
刀草



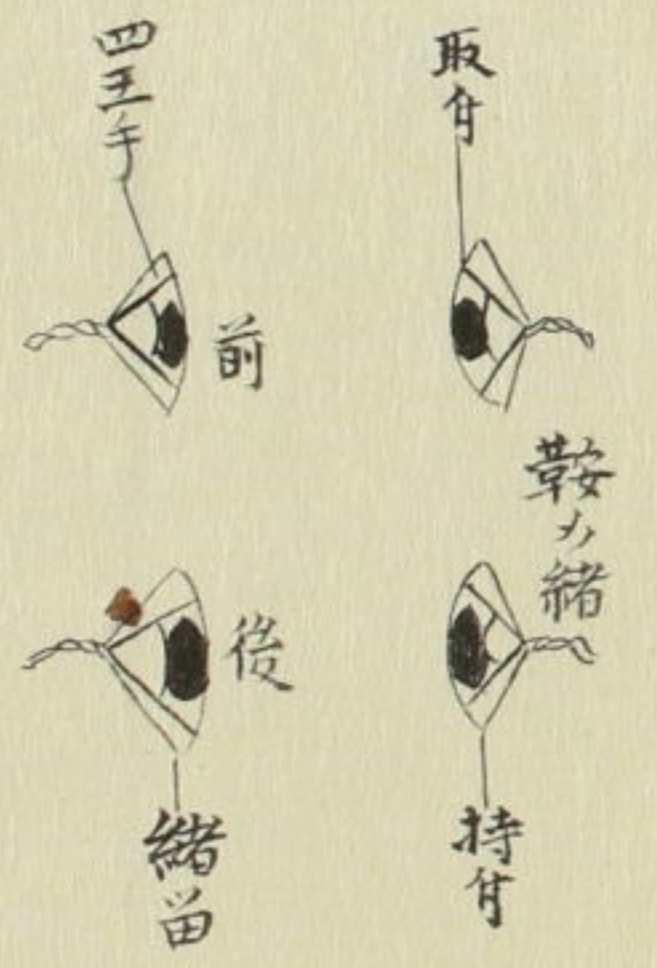
馬槽



泥障



草窩 四方手 塩手



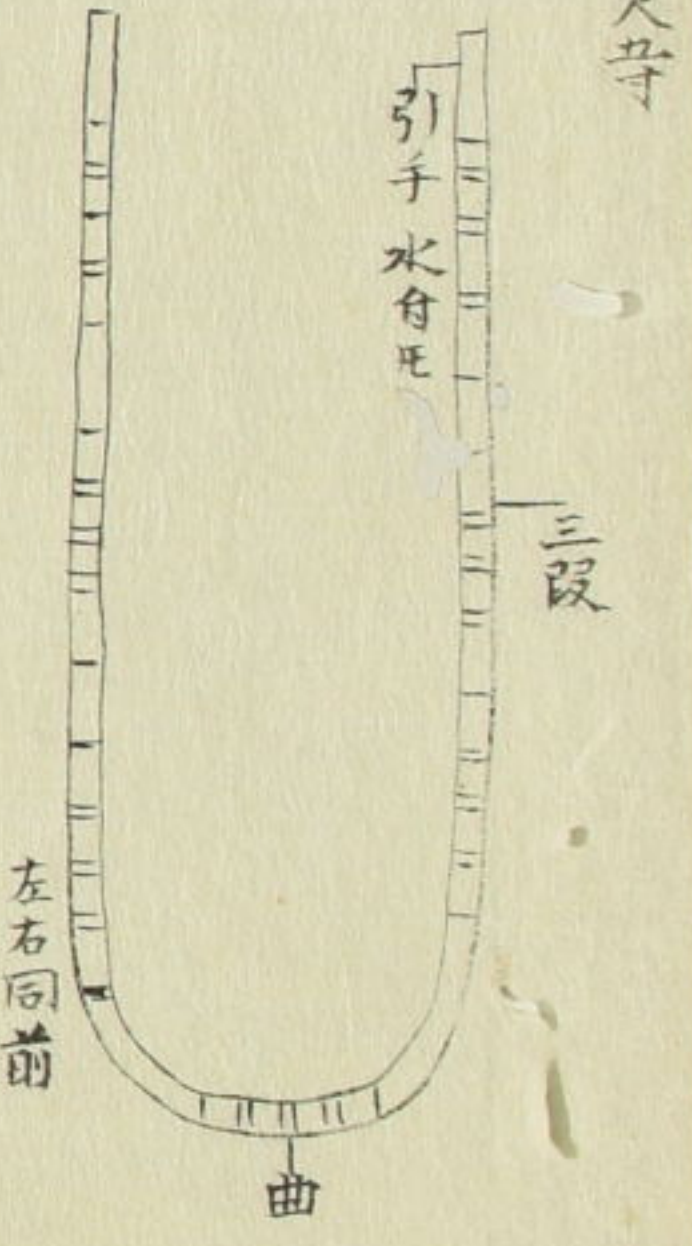
馬具温奥卷

一子温

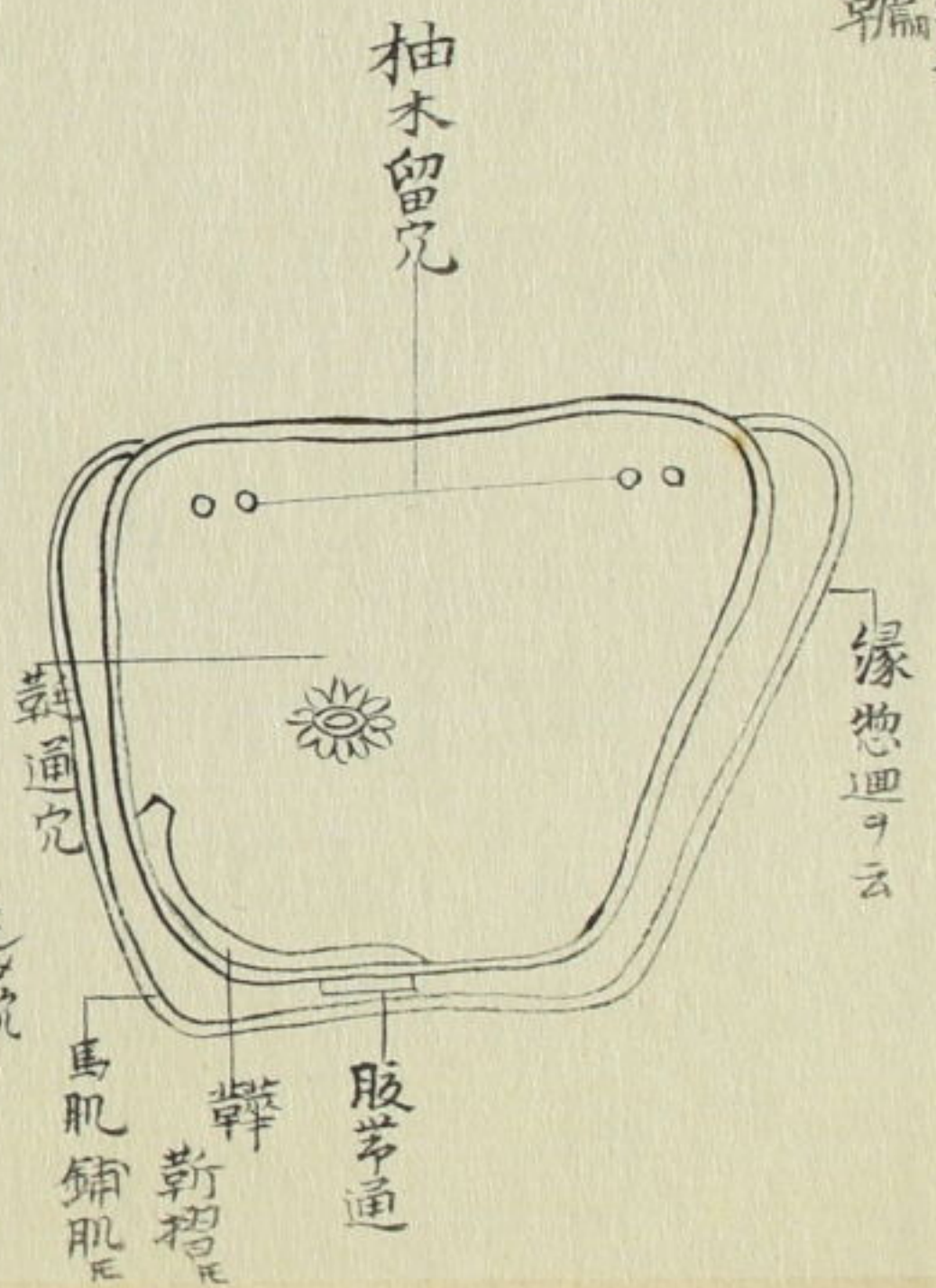
七尺寸 九尺 九尺三寸  
六尺七寸 先大立倉流滴る子  
及反世何く深深柳梅小鳥  
の紫波引子深天守あり  
祢海引子深と世系と表  
攸りてと



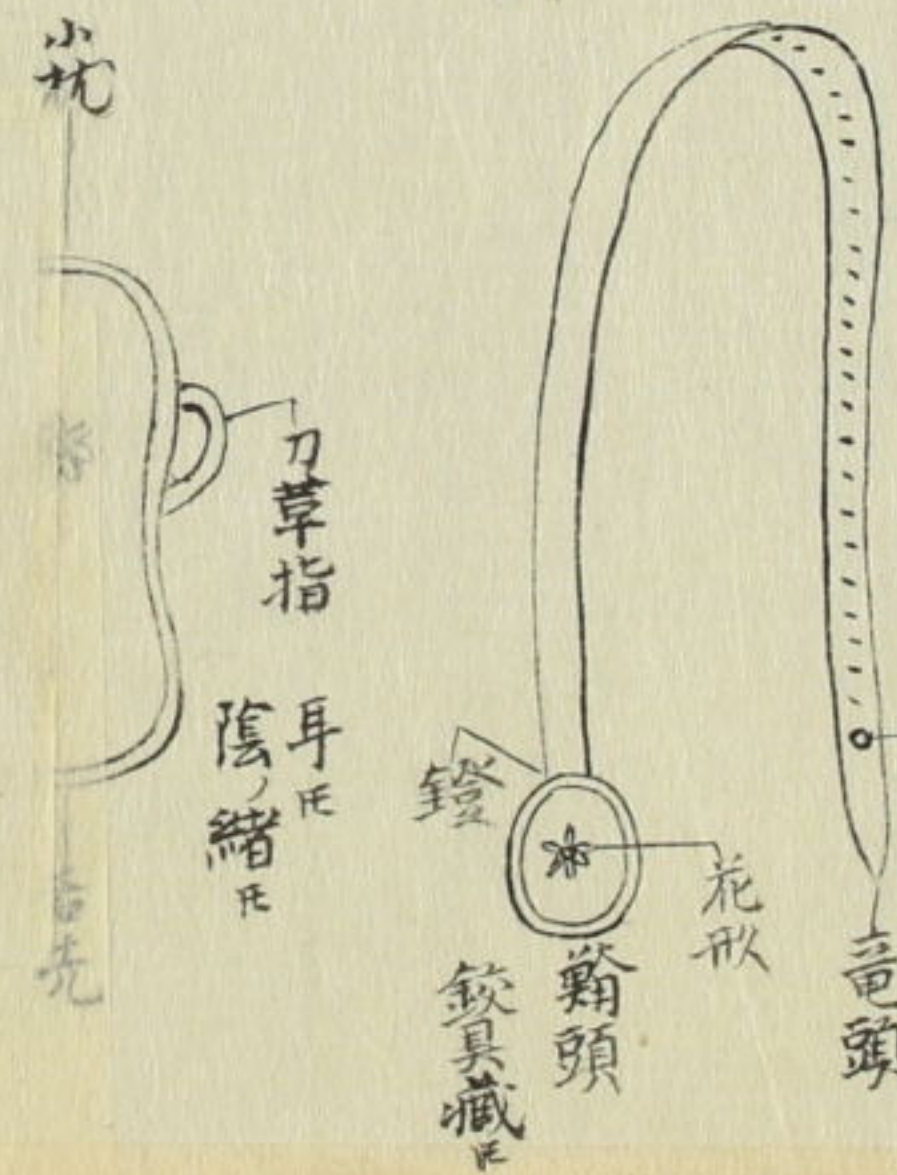
手繩 長七尺寸



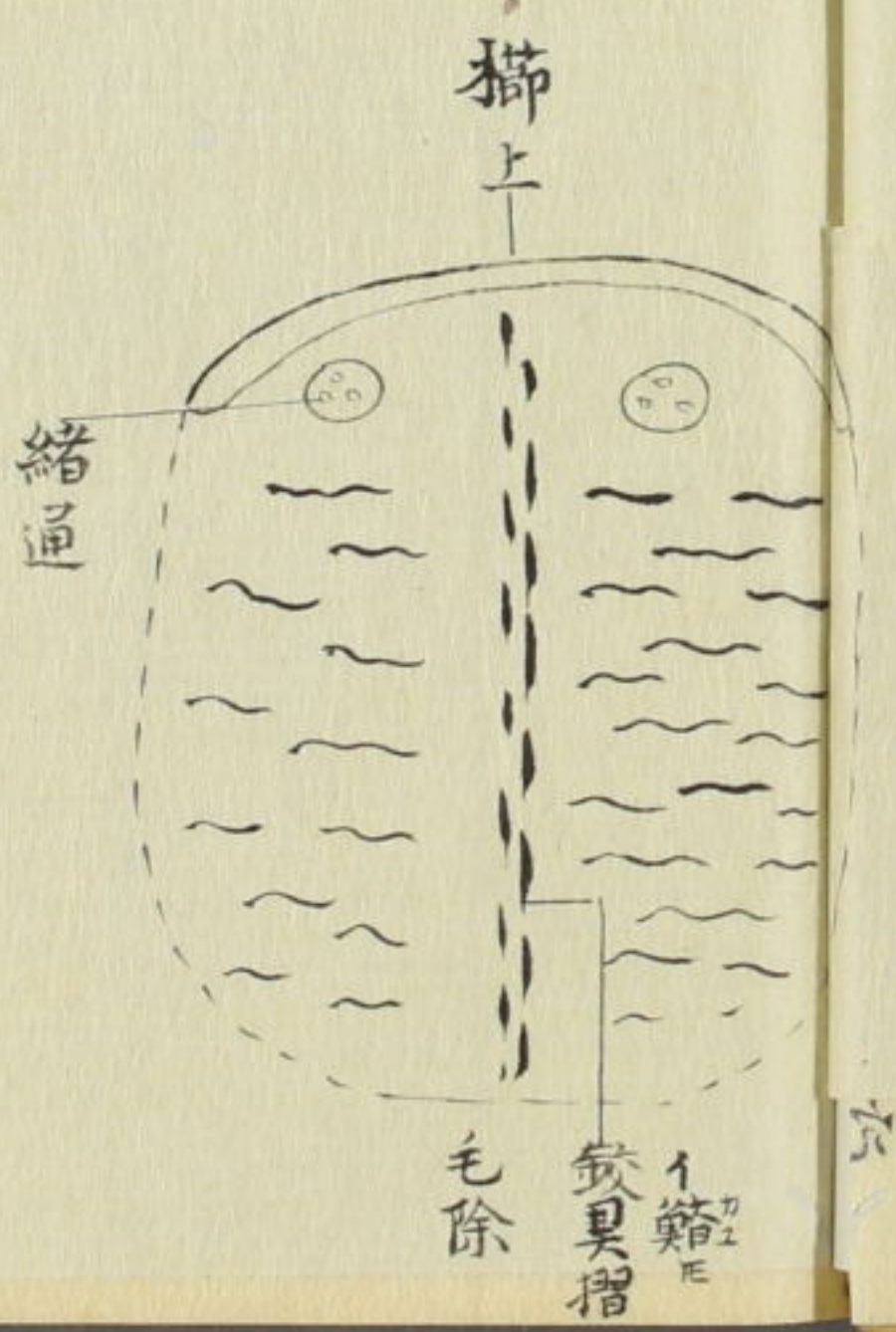
切舟 轆シククラ



刀草

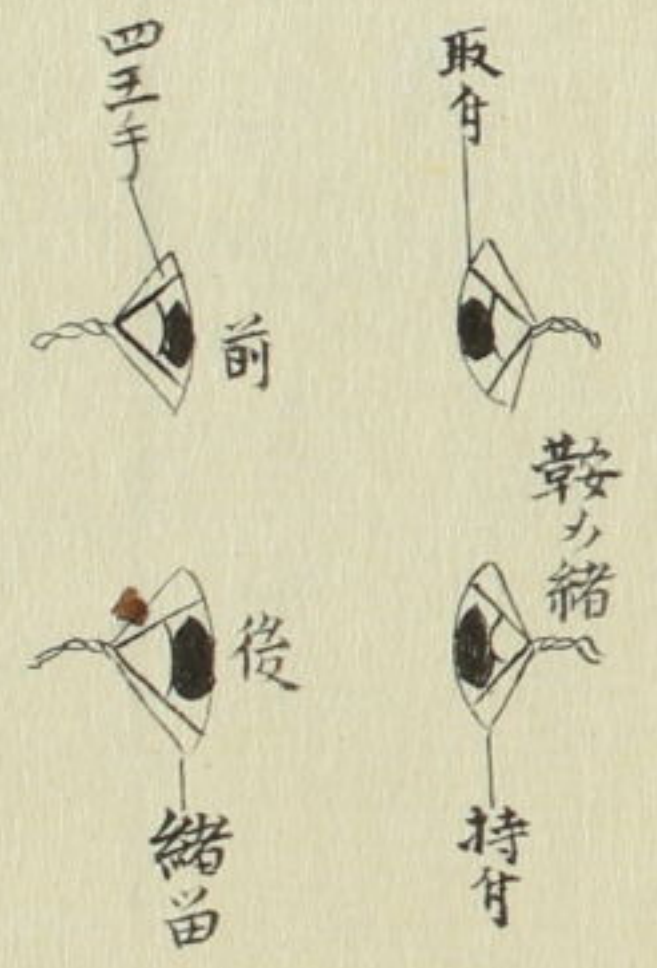


馬轡



泥障

鞆四方手  
塩手尾



馬具温奥卷

一  
七尺寸 九尺 九尺三寸  
六尺七寸 先大立立流流滴滴とと目  
及及世世志志何何深深柳柳梅梅小小鳥鳥ののも  
切切のの紫紫波波引引のの深深天天守守ののり  
祢祢海海小小引引のの深深とと世世系系とと表  
故故りりととししととしし

一 後帯 七半

七尺守 九尺守

一丈二尺詩 一丈三尺

一 手鑑 七半

一丈三尺

一 三尺繩 七半 草又ハ麻と以作

一 止鑑 七半 引指繩 七半 繩

一丈六尺 二丈六尺

又二丈八尺

一 口指繩 七半 又ハ中間

二尺之右の繩 七半 和

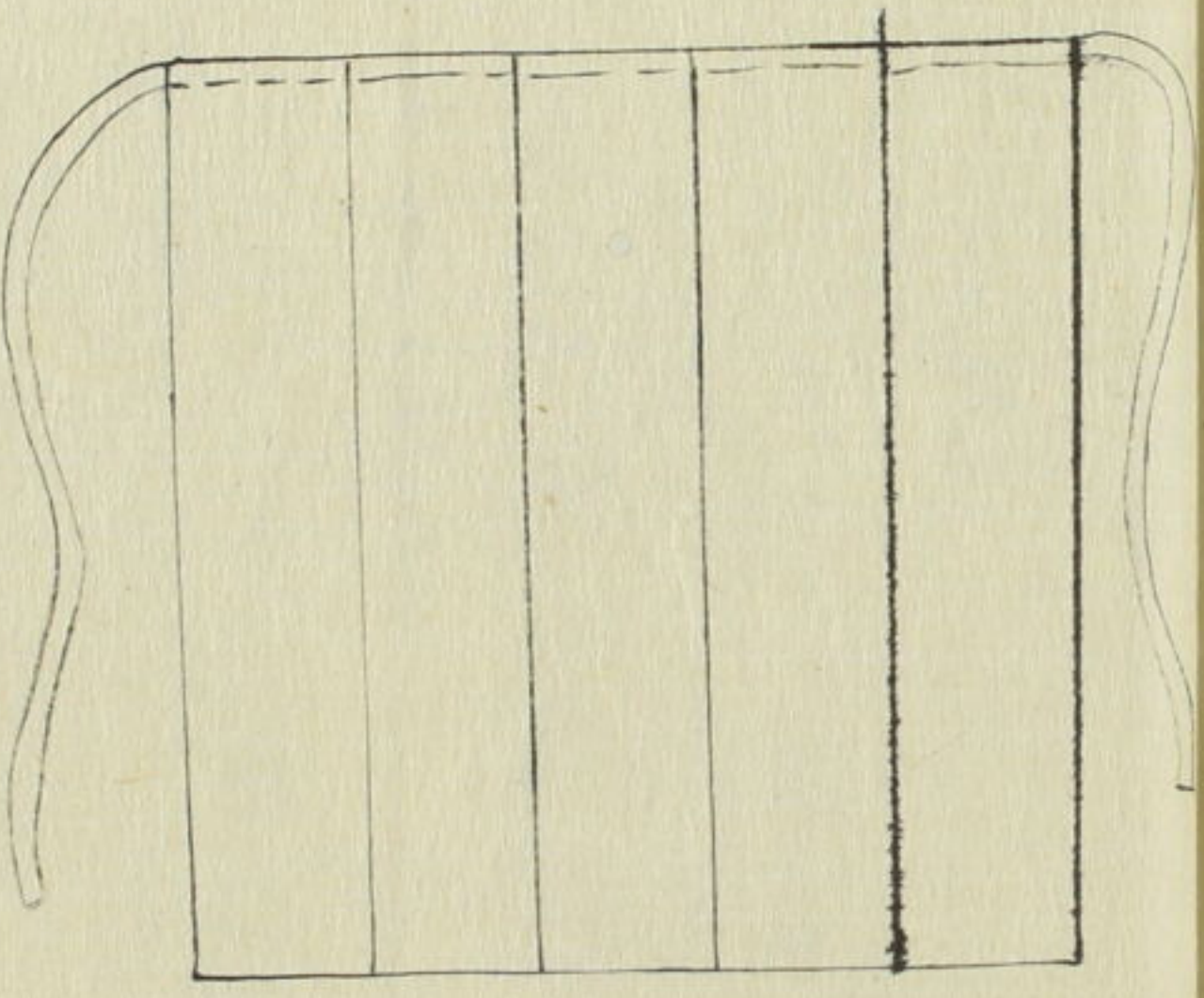
一 馬指 七半

四尺守 六尺 六尺守

織物深物 七半 下

野ハハ野 七半 九

目也



一 後帯 七半

布二幅 七半 白乃交合 七半 方

分一尺八寸 七半 長ハ馬 七半 依

上ハ一巻 七半 中ハ 七半 七半 七半

なり 七半 七半 七半 七半 七半

七半 七半 七半 七半 七半

七半 七半

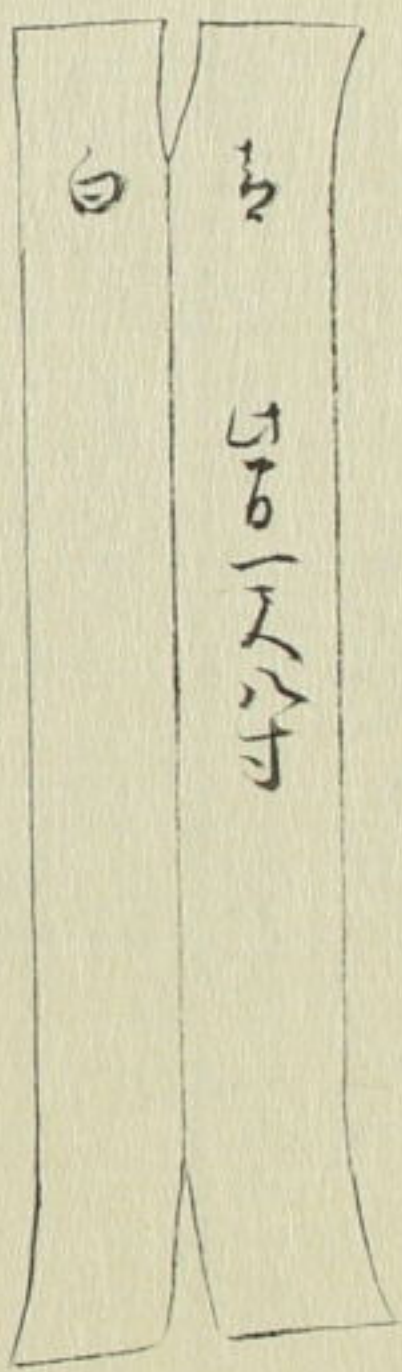
青白の折交

絆網ひき韁な鞆な

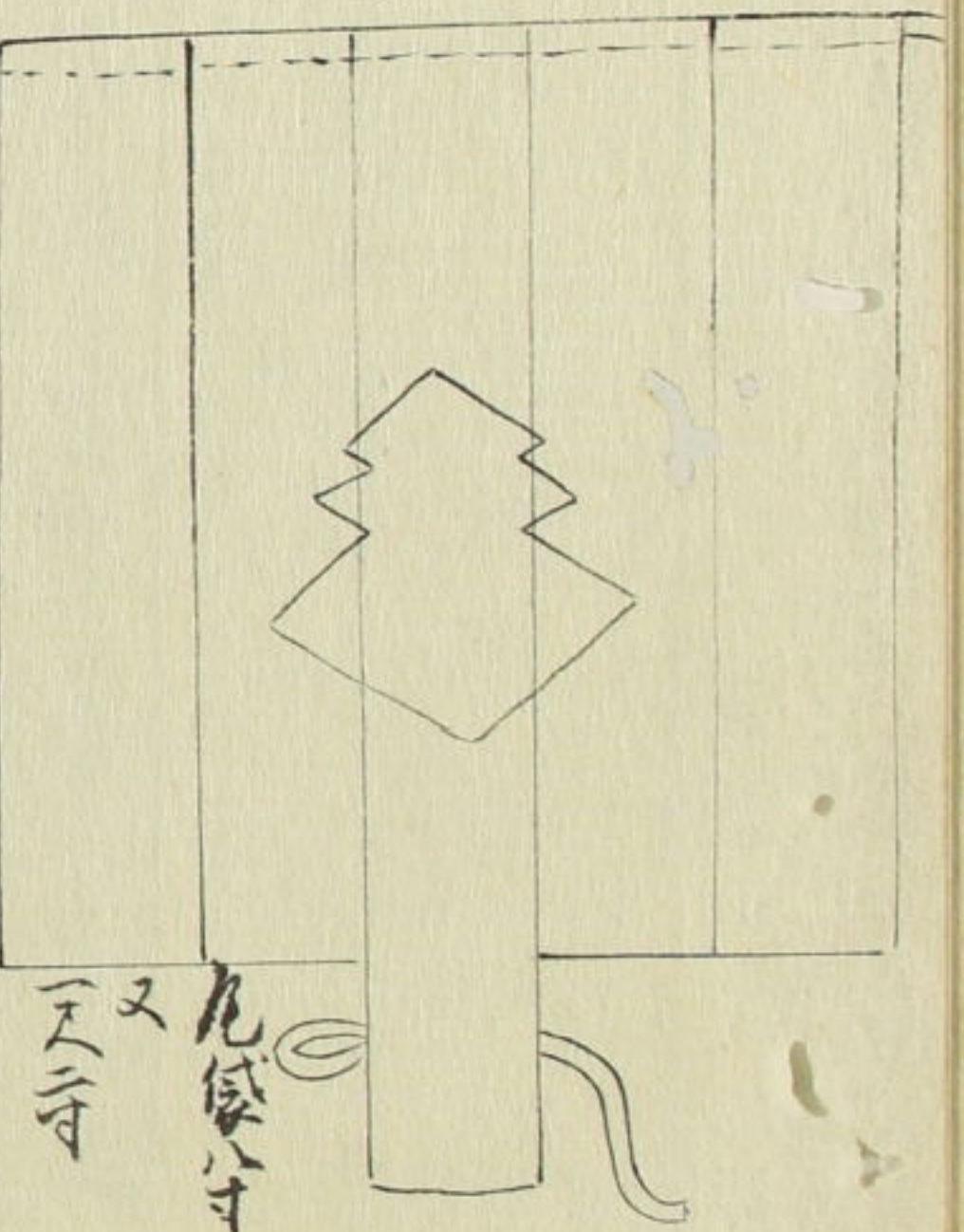
一馬うま籠かご串くし

七尺しちせき守まも

八尺はちせき但草たにくさ麻繩あしなづな



又また白しろ一尺いちせきと一尺いちせき

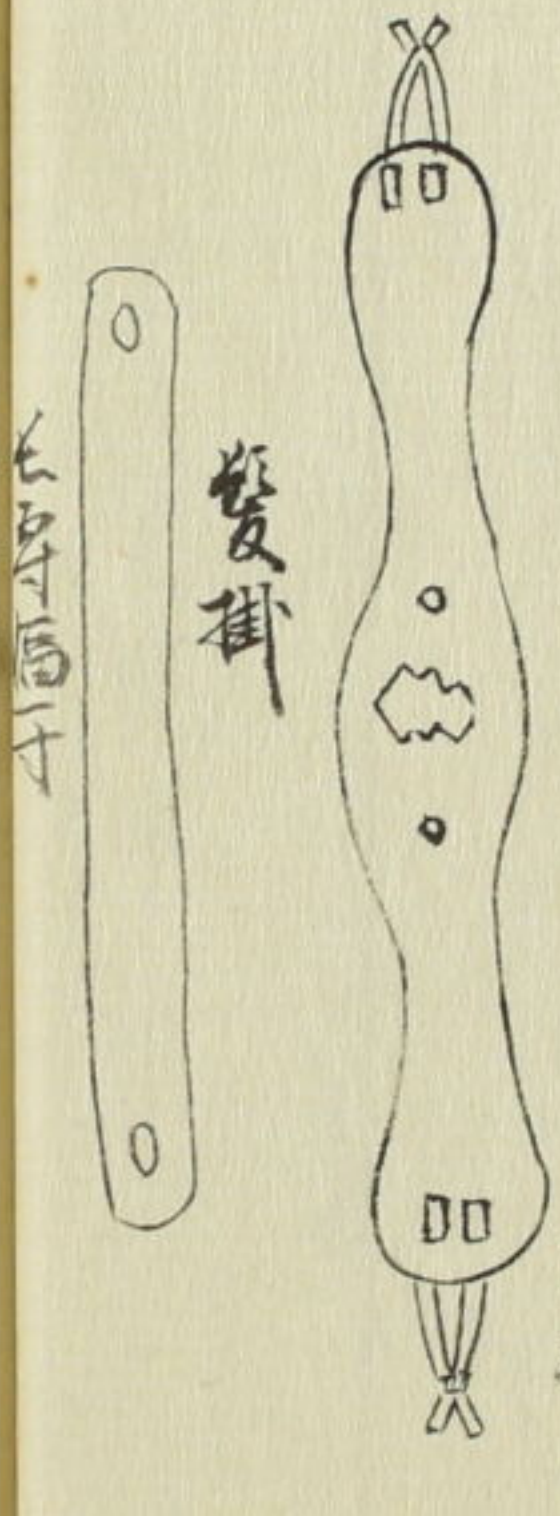


又また九尺くせき八寸はちすん

鞆たもと修しゆ織オリ紵な帶おび

一泉草いづみくさ串くし

三尺さんせき八寸はちすん廣ひろ二寸にすん五分ごぶん



髮かみ掛か

いすしはさき  
そりなすけ

一馬うま櫛かみ串くし

大長おほなが六寸むいすん四分よんぶん

廣ひろ二寸にすん二分ふぶん

齒は敷しき土つち

齒は敷しき長なが三寸さんすん分ぶん

中長ちゆうなが守まも六分むいぶん

廣ひろ二寸にすん八分はつぶん

齒は敷しき九

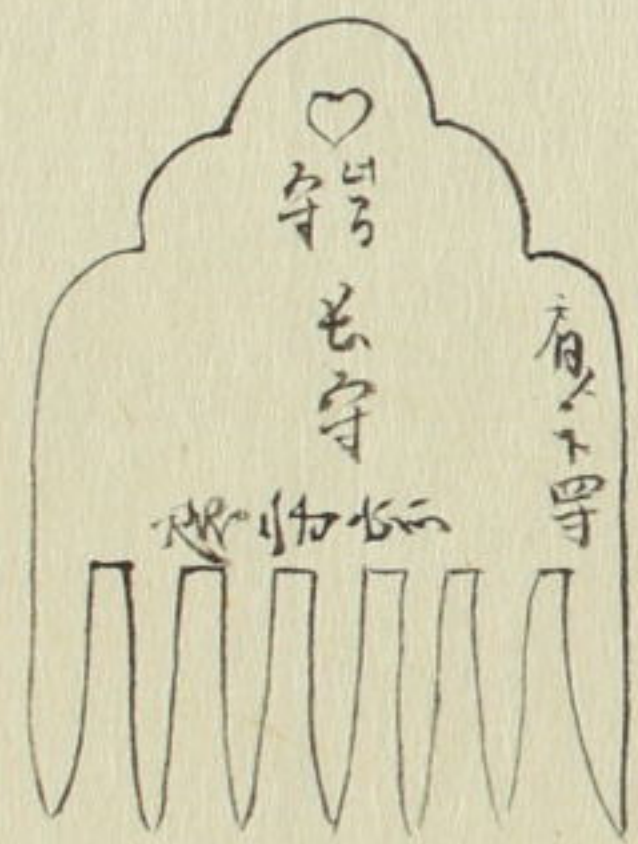
齒は敷しき長なが三寸さんすん分ぶん

小長せうなが守まも

廣ひろ一寸いちすん六分むいぶん

齒は敷しき七

齒は敷しき長なが三寸さんすん分ぶん



一項いちよう狹せま串くし

大長おほなが二尺にせき守まも

中尺ちゆうせき又また五分ごぶん也なり

小守せうまも是こゝとこゝ毛け取と使つかひひ



一 爪折刀之事

大長七寸五分

柄長六寸

中長六寸五分

柄長

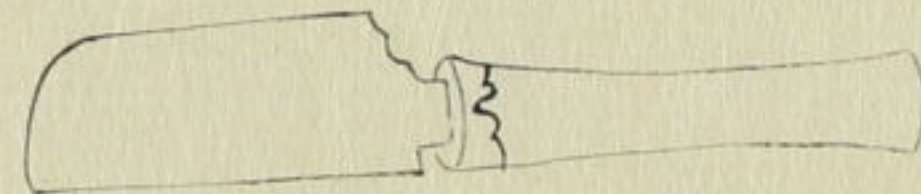
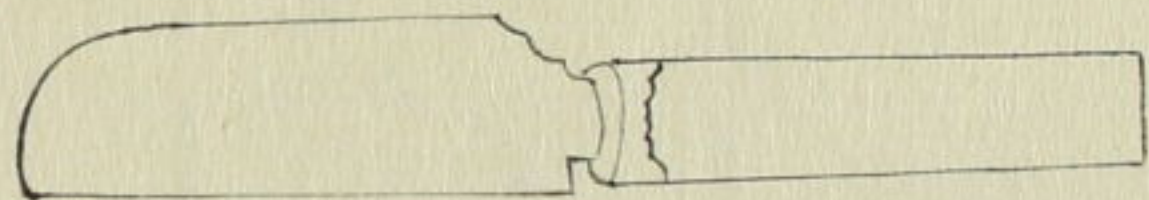
小長五寸五分

柄長三寸五分

廣三寸五分

廣三寸

廣二寸五分



一 雁取刀之事

長四寸五分

柄長八寸

廣一寸七分

一 狸搦之事

長六寸五分

又長三寸

角楡木又竹之も作結と下



一 爪折槌之事

大長六寸

木口三寸

柄長

木口下八寸

中長三寸八分

木口二寸八分

柄長二寸二分

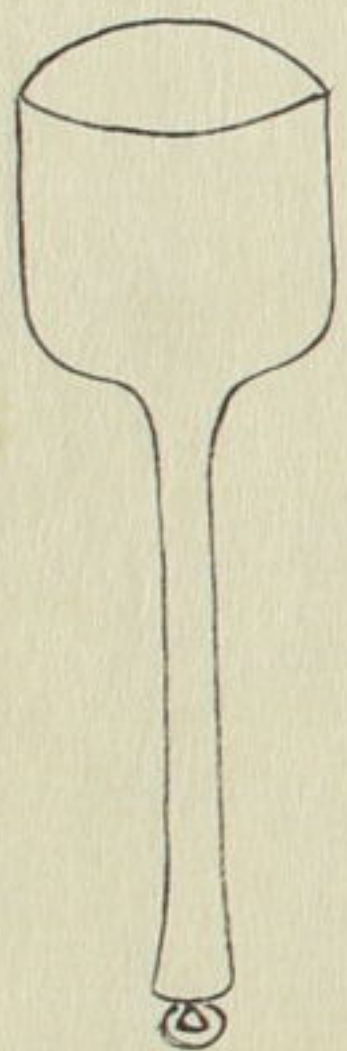
木口下八寸

小長二寸五分

木口二寸五分

柄長一寸五分

木口下八寸



一 爪折板之事

長二尺八寸 廣一尺一寸 厚一寸五分

又

長一尺八寸 廣一尺一寸 厚一寸五分

但尾板同前本庄は松切之目より

一刷刀之事 馬刀丸

大三尺二寸 中三尺八寸

小二尺一寸 又三尺二寸五分

但長七寸三層 銘長一寸

一刷茶之事 長二尺六寸中浅拵一

一濡布之事

長二尺一寸

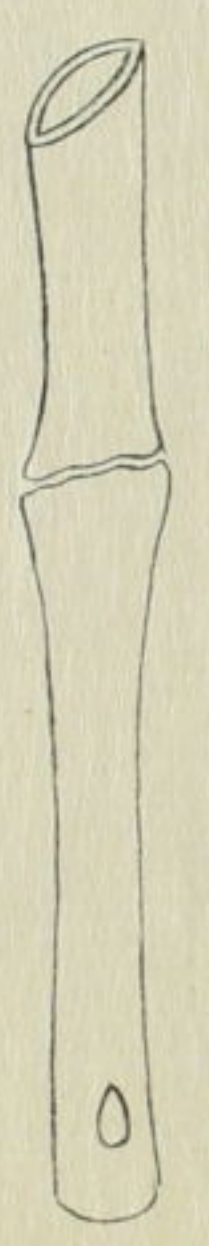
一茶筒之事 長二尺二寸 茶込守 下七寸

長一尺 茶込守 下守

長八寸 茶込守 八分下守

何七節と廻り切寸六分

竹厚 一分余



一白晝拾之事

長二尺三寸五分 書八分五分

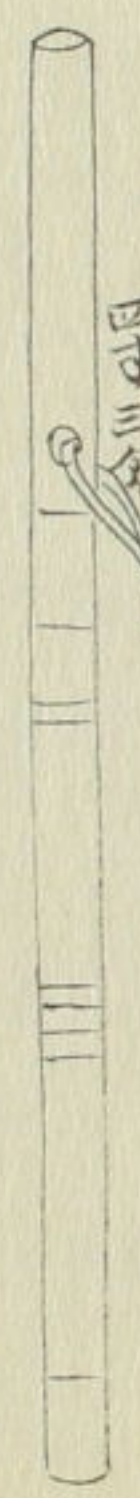
長二尺 本口一寸

長一尺八寸 本口一寸

六角八角より一寸一銘の也二尺

尺倍

四寸五分



一馬柄物之事

長一尺一寸五分 廣一寸五分

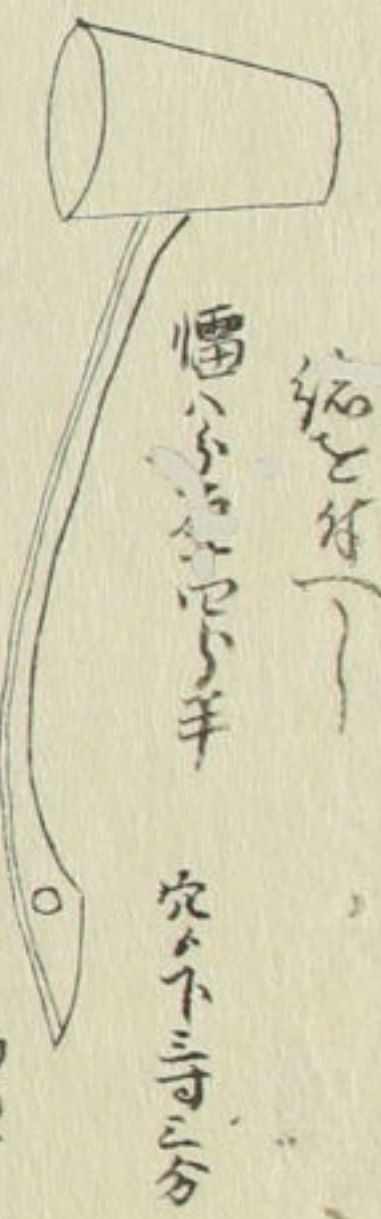
深一寸五分 柄一尺一寸

長一尺一寸五分 廣一寸五分

深一寸五分 柄一尺一寸五分

長一尺一寸五分 廣一寸五分

深一寸五分 柄一尺一寸五分



柄と付一

幅八寸五分

穴六寸五分

厚二寸五分

一馬舟之事

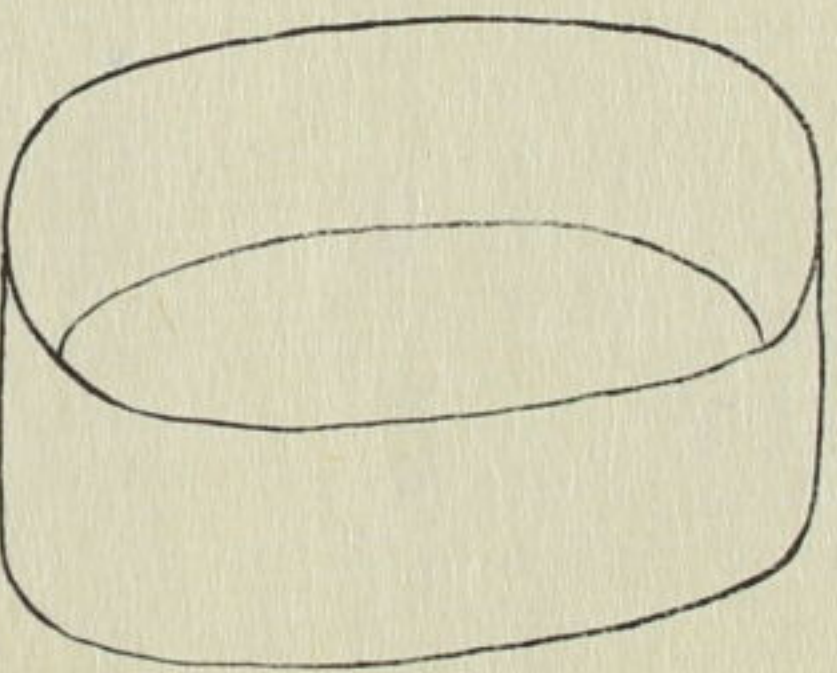
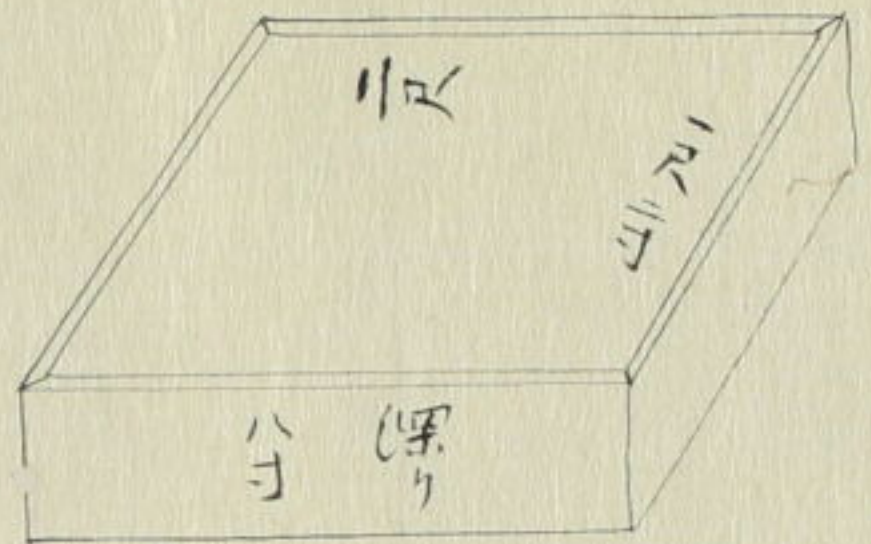
長三尺 廣一尺二寸 深八寸 厚二寸

外亦同是造一

又

長三尺二寸 深七寸五分

厚二寸 能九寸五分



一楯盤之事 長三尺二寸 廣一尺二寸

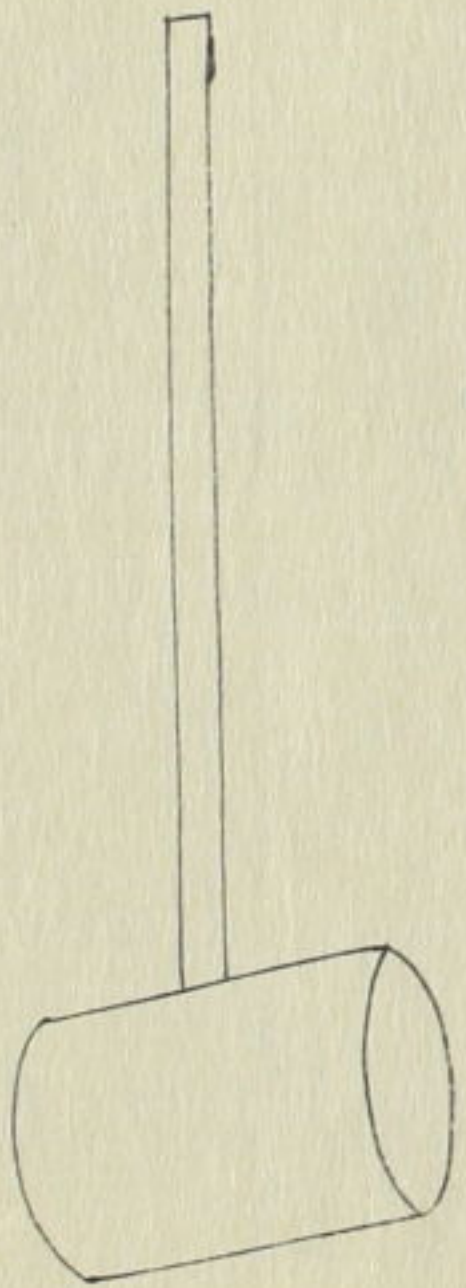
深一尺二寸 厚一寸

一湯柄抄之事

長一尺二寸 深七寸 柄九寸五分

一湯柄抄之事

長一尺二寸 深七寸 柄九寸五分



一引竿之事

長八尺二寸五分 又三尺二寸 但馬舟造

穴と内子挽と造一引一

丸行と造一

一尺柄之事

長一尺二寸 幅二寸五分

厚六分



長一尺二寸

長一尺二寸

本六段本又六寸本又五寸一

櫻狩之卷

凡櫻狩ト云馬術之名目者其初  
異響ヲ起レリ長安都方千里  
花盛ニ咲孟東谷云人馬トテ  
一日四方ノ花ヲ見尽スニヨリテ  
櫻狩トイエリ此馬術ハ兼安年中  
武田太郎信義如ク義次郎遠光  
其子長清ノ家傳リ遠路ヲ乘  
秘術トス武田結尾金ト云當流  
櫻狩ト名付代々嫡傳トス者也此  
長清ハ頼朝卿之弓馬ノ師範ナリ  
櫻狩ノ手綱ト云ハ遠路ヲ乘往  
馬ニ息ヲサセ馬ヲ勞ラカサス  
衆取ニ響ノ銜ニ息ノ切ナル策ヲ  
縮ニ包結付テ所々ニテ馬勞ル  
思フ取助策ヲ口エ水ヲ吞スルナリ  
口傳サテ衆取ハ地道ニ十町程乘  
テ左ハ廻レ乘足ニ五町程乘右ハ

廻レ乘出シ地道ニ十町程左ハ廻レテ  
ハラハウトニ町程掛散シテ右ハ廻シ  
テ乘出シ地道ニ十町乘右ハ廻シテ  
ホロホロ足ニ掛散スヘシ如此平地  
ナラハ所々ニテ輪ヲ乘廻シ乘ヘシ  
又上下リノ坂道モアラハワラ折ニテ  
手綱ヲユルシテ乘ヘキニ少モ足  
立ノ悪キ所ニテハ靜ニ乘所々ニテ  
引口ニ退ケテ息ヲカセテ乘往  
ヘキナリ川前ニテハ何返モ輪ヲ  
乗テ後川ニ乘込ヘシ口傳アリ

春凡得時馬蹄疾

一日見尽長安花

荒駒乃末息入奴其先尔

関濃清水尔影於移須奈

右詩哥心口傳アリ馬法門ニ馬ニ  
三段ノ汗アリ一ニ口ニ三三足ノ  
竜ノ毛ノ汗ニ若竜ノ毛ニ汗アリ

ラハ大キナルツツレナリ其夏ツケテ乗  
夏ヲ止ヘシ

一千里ヲ一日ニ乗リ往テ馬足瀆ノ  
兼テ塗ナリ馬ハ行程日ニ七十里ト  
イヘ氏乗ヤウニテ千里モ往ナリ  
息合テ竜化シテ仙人ト成テ長  
良ニ傳ヘル黒蛇丹ヲ用ヘシ其方  
左ノ如シ

黒蛇丹

一鳥蛇ノ生タルヲ取酒二年ニ金

箔百枚酒ニ合セ鳥蛇ヲ入一宿

置土瓶ニ蛇モ酒モ入テ黒燒ニテ

抹ス

一辰砂三兩水乾シテ抹ス

一人參二兩人形タルヲ芦頭ヲ

去抹ス

一耳草一兩節ヲ去抹ス

一竜腦梅華各一兩

一阿仙菜一兩其依

一熊胃二分水ニ摺立入ル

右ノ粉菜ヲ口子合練テツホニ入

テ持テ馬ニ飼トキハ一錢程給テ五

重包丸クシテ銜ニ付ルニ同梅子ノ

肉ヲ二兩加ヘテ摺合スルモヨシ常ノ

息合ニハ梅干一味モヨシ

右一卷者當家代々嫡傳之

秘夏也奴カ々嫡子之外不可

有相傳者也

天文十年

八月二日

小笠原修理大吏

長棟

永祿五年  
正月十日

同 大膳大夫

長岐

岩村 意休

重久

小笠原 河内

知成



講尺書

一 貴人ノ御前ニ可ル麻蘇鼻紙  
 布等アリ置テ貴人ノ馬ニ  
 乃回ト通シ其馬ノ何ト通シ余  
 借貴人ト内ル始ヤテ二道  
 右左三區アリテ一ト是ト左ノ  
 裏衣トイフ也其後口合ヨリモテ  
 右左アリテ一ト貴人ト馬ト  
 間ト通シ事ト前渡ト云云  
 一 乘ヨリ其時前跡三區乃加杯ト云  
 事ハ乃川馬ハ移リ馬ノ何カ  
 馬ハ之足ホハ尼ク且川名  
 三河ト云也兼ク是ト一ト  
 一 手綱ハ是ト三筋也云事モ  
 其行草乃三河手綱ノ長ト  
 一ト即入ハ是也二トは乃手綱也  
 八人等モ是手綱也是ト是ノ  
 事モ其乃川乗ホ其時其付ト云

一 手綱一 是ノ手ト手綱是ト  
 其カハ乃川ト見ルモ其付  
 即入ハ是ト沙ク一ト也是ト  
 是ノ手綱ト云一ト其行草  
 同也也其ノ手モ其付ト云  
 長ノ位ト首一ト借貴人ノ前  
 行ト云云其乃手綱ト云一ト  
 是事カ一ト同草ヤリ其長  
 綱カハ是ト其也一ト先手綱  
 是レ乗ク其乃其ノ手ト云一ト  
 同也其乃手綱是ク其乃  
 乃其ノ手ト云一ト手綱ト云は是  
 其乃其ハ其乃其ト云其乃其カ  
 同ト行カハ其乃其ト云其乃其  
 一ト其長一ト其乃其ハ其乃  
 計立一ト是ト其乃其ト云一ト  
 一ト乃其乃其始ク其乃其  
 其乃其乃其ト云其乃其乃其

どう入眼之、乃心懸はのり  
すりのよちく心懸こそ馬よ  
持ち小曲乃心かち眼言よと入  
披く心懸わ馬よとる魚の  
あつらわち、兼くうさし  
一 辰の事、鞍の内乃二三の  
内の二三、控の二三と二三、  
而も也先、のりてき、さる  
二三の、つてかひ、は、あり馬、宗  
え、の、内、は、は、は、は、  
波、の、内、は、川、を、な、め、う、と、  
有、は、馬、の、河、ゆ、む、川、を、合、を、兼  
事、ふ、つ、  
一 志、の、り、事、最、中、と、か、  
花、の、馬、よ、一、た、は、は、は、  
む、の、事、也、中、の、む、き、あ、る  
方、の、内、亦、乃、ま、れ、首、を、あ、ら、  
五、つ、と、  
一

一 諸、き、れ、ん、を、口、と、母、上、馬、お、は、ら、  
よ、の、か、く、わ、い、ん、と、ま、  
三、乃、心、懸、肝、要、也、か、ち、あ、ち、れ、つ、  
板、の、魚、  
一 うち、起、し、こ、は、馬、の、心、合、知、  
う、内、を、ち、と、こ、う、は、か、  
智、知、の、ま、上、う、ら、  
魚、を、ち、と、あ、い、と、  
ま、れ、と、た、の、魚、と、お、記、  
一 乃、心、懸、よ、ま、  
一 亦、懸、は、地、道、う、山、ま、  
さ、ま、と、か、り、  
ま、と、角、う、  
ち、り、  
一 浮、志、の、心、懸、馬、乃、心、合、能、時、  
こ、れ、  
口、合、も、  
さ、は、

宗の弟は徳と云ふと云ふ事なき  
川を脱出

一角をかくるふ之段の時と有  
口高きは下段の時と有。中野  
の事。中野口より河原は上段の  
と云ふ。一角の事あり有

一 石の女を口かたはるふ當に  
角乃口はまはる馬或をかく  
あまするふ事又何しつらや  
その事あはれなると好也。口は  
さかると事也。あつと事と  
知つと事馬とつと事と云ふ

表十二條

一 中野を口川より馬の人の馬  
さかると事。口はまはる馬  
志の事。さかると事。口は  
たつと事。口は先師。口はまはる

の事

一 三段乃は合上只中野を  
事と云ふ。口川より馬の人の馬  
さかると事。口はまはる馬  
志の事。さかると事。口は  
たつと事。口は先師。口はまはる

一 河原は一方よりある事  
事は口を押し。口はまはる馬  
志の事。さかると事。口は  
たつと事。口は先師。口はまはる

一 事の事。事乃内わと事  
事の事。事乃内わと事

此は昔より又調子とし拍子と  
法を何と云ふはあふおのり也  
一 拍の長短を押さへはゆるるふ  
此より何と云ふ也

一 珍の長短は馬の角よりか  
かすか角かかすか海馬  
又何先れゆにれか也よ迄  
一 石舟在舟をき流るふ乃  
かかすか流はちかすかの  
馬かあつ

一 行かすはすれと後かひのふ  
馬より何と云ふか一 貴とて後  
立留まると流るふよよふか  
すのり

一 九朋をけんち道乃てふ  
合心乃何と云ふ又は何と云ふ  
とと云ふ迄也

一 悪豆は阿からむか何と云ふ

一 昔は調子より利拍子より何と  
云ふ利拍子より何と云ふはあふ家  
ありをあり也

一 九合は宗は河満をあら也  
まのりも家也或はひりんは  
馬に喰ひえとあ馬より何と  
云ふか何と云ふ也かけあ  
はと何と云ふ也

一 大曲は川か馬と云ふ也  
何と云ふは角とみ角と云ふ  
角をあらは宗と云ふ一編は  
い程は馬より何と云ふ也

一 小曲は川か馬と云ふ也  
何と云ふは河より何と云ふ  
あふ一 立と流るふもあ  
一 揚かすは宗より何と云ふ也

一 何と云ふは宗より何と云ふ也  
何と云ふは宗より何と云ふ也  
と云ふは宗より何と云ふ也

一 豆切了は馬阿の川に  
 せよあふひて海客の  
 物かたし河かちまき  
 かつまか利まき細道と  
 けおとふ利  
 以上十五條

舞態十七條と稱え能く能く  
 可有者也自ら之程古の  
 一十九七七條と下化於油  
 断る由思ふ難叶き

小豆原美徳

長高

日 氏歌斎

長棟

日 大腹丈

長足

天文四未  
 十月廿日

馬法禮 梅

一 馬ヲ牽出掛御目様之事 兼方ノ手綱ノ  
 水消際ニテ輪ヲ取取テ手ニ持右ノ手ニテ左  
 ノ水消ヲ取御亦ニテ馬足ヲ踏採サセ我カ右  
 足ヲ踏出初ニ正面ヲ見セ次ニ兼方次ニ尾  
 尾ヲ見セ本ノ如ク押戻シ兼方ノ見テヤウ  
 ニ引込ナリ左ハ御所望ナケレハ見セ又者ナリ  
 能く心得シ

一 馬清取渡更右ノ引手ニ輪ヲ一ツ取左右ノ  
 手綱ヲ左手ニ持右手ニ手綱ノ末ヲ取  
 馬ヲ右ニテ我カ背ヲ馬ノ肩ニ當テ渡ス  
 一 其取請取人右手ニテ手綱ノ末ヲ取  
 左手ニテ引手ノ輪ノ処ヲ取ナリ手綱ヲ  
 取取ニ上手下手ノ礼アリ 貴人御座候下  
 キハ貴人ト馬ノ間ヲ通カラス馬ノ後ヲ  
 参渡ス人ノ右ノ向ハ羨寄ニ清取ニテ両手  
 綱ヲ分テ左右ニ輪ヲ取馬ヲ引出ス様ニシテ  
 左ハ突廻シ中間ハ渡ナリ馬ニ附未嘗馬縮  
 ハ先ハ返ス但馬縮ハ返サズ又モ右又白草  
 添来ル然ル故ニ白草草錢トテ先ヨリ来

ル中間(各目云百疋給ハル作法)

一 主人ヨリ拜領シタル馬御中間牽テ參渡片侍出テ借取更本ニ自身借取更モアリ其取ハ手綱ヲ載キ申スニ同輩ヨリ給フ取ハ此方ノ中間出テ清取ナリ馬役ノ侍未レハ此方モ侍出テ請取ナリ

一 鞍置馬掛御目更正面計見セ申法ナリ所望ノ取ハ四方ヲモ見セ申シ

一 鞍置馬進上六御代替御成ノ取神馬智引出物軍陳狩場等ノ遣スニ塩手ノ四所ニ緒ヲ付ルニ口傳礼ヲ申ストキモ馬計ノ礼ヲ申スニ馬具ノ礼ヲハ申サヌ

一 懸ノ内ニテ馬ヲ掛御目更鞠垣ノ内(牽入又言正面向ノ向ノ口ヨリ四本懸ノ真中(ヒキコミ見セ申ス(シ一ニ面ニ右ニ尾四ニ裏也又向参リ本ノコトク馬ヲ入ル)

一 懸ノ内ニテ馬諸取更渡シ請取様常ト尋見更ナシ免角何ノ所ニテモ馬ト御前ノ間不通ト心得(シ最前馬ノ入タル様ニ参リ請取タルヨシ懸ノ内ニテハ假深ニモ軒ノ前ヲ一文字ニ通ヌ者也

一 手綱指タル馬掛御目更別義ナシ御取ヒキ出レ取ハ手摺ヒニモ不苦手綱ヲ取人ハ上リ手綱ヲ取人ハ下手ニ手摺取ヤウ馬ヲ後ニス(カウヌ抱ク様ニアル)

一 祝言ノ馬見セヤウ別義ナシ退足ヲス(カラス面計掛御目更(押廻シ入ル)其外ノ所ハ取望各別ナリ陳中ノ馬モ退ケヌ(前ハ進カヨキ)

一 馬上ニテ腰ニ差タル策ヲ拔更左右ノ手ヲ後(廻大指ヲ我身ニ添鞭先ヲ我前(押シ廻シ抜ニ持ヤウ如常緒ヲ手ニ扱入ヌ)

一 馬上(策上ル更右ヨリ上ル取ハ九ニ取柄七寸下ヲ腕板ヒニ持添右ニテ策先ヲ持上ルナリ左ヨリ上ルニハ右手ニ持左手ニテ馬ノ口ヲ取テ取柄ヲ前輪ノ方(出ス)馬ニ見セ(カラス

一 ハタセ馬ハタカ馬ト云詞馬屋ヨリ鞍ヲ不置ニキ出ヌヲハタセ馬ト云責タル馬ノ鞍取タルヲハ裸馬ト申合ル也

一 主人馬ニ召ル時鈴ヲ可抱更九ニ廻リ馬ノ首本ニ寄添左手ニテ刀草ヲ持右手ニテ鈴ノ紋狭間ヲ持ナリ

一 主人馬ニ召ル時鈴ヲ可抱更九ニ廻リ馬ノ首本ニ寄添左手ニテ刀草ヲ持右手ニテ鈴ノ紋狭間ヲ持ナリ

- 一 馬上ニテ鷹匠ニ逢タラハ我カカカ(馬ヲ亦退下馬ス)シ勿論皆モ脱(シタト)鷹ハ(ハ)ス凡狹見ユルカ餌代衣ヲ付タル人ノ出来ラハ下馬尤ニ
- 一 馬上(酒進ムル夏鈍子ノ上ニ土器ヲ据テ手ハ廻リテ水附ヲ取鈍子ヲ差上テ土器ヲ執セ申ス)シテヲ持レル人ニハ馬ノ手ヨリ右ノ如クトラセ申御酒モ一杯盛ス八方ニ盛(シ)聞召シ候ハハ又桃子ヲ差出シ(シ)置セ申ス(シ)
- 一 馬上(弓矢止レ支テ手ヨリ上ル品ニツ有テヨリ上ケカクキ取ハ右ヨリモ上レ也口傳)
- 一 鞍入ノ供ニ猿毛馬不用鞍モ海ナシヲ不用響言ヲ嫌フ(シ)野髪ヲ本トス
- 一 旅宿ニテ亭主(馬ヲ遣フ取ハ繫ナカラ断ラ申馬屋ニテ遣ス)
- 一 馬屋ニ馬立ル吉又春夏ハ賞哉ノ馬ヲ口ニ立(シ)秋冬ハ奥ニ立ル見ル取モ此命(シ)
- 一 葬礼ノ供馬ノ支テ能能テ嘶カセテ様ニスル也嘶ケハ跡ヲ引ト云云
- 一 馬ノ焼印ヲ馬生ノカ子ト云定故ノ印ト云ハ目結雀ノ度(シ)是南部一ノ戸ヨリ出ル(シ)彦間立ト云印モ遠アリト心得(シ)

- 一 湯洗スル片春ハ申夏ハ亥秋ハ寅冬ハ巳此方(向)湯洗ス(カ)ウス向ノ吉方ハ春東夏南秋西冬北是ヲ吉トス
- 一 馬屋ノ灯ヲ燈明ト云三間ノ馬屋ナレハ上旬ニ春夏ハ馬屋ノ口ニ燈ス(シ)中旬ハ中也下旬ハ奥ニ灯ス也秋冬モ馬糞ノ次才ヲ以テ心付(シ)鞍并領ハ前輪ノ乗方ノ尻ニ手ヲ添頂載スル(シ)
- 一 鞍并領兩手ニテ鳩胸(掛御禮申スナリ)載キハセヌモ(シ)
- 一 葬礼ノ取ニ鞍ヲ舍人(渡シ置ヌル取ハ後輪ヲ先(シ)テ渡シ常ニハ前輪ヲ人ノ方(スル)取テ吉礼也
- 一 泥障ヲ外ニ敷申取ハ乗方ヲ外ニ敷セ申スナリ
- 一 鞭ハ熊柳本也長サニ尺七寸五分也鷹權ノ尺ニ非ヌ取ノ定ニ非ス我カ手ノ定ニ此内取柄ノ分三寸ニ緒通ノ穴ヨリ上ノ長サ五分ニ緒ノ長サ手(扱)入ヌ尻手ノ入程ニ緩々トシテ兩方ノ緒ノ先ヲ締ニシテ鞭結ニス(シ)直草室珠取アリ

一 取柄ノ草ノ夏何草ヲモスル也其内獅子丸  
ニ薰ハタル草ハ御免ナケレハセマシ紫モ上輩ニ  
黒草通用ス緒ノ草モ取柄ノ草ト同草ナ  
スニ取柄モ緒モ糸ニテ掛縫ニスニ何鞍モ取  
柄アルカ本ニ

一 竹根ノ筥ハ節扱ヲ半ニスルニ先ヲハ節ニ  
ノ間ニテ切ツシ如此スレハ二尺七寸二分シカトアリ  
カクシ其トキハ五分三分ノ遠ハ不苦ニ

一 紫竹ノ策將軍家ニ御用ニ平人ハ持事  
ナフナリ

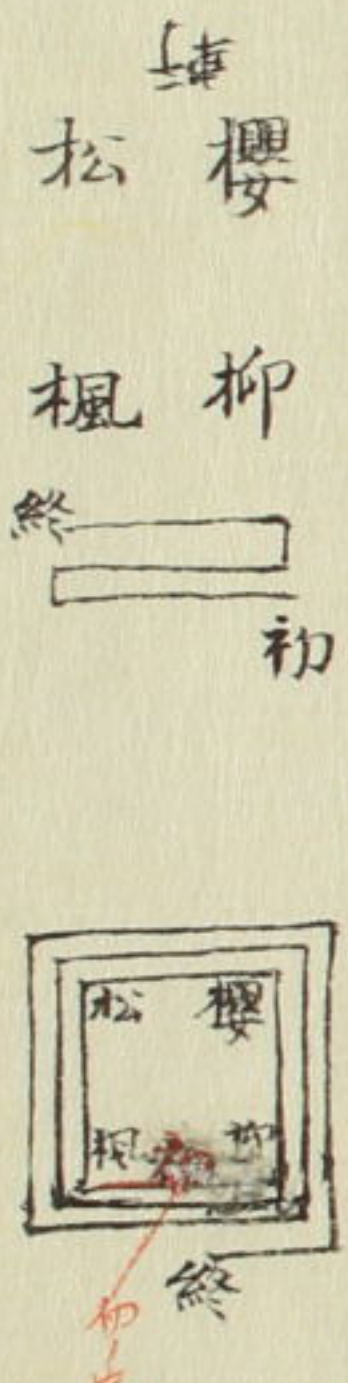
一 総鞍ノ夏公方様御用ニ昔ハ平士不用紫上  
紅次緋糸トシ近代平士モ通用ス

一 御前ニテ馬場乗ノ夏馬ヲ御前ニ引向貴  
人ト馬トノ間ヲ不通馬ノ後ヨリ廻リ卒夜  
ノ側ニ美寄夜寄ノ強弱靴ナトノ堅サ緩サ  
ヲモ見テ乗シ乗テハ刀草ノ長短四寸ニ  
寸ヲ計ヒ手細ヲ先ニ細ノ右手ニテ袴ノ下  
ヲ前ニ引取トク鞍直リシテノ手ノ上下口ノ  
差知ヲ察シ顔持カヒト喉トクホミトノ間  
指ヲ能伏テ四寸ヲ用エ馬過ルト思フハ方  
心ヲイヨク以テ静ニ馬ノ両耳ノ間ヨリ先ニ

間計リ見ル心シテ先地道ヲシツクト五及モ  
三及モ亦廻スニ御前ニ参リ俵ノ初一返ノ  
取御前ノ方鑑ヲ平度跡外ニ心得ナリ是  
ヲ鑑ノ礼ト云馬場末ノ廻ス知ニテ貴人御座  
ル方ヲ後ニテ又様ニタカレ遠ハ乗ニ逸見  
武田方ハ馬場ノ本末共ニ順ニ廻ス當流ハ馬  
場本ノ隅ノ口ハ順ニ廻シ末ハ逆ニ廻スナリ是  
ハ嫡子庶子ノ分別也

一 主人ノ御後鞍(乗片ハ鑑)手ヲ掛テ乗ナリ  
是載心ニ馬體ノ赤拂岳モスルニ

一 掛リノ内ニテ乗様先鞠垣ノ内(入宿正面ノ方  
ニ引出シ御前ノ方)向テ如常乗四掛ノ内(一  
不入レテ向ニテ一文字ニ三返計ホ返ヌ)皆本  
ヲ乗シ望アラハ順ニ引廻シ又三返乗テ本ノ  
如ク貴人ノ方ニ向ヒ乗納ニ



一 四季ヲ司ル本ヲ除棄ヤウノ夏春ハ櫻ヲ除其  
外ノ三本ヲ順ニ三返ホ廻シテ置ナリ其ハ柳



秋ハ楓冬ハ松ニ是ヲ除棄シ皆松ナレハ春ニ東  
夏ハ南秋ハ西冬ハ北此方ヲ除棄シ又雪ノ朝ノ  
庭棄其當季ノ木ヲ除唯一返棄ニサツト跡ヲ  
御覽アルニキ為ナリ

一 神前通ル夏下馬ヲシテ吉然<sup>ニ</sup>供奉ノ取カ  
又馬ツケスゴヒスルカ下馬成カタキ片ハ履タル尤  
答ヲ脱テ神前ノ方ノ鐙ヲ跡外シ礼ヲナシ  
可通ニ又青貝入タル鞍神前ニ社參ニ不用梨  
地ヲ本トス

一 裸馬ニハ侍ハ兼又物ニ中間ノ役ニ主人ノ御  
所望ハ各別ニ

一 策亦様ノ夏鞭ヲ上テ鞭先ニ目ヲ付少溜ル如  
クニシテ虹取ニ折モノ也

一 馬ノ尺<sup>取</sup>尾柳ヲ尺杖ト云ハ惡シ尺<sup>取</sup>尾<sup>取</sup>ト云ハ又  
横ニ尚テ寸ヲ計ル物ヲ分木ト云ニ

一 馬ノ尺ヲ指ニカ<sup>取</sup>一<sup>取</sup>寸ト云ハ惡シ是ヲ尺<sup>取</sup>寸<sup>取</sup>  
足又ト云ニ

一 馬尺ヲハ一寸ニ寸三寸四寸五寸七寸トハ云ナリ  
六寸ハキ九キトハ不謂ニ六寸ノハ五キニ余  
ルト云ニ九寸ウセキニ寸尺云ナリ五尺ノ馬ヲ  
長ノ馬ト云

一 駒ト云ハ五歳迄ノ夏ニサガナレ馬ト云ハ駒ノ  
夏ニ馬ノ歳トハ五又ト此字ヨシトイ<sup>リ</sup>メヲ姿  
ト讀セタリ馬ハ齒數ニテ歳ヲ知ル故ニ又馬ノ  
牧ニハ此字惡シ是ハ牛ノ牧ニ馬ニハ馬生上唇  
カ能ナリ

一 馬ノ赤越ト云夏ハ馬ノ右ヲ云ニ左ノ方ヲ裏  
ト云ニ

一 髪切タル馬ヲ刈帽子ト云ハ惡シ唯カミ切名  
馬ト云ニ又イカ髪ノ<sup>取</sup>トモ云ニ美<sup>取</sup>程<sup>取</sup>延名  
ヲハツカイ髪ト云ナリ大<sup>取</sup>立<sup>取</sup>刈帽子ヲ不  
用ニ人ニヨリテヤリ帽子ト云人アリ不<sup>取</sup>偶<sup>取</sup>夏ニ  
珍<sup>取</sup>衣<sup>取</sup>馬<sup>取</sup>新<sup>取</sup>馬<sup>取</sup>登<sup>取</sup>リ<sup>取</sup>馬<sup>取</sup>杯<sup>取</sup>ト云テヨシ然<sup>取</sup>尺<sup>取</sup>駒  
馬ト云詞惡シ

一 荒キ馬ヲカウハヒ物ト云人有惡シア<sup>取</sup>ラ<sup>取</sup>キ<sup>取</sup>馬<sup>取</sup>ト  
計云カタク

一 是并ト云兼ニ移リヲ云此心得<sup>取</sup>了<sup>取</sup>ル<sup>取</sup>ハ<sup>取</sup>シ

一 斤入ノ馬トハ未兼ノ不定馬ヲ云也

一 馬ノ走ヲ能ト云詞ヲ云人有更ニ不<sup>取</sup>苦<sup>取</sup>詞<sup>取</sup>ナリ  
走カ能ナト云ハ掛ノ古又ニ

一 大馬小馬ニ寄テ詞ノ替ル也故ニ一様ニ心得  
ハカラス

- 一 下路馬ト云々又大ニ限リテ云詞ナリ余ノ騎射ニテハ不謂也掛ハ能馬杯ト云也下路馬ト云ハ長二寸ノ馬也サレ凡人ヨリテ二寸ハ過ル有又一寸ハマクル更アレハ一寸五分ヨキニ下路ト云ハ一寸二寸ノ馬ノ更ナリ
- 一 此ハ抱(ル)ト云押(ル)ト云不謂也但シ主人馬ニ召トキノ更ナリ
- 一 洗曹ヲ拵(曹)云也
- 一 切付肌付ハ掛一昔云一口ト云テモ吉馬ハ口ノ長スル賞哉ニテ一口云也
- 一 鞆モ一昔一掛一口ト云
- 一 不洗鞆ヲ白鞆トハ不謂木地ノ鞆ト云又押掛トモ云
- 一 白臬子チト云詞ハ惡シ臬子リト申カ吉
- 一 血ヲ取敗キハ臥起(レ)ト申スニ繩解申スヲ繩サハキト云也
- 一 鞍置直シ後背杯ノ直ス更ヲハ堅メ直スト云ニ押掛鞆ヲハ仕掛ルト云也
- 一 手繩ヲハ刺取ト云又能ホトクト申スモ不苦ナリ手繩モ刺ト云手繩ノ抜タルハツホ抜ト云手細ハヨルト云ニ

- 一 腹帯ハ疊ト云ナリ
- 一 手細ノ寸七尺五寸ニ但馬ノ長ヨリ五寸七寸ハ長トモ短トモ鷹權ノ寸也
- 一 腹帯ノ寸八尺五寸ニ但馬ヨリ少ノ違ヒハ不若ニ重腹帯ハ一丈六尺ニ軍ニ用ニ又サカチ馬ナリノ背ノ丸ハ腹帯一重ヲ廣テ其上ニ鞆ヲ置ハ鞆不返(レ)テヨシ又中一尺計縫テツハナノ穂ヲ入ル更モアリ背ヲトラスナリ
- 一 手繩ノ尺三尋半ニス(ニ)二尺三尺ハ馬ニ依曆(レ)ニ
- 一 馬指ノ更惣ヲ四尺五寸ニシテ中ノ一節ヲ五尺ニル是ハ尾袋ニ何ニテモ致ヲ付(レ)五節也
- 一 馬屋ノ廣サ七尺五寸板敷三枚半ノモノ也
- 一 尺差ノ更長サ五尺廣サ一寸厚サ六分ナリ此内四尺ヨリ上ノオヲ以テ二寸三寸四キキキトハ定ル也
- 一 諸柄杓ノ更口ノ差深ハ寸二分柄ノ長サ五尺馬場ノ中ニテ尿ヲウケル柄杓也
- 一 鬃鉄ノ寸九寸通(信)ナリ
- 一 裏彫ハ四寸ニテヨシ鹿ノ角本也小侯ヲ置(シ)
- 一 馬櫛ハ齒數七九ニ依ル長サ九寸二分此内齒ノ

- 一 方罽持方五寸二分。結付幅廣サ四寸。
- 一 血打摺ノ更九寸ヲ用ニ但此内持方七寸頭寸有同切口指渡ニ寸也
- 一 血打刀ノ更刀ノ方五寸柄ヲ七寸ニスル也
- 一 撫竹ノ寸二尺七寸ノ節數三ツアルヘシ刻ヤウ大竹ヲ四ツ割ニ内ノ節ヲ如何ニ能取テスヘシ外ヲハ赤漆ニ塗ルヘシ内ヲハ黒ク塗ナリナテ竹トハ常ニ遣ヲ云也
- 一 ハタケ竹ノ寸ハ二尺五寸ニ切ヘシ切標ノ更右ニ向ニ是ハ湯洗スル用也
- 一 ナテ葉ノ古又二尺二寸ノ常ニ遣也
- 一 湯洗ノ更遣フワラハ九寸ヲ用ル也
- 一 馬屋ノ道具ト云ハ馬盤桶撫竹也
- 一 合木ノ更長サ一尺五寸廣サ五分厚サ三分ナリ也
- 一 腰掛馬箱ノ更長サ四尺ノ箱ヲ以テス上ノ左ニカシ付ニ通レテ高トスル也左右纏之上ノ巻數五ツセツ九ツ也
- 一 響杖ノ更三尺五寸ノ木ハ阿膠木本之其外木ニテモスル也是ハ異也
- 一 ト千金折処ノ更踏板ヲ上一尺八寸ニ打ヘシ

- 一 鬘<sup>ハシ</sup>光ノ寸一尋一尺ニスヘシ又ハ七尺ニモスル
- 一 皂梘ノ寸一尺二寸ニスヘシ
- 一 物飼舟ノ更深サ一尺三寸口ノ徑一尺三寸板厚八分ナリ
- 一 足コテ舟ノ更長サ二尺廣一尺七寸深サ一尺三寸厚サ一寸五分ト知ヘシ
- 一 湯洗舟長サ三尺廣サ二尺深サ一尺八寸厚サ一寸ノ檣板ヲ用ユ
- 一 湯掛柄杓ノ更口指也寸深サ八寸柄ノ長五尺ニ馬ニ鞍ヲ及カハ不謂置ト云鞍及トハ馬手ノ詞ニ
- 一 一ノ更ト云ハ入口ノ初ノ一更ヲ云ナリ作去春夏秋冬ノ四季ヲニツ分ケテ五ノ五外替ルナリ其心得テ更ノ見物アルヘシ
- 一 移乗ト云ハ付スヒテ更ニ乗替ルヘシ
- 一 紅梅月白黃月毛トハ不謂詞也白月毛黒月毛サレ月毛ト云也白河原毛黒河原毛黃河原毛鴨河原毛ト云其外ハ如何ニテ喰ノ詞ニ更月毛ナト云ハ惡シ
- 一 俗ニアシカサナトハ不謂芦毛駁ト云ナリニ毛猿毛ト云更ニ付秘傳有是ニ心乃アルキナリ

婚禮ニ不用

一 馬ノカミテウモノ匠達者モノト云人有惡唯マ  
(モノト云)

一 湯洗ノ髪卷ヤウ三十分テ卷(シ)常ハ  
馬ノカミ卷テハセテ之礼馬ニ遣ハカミ卷テ  
遣フナリ

一 馬ノ髪ヲ刈ルテ落首根ニ依リ、其際ヲ  
早ク刈テ中ヲ高ク須汰ノ髪キハラ早ク刈  
ハシ其ハ髪先ヲ落ク刈ナリ是ヲ野形ト  
イフナリ

一 茶筒寸法茶溜ノ処五寸持所七寸大寸四寸  
二分ニ披キ二分ニ竹ノ目ノ通ニ明ルナリ

一 大笠掛ノ下地ニ古下地ト云ハヨク棄入タル馬ヲ  
云ニ是ヲ古逸物ト申シ

小笠原美濃守

長高

同 民部大夫

長棟

同 大膳大夫

長時

同 右近大夫

長慶

右全部御當家代々雖為御秘更依懇  
望全相傳畢亡女他見有同鋪者也

水嶋ト也

之成

伊藤甚右衛門

幸氏

當流馬法禮ニ概

一 馬請取渡シノ車馬ヲ牽立一礼シテ其後右  
ノ手ニテ左ノ手ハ輪ヲ二ツ掛則右ノ手ニテ手  
網ヲ延中腰ニ成テ渡スレ退取ハ馬ノ後ヲ廻  
リテ初ノ請取人ノ立タル取(直リ)一礼シ退  
去ス(シ)人ノ手ニ持タル手廻ヲ取左ノ手ヲ  
出シテ左ニ持タル引手ヲ輪ナカラ取ル(シ)  
サテ右ニテ引手ヲ取退カシテ左(右)ヲ引  
廻シ右ノ如ク引立置キ一礼シテ退去ス(シ)  
口傳

一 馬御目ニ掛橋ノ先ッ馬ヲ牽立向フニ立テ  
**五二** 概

両方ニ輪ヲ取テ能ク馬ヲシツノニ足ニ足退  
セテ股ヲ搦ヘ我右ノ足ヲ馬ノ右ノ方ヘツタヒ  
テ左ノ足ヲ踏搦ヘサテ主人ノ方ヲウカウ  
シニ御覽ノ氏馬ノ面ヲ御目掛其俟棄取ヲ見  
セ申其後尾様ヲソト御目ニカテ馬ヲ初ノ  
如ク押直シ四足ヲ踏搦ヘサセサテ右ノ方ヘ押  
入サニ左ヲ御目ニ掛ヘキナリ又馬ノ左ヘ押  
ハルモアリ口傳

- 一 馬数多ク牽ク時ハ二足目ノ馬ヲ牽テ先馬ノ面ヲ御目ニ掛又棄取ヲ見セ申テ其俟押入ヘシ此時ハ馬ノ左ヲハ御目ニ掛又者ナリ然共印ノ馬ナラハ押入サニ左ノ印ノ方ヲモソト御目ニ掛ルヤウニシヌカニ押入ヘシ
- 一 鞍置馬ヲ御目ニ掛ル時ハ右ノ面ハカリヲ御目ニカクル者ニ引廻セト仰アラハ茶ノ如ク四方ヲ御目ニ掛ヘシ御急ナキニ裸馬ノ如ク牽取アルカラス唯面ハカリ御目ニ掛ヘシ
- 一 公方様御成ノ時ハ鞍置馬ニカキラス裸馬成共面計歩目ニ掛ヘシ一家ノ人裏方直岳着テ牽ヘシ妻戸ノ外ヨリ役人牽入ルヲ

戸ノ内ニテ一家ノ人請取テ静ニ歩セ馬ノ面ヲ引立テ足ノ能立搦タル時牽人ノ右ノ足ヲ突キ馬ノ右ニ立添テ面ヲ御目ニ掛押入ルナリ又役人請取テ牽入ルナリ其時ハ初牽入タル妻戸ヘハ牽出サス遠侍ノ方ヘ押入ル者ナリ

- 一 掛リノ庭ニテ馬牽取ハ軒ニ向フ木二本ノ間ヨリ牽入テ掛ノ真中ニテ掛式ノ如ク牽ヘシ牽入ル時ハ押廻シテ元ノ跡ヨリ入ルナリ或ハ軒ノ副ノ掛二本ノ間ヨリ牽入テ又牽出ヌ取ハ向フ木二本ノ間ヨリ出スモ吉惣テ二三足其馬ヲ牽取ハ品ヲアラタメテ牽ヘシ殊ニ何レノ木枝ヘモ當ラサル様ニ氣遣有テ御目ニ掛ヘシ橋ノ木植リタル庭ニテ馬牽取ハ貴人座座鋪ニ御座有氏先橋ノ木ニ馬ヲ牽向テ其後貴人ノ方ヘ牽参御目ニ掛ヘシ其取ハ橋ヲ過テ枝ナリニ當ラヌヤウニ氣遣有ルヘシ

- 一 履脱ノ有取ニテ馬ヲ牽取ハ少シ履脱ヨリ遠ク退テ牽ヘシ
- 一 立砂ノ有取ニテ馬ヲ牽取ハ先常ノ如ク馬ヲ

率立テ馬ニ立向ヒテ丸ノ立破ヲ我身ヲ  
少シ用キテ馬ニ見セ其後立破ニノ間ヨリ  
常ノ如ク馬ヲ牽入シ是を極秘ニ惣別  
立破有取ニテハ遠ク退テ牽タル吉聊モ  
立破ニ馬ヲ尻ニテモ且ニテモアタル大  
キニイム夏ナリ

軒  
〇立砂 前ニ  
〇立砂 如ク押入シ

馬ヲ牽出シ牽入ニ結フモ夏ヲ忌ナリ喪馬  
ニ牽馬ヲハ既ハ牽入サニ玉輪ト以廻シテ  
入ルナリ口傳

厥

初

後

箇様ニ牽出シテ右ノ如ク結ヒテ牽入ヲ忌  
人アリ苦カラス忌夏ハ別儀ナリ

御前

後

初

箇様ニ馬ヲ牽出ス道ニテ如見結ヒタルヲ又  
結フト云テ忌人アリクルシカラスイム夏ハ

別儀ナリ

一主人ヨリ家来ニ馬ヲ牽セラル、既ハ渡ス  
ニ拜領ノ人ハ下手ニ取ヘシ勿論馬ノ歳  
ヲ改ム夏アルハカラス主人ノ方ヘ向ヒ謹而兩  
手ニテ手綱ヲ取寄載キ一礼申上馬ヲ  
肩負テ常ノ如ク丸ノ方ヘ帰ルシ惣而貴  
人ノ前ニテ其請取渡ヲスル既ハ先人ノ請  
取ヨキヤウニ渡ス一ヲオトスシ昔文治五  
年丑月廿日朝公大庭平太景能ヲ召シテ  
奥州ニ奉衛征伐ノ夏ヲ仰合ラルテ既景  
能金吾ヲ吐ニヨツテ御感ノ餘リ御馬ヲ繪  
小山七郎朝光庭上ニ引立景能ハ緑ニアリ朝光  
即チ差繩ノ端ヲ取テ景能カ前ニ投景能  
居ナカラ請取テ拜礼シ即徒ニ渡ス頼朝入  
御ノ後景能朝光ヲ招キ賀シテ曰昔老老之  
上保元合戦之時疵ヲ得ノ後行歩進退ナラ  
ス今御馬ヲ拜領ストイ(既庭上ニ下リカタク  
ノ處繩ヲ投ラル、其芳志ヲ思フニ直千金  
ト云頼朝又朝光カ取方ヲ感給フアリ箇様  
ノ心得ナクシテ強ニ先様ノ人ニ耻カ、セト皆由  
舎人ノスル夏ナリ唯請取能ヤウニ渡ス一礼

ノ本意ナリ能ク心得ヘキ者ナリ

一 亦未ヨリ 主人ハ馬ノ牽奉取ハ先其馬ノ  
乗心ヲ能ク吟味シテ直成馬ヲ牽テ少シ  
成其思キ取アラハ近引スシ必鞍置馬ヲ牽  
直ハ益々儀ナリ然レ昔ハ鞍置馬ヲ牽先  
直多シ近代ハ大概裸馬ニ手綱ノ礼禮ノ  
礼ト云直アリ先手綱ノ礼ハ裸ニテ  
手綱ヲ取テ戴テ云ナリ此ノ礼ト云鞍置  
馬ノ時手綱鞍禮ヲ戴テ云此ニテ礼ハ昔  
用ル直ナリ常ニモ貴人鞍下乗時此ノ礼ヲ  
專トス又裸馬ヲ乗取ハ手綱ノ礼ヲ用ト知  
ルニシ

一 鞍渡シ様ノ直右ノ手ニ提テ出則右ノ膝ヲ  
起テノ膝ヲ突同左ノ手ヲ突直趣テ云テ  
左ノ手ヲ右ノ手ノ下ニ添テ中ニテ渡シ右ノ  
膝ヲ突テ左ノ膝ヲ起右ノ手ヲ突左ノ手  
ノ下ニシ

一 同諸取様ハ先同趣クスヘリヨリ両手ヲ出  
シテ諸取右ノ股ヘ廻シ右ノ膝ヲ起テ鞭ヲ  
納メ左ノ手ヲ突テ一礼ヒテ右ノ手ヲクニ  
一 鞭歩目ニ掛ル直又鞭ノ中程ヲ右ノ手ニテ

取テ取左ノ手ハ右ノ手ノ方ヘ添テ取柄ヲ  
主人ノ方ヘシテ持テ歩ムルニ御氣ノ右ノ方  
取物ヲ指尚用キカテテ置シ納ル時ハスヘリ  
ヨリ右ノ如ク取テ帰ルナリ腕板ノ結目  
ヲ掛テ鞭ニ取添ヘタル吉シ

一 馬上ニ鞭ヲ参スル取ハ鞭ヲ右ノ手ニ取テ取リ  
肩脱ヤウニシテ左ノ方ノ七寸ヲ左ノ手ニテ  
取左ノ股ノ下ヨリ 糸輪ノ通りニ静ニ  
渡スニシ

一 鞭ヲキ取ニテ馬上ヨリ 鞭取望ノ取ハ何ニテ  
モ柄ヲ出スヘシ努々取指ナトテ切ルアル  
ヘカラス

一 騎馬決拾渡シ様ニ直左ヲ左ノ右ヲ上ノ手  
ノ内ノ方ヲ両方ナカラ上ヘナシ緒ヲ両方  
ニ取順ニ輪ヲ手覆ノ方ヲ諸取人ノ方ヘ  
ナシ左ノ手ニスヘ右ノ手ヲ添テ渡スニシ  
諸取人者差寄右ノ手ニテ手西履ノ方  
ヲ取左ノ手ニテハ指前ヲ取右ニテ押直  
ニ得ト左ニ納メ其後右ノ手ヲ著一礼ヒ  
テ退クヘシ同披落ノ品渡ス様ハ同前ナリ  
然其真ノ心得可ヘ怒而鞭ト決捨ハ置ノ

上ニ置直アル(カラス中ニテ御目ニ掛(シ口付  
一 同馬(決指參スル既ハ右決指ヨリ參セ  
其後左決指ヲ參スルナリ勿滞度シ様報  
ト同前ナリ)

一 騎沓貴人(召サセ様之ノ先沓ノ多履ヲ左  
ニテ取同沓ノハナヲサキ(シテ持參リ召氏  
其後取廻シテ左ノ多履ヲ用キテ召ス(シ  
其時左ノ手ニテ沓ノカトヲ押(シ脱セ申  
既ハ沓ノ跟ノ方ヲ右ノ手ニテ取左ノ手ニテハ  
沓ノ中程ヲ取テ脱セ申ス(シ)

一 扇疊紙其外何ニテモ馬上(參スル既ハ馬ノ  
見ナルヤウニシテ鞭ヲ出ス既ノ如ク心付(シ  
一 嚮渡シ様之先音輪ノ取元結ヲ通シテ能  
結(其取ヲ右ニ持シ出座ニ着ト左ノ手ヲ  
着(其趣ヲ伸其後右ニ持テ元結ヲ左ニ返  
右ノ手ハソトハカリハシサキニ添テ渡ス(シ  
請取人者手ヲ着其後着(其方右ニテ元結  
際ヲ取ト取左ノ手ハカリニハミサキニ除テ  
請取少シ後(退リ左ノ手ヲ着(一礼シテ退  
ナリ同披右落ノ品モ渡ス既ノ如ク持テ出則  
馬召時ノ如ク引合テ御前ヨリサシ此方ニ

置(シ口傳納ル時ハ両手ニテ音輪ニ付クル  
元結ヲ手取(引寄右ニ取ト取左ハハミサ  
キニソト添テ左ノ方(取ル(シ  
一 面掛ノ手細仕付タル嚮之古又手細ヲ面掛ト  
ラニ取添右ニ持テ出(其趣ヲ伸其後左(取  
移(右ノ手ヲハシサキニ添テ中ニテ渡ス(シ  
請取様披(右方同前(シ)

一 鞍渡様之先左右ノ乗相ヨリ左ノ手ヲ  
指込鞍ヲ得(腕ニ載左若木ヲ能抱(右  
ノ手ハ尻崎(添テ持テ出則左ノ腕ニ置(其  
趣ヲ伸サテ請取人ノ前ニテ鞍ヲ順ニ廻シ  
乗方ヲ見スルヤウニシテ候(スナリ或後輪  
ヲ我方(ナシ見入ヨリ右ノ手ヲ指込鞍  
ヲ能腕ニ載左ノ手ハソト尻崎ヲ押テ  
持テ出渡ス(モアリ 請取人ハ指寄(両手  
ニテ前後ノ雜子股ヲ取テ左腕ニ置キ(一礼  
ノクナリ同披右落ノ品モ渡ス時ノ如ク持テ  
出御前ニテ取直(前輪ヲ向(ナシ前カク  
テ乗方ヲ御覽(ナサル(也ウニ置(シ細ム  
ル時ハ此方ヨリ指寄(鞍ヲ押(其後左  
ノ手ヲ後輪ノ見入ヨリ指込腕ニ載テ

置(シ口傳納ル時ハ両手ニテ音輪ニ付クル  
元結ヲ手取(引寄右ニ取ト取左ハハミサ  
キニソト添テ左ノ方(取ル(シ  
一 面掛ノ手細仕付タル嚮之古又手細ヲ面掛ト  
ラニ取添右ニ持テ出(其趣ヲ伸其後左(取  
移(右ノ手ヲハシサキニ添テ中ニテ渡ス(シ  
請取様披(右方同前(シ)



右ノ手ハ尻ニ添テ取テ飯ルヘシ

一 仕掛鞍渡シ様ノ度先左ノ鞍ヲ相(載テ前輪ヲ向(ナレテ右ノ如腕ニ載乗方ノ尻ヲ右ニ我左ノ脇ニ置一礼シテサテ鞍ヲ順ニ押止シ左ノ尻ヲ落シ乗方ヲ見セ渡スニ請取人モ落シタル尻ヲ前ノ如ク鞍ニ載前後ノ居木崎ヲ両手ニ添テ御前(參ルヘシ)同披落ノ品モ渡ス時ノ如ク持テ出前ノ如ク鞍ヲ置尻ヲ垂則朝鞍ヲモ直シテ退ニ納極右口断

一 乱レ鞍ヲ廣蓋或皇ニ積時ハ先後輪ノ外ノ方ヲ下(ナシ其上ニ居木ヲカ(同居木崎方ヲ後輪(包テ置又上ニ前輪ヲ後輪ヨリ引下テ攸取ヲ上(ナシ人ノ方ハ前輪ノ右ノ方ヲナスヤリニス(キナリ)

一 進上鞍ヲ縛ル時ハ元結ニテ唯カリシハリニテ可ナリ此時ハ鞍添(カラス然尺作ノ鞍テラハ作縛ニシテ送タル吉

一 鞍ニ皆具仕付タルヲ御馬屋侍ハ渡ス時ハ以前ニ記ス如ク前輪ノ見入ヨリ右ノ手ヲ入両方ノ肌付ノ下ニ手ヲ置能戴テ左ノ手ニテハ鞍ノ

上ノ鞆ヲ押(シ但シ右ノ手自由ナラサルアヒツ鞆ヲ左ニ抱(テモ苦カラズ是ハ皆具付タル鞍ノ度人ニ渡ス時ハ乗方ヲ向テ常ノ如ク渡スニ請取様ハ前輪ヨリ手ヲ入抱(テ請取ルナリ)

一 同皆具付タル鞍ノ上ニハ先鞆ノ置左右ノ餘リノ房ヲ亦遠テ置又朝ヲ一廻シ前輪ヲ廻シテ鞆ノ上ニ載其上ニ鞆ヲ直シサテ乗ノ十文字兩方ノ居木ニ取ケテ置人ニ渡ス時ハ右ノ如ク心得(シ或鞍ヲ左ニ持嚮ヲ右ニ提テ持出渡ス事モアリ)

一 下鞆(鞍ヲ給ル時モ右ノ如ク持テ出乗方ニ少シ直シ鞍ノ向様ニ置ニ并領之人前輪ノ右ノ尻崎ヲ右ノ手ヲ掛テイタ、キ一礼申上(シ)

一 燈渡シ様ノ度又一懸共ニ右ノ手ニ懸ニ懸様ハ肥當金ヲ一取ニ取(左ノ手ハ泥流ノ下有)助持テ出脇ニ置一礼シテ渡スニ請取人ハ舌崎ヲ兩手ニ取テ引廻シ又駕留ヲ向(シテ請取脇ニ置一礼シテ退(同披落ノ品モ大概渡スニ如シ左右ノ手ニ舌崎ヲ能持テ出御前

テ下ニ静ニ置舌崎ヲ取テ引廻シ少レ直  
透テ置ナリ綱ルモ引廻シ得ト燈ヲ掛  
両手ニテ取帰ルナリ

一馬ニ懸ケタル鑿ヲ御取望ノ此ハ乗取ノ燈  
斗御目ニ懸シ持テ出ルモ両手ニテ肥當令  
ト舌崎ヲ持テ御前ニ置テ取テ帰ルモ  
一ノ如ク肥當金ト舌先ヲ取テカルナリ

一鞭ニ太刀副取ハ鞭ヲ左ニ取太刀ヲ右ニ持テ  
出先太刀ヲ右取ニ置サテ鞭ハ太刀ノ柄ノ上  
ニ直透テ取柄ヲ載テ置一礼シテ組合テ渡  
スナリ諸取入者左ニテ鞭ヲ取右ニテ太刀ヲ取  
テ左右引分鞭ヲ其俣太刀ニ持流左ノ手ヲ  
着ニ礼シテ退ニ

一同披流ノ品モ渡ス時ノ如シ組合テ入ノ字ノ  
心得ニ置ニ納様又諸取取ト同断ニ

一騎馬決拾ニ太刀副取ハ左ニ決拾右ニ太刀ヲ持  
テ出諸取人ニ向テ決拾ヲ太刀ニ取添左ノ手ヲ  
着ニ礼シテ決拾左ニ取替シ右ニテ先右カヲ渡  
シ其後決拾ヲ両手ニテ渡スナリ又右ノ取  
ニ太刀ヲ置其上ニ決拾ヲ載一礼シテ下ニ組  
合渡ス一モアリ披流ノ品右同断ニ

一響太刀副取ハ響ヲ左太刀ヲ右ニ持テ出取ニ  
置一礼シテ組合渡ス也諸取様鞭ニ太刀副取ル  
取ト同前ニ披流ノ品右同断

一鞍ニ太刀副取ハ鞍ヲハ左ニ持太刀ヲ右ニ取テ  
出同鞍ハ左ノ方ニ置太刀ハ右ノ方ニ置一礼シ  
テ鞍ヲ順ニ廻シ太刀ヲ組合渡スニ諸取  
入者先太刀ヲ取右ノ取ニ置鞍ヲ左ノ方ハ  
寄一礼シテ退ナリ

一同披流ノ品モ渡ス時ノ如ク持テ出御前ヨリ  
少シ此方ニ先右カヲ置サテ鞍ヲ御前ニ乗方  
ヲ角掛テ置又太刀ヲ取テ御前ニ出太刀ヲハ  
少シ引上テ置ニ納ル時ハ先太刀ヲ取少シ此  
方ニ置サテ鞍ヲ取テ腕ニ載其後太刀ヲ取  
テ退ナリ

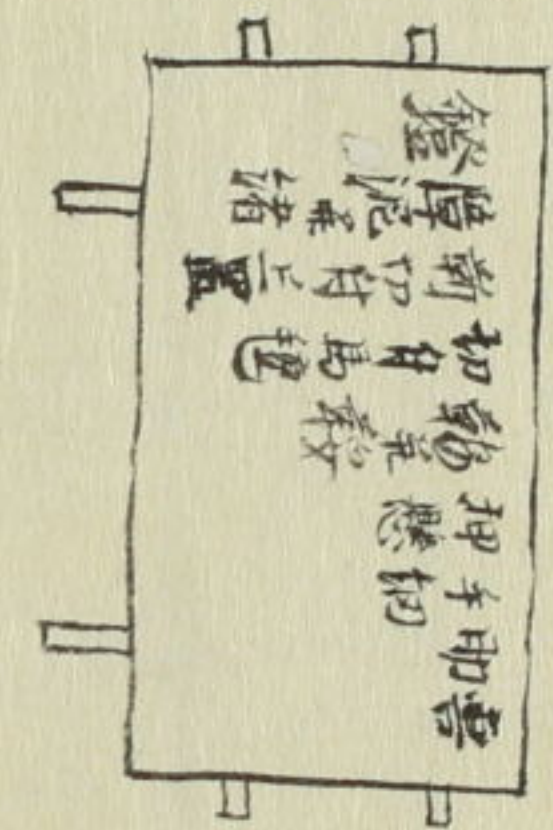
一鑿ニ太刀ノ副タル此ハ鑿ヲ寄テ左ノ手ニ一ツニ  
取太刀ヲ右ニ提テ出左右ニ置一礼シテサテ鑿  
ヲ引寄廻シテ置太刀ヲ組合渡スニ諸取入ハ  
先太刀ヲ取テ右取ニ置其後鑿ヲ引廻シテ能ク  
掛右取ニ置一礼シテ退ニ同披流ハ先乗方ノ  
鑿ノ舌崎ヲ左ニテ取ト取日左小指ニ左燈ヲ  
掛テ持右ニ太刀ヲ取テ御前參ル一ニ依渡ス

取ノ如ク組合テ置シ組ル度請取取ノ如ク心得シ

一 鞍籠一度ニ渡ス取ハ鞍ハ先籠右ニ持テ出左  
右ニ置一礼シテ鞍ヲ順ニ廻シ籠ヲ同動ニ双  
テ渡ス之請取人者先籠ヲ取テ右ノ股ニ  
置次ニ鞍ヲ取テ左ニ直シ一礼シテ退ニ同股  
ニ退テ取モ先籠ノ手ニ持テ出渡ス取ノ如ク  
雙テ御目ニ掛ル納ル時ハ清取取ノ心得  
ニスシ

一 曹鞍籠ヲ其臺ニ移テ渡ス先曹ハ相手  
左鞍ハ前輪ヲ向テシ脱ハ右鞍向テ見モ  
向テシテ持テ出右ノ股ニ置一礼シテ渡ス之  
清取人者其俣取テ右ニ置一礼シテ退ニ同股  
ノ品渡ス取ノ如シ然ルカシ主人ノ右ノ方ニ  
テ置タル吉納ナヤリ常ノ如ク

一 同曹鞍籠切付障泥押懸手繩即止臺  
ニ積様ノ意



右ノ如ク積シ何時モ臺ニ積取ハ曹ハ相手ノ  
左鞍ハ中籠ハ右ノ輪ト心付テ候ル候

一 曹ナトコラ當世ハ曲物ニ入テ取扱儀同其意然  
レ此取ハ蓋ノ書付ヲ以テ前後ヲ定ムシ請  
取取ハ取ノ曲物ノ如シ

一 切付御目ニ懸取ハ先馬籠ヲ新ニ通シテ又  
新ヲ切付ノ中ニ指入テ居木通ヲ緒ヲ右ニ  
持左ハ切付端ノ方ニ添テ御前ニ持テ出下ニ置サ  
テ三左右ノウチニヒロケテサテ馬籠朝ヲ引技切  
ノ股ニ双テ御目ニ懸シ納ル取モ前ノ如クニテ  
テ取テ飯ルナリ

一 障泥御目ニ掛ル取ハ借叙トケテ右ニ持テ取  
ノ取ハ左ノ手ヲ添テ御目通ニ持テ出是モ下  
ニ置サテ三左右ノウチニヒラキテ御目ニ掛ル納  
ル取ハ切付ト同心得ニ納ルシ惣別馬具ヲ持  
テハ先ノ手ニ押掛ヲ持テ先ノ手ヲハ押掛ハ  
先古ノ手ニ押掛ヲ持テ先ノ手ヲハ押掛ハ  
ツレニ添テ御前ニ持テ参サテ我右ヨリ左ノ  
方ニナカセテ下ニ置別々ニ解キテ御目ニ掛  
ル納ル取ハ三蓋ヲ一ツニマツテ前ノ如ク取テ  
飯ルナリ曰手細キ助障泥緒ナト御目

二掛ル直モ右ノ心得可ナリ

一主人ノ策ト決拾一度ニ進上スル直アラハ右決拾ヲ上ニ充決拾ヲ下ニ何レモ手ノ内ノ方ヲ上ナシニツノ緒ヲ一ツニ取輪テ決拾ヲ上ニ置シ決拾ヲ先我充ノ手ニ居進上申也策右ノ手ハカリニテ充ヲ添スシテ指上ヘシ

一策ノ緒ニ指掛テ斤論ニ結付テ折針ナトニ掛テ有之ヲ貴人御覽ナサルヘキ仰アラハ川解キテ別々ニ進上スヘシ同決拾ヲ策ニ結付ヤウ陰陽アリ陽ハカモサキニ結シ陰ハ玄結ニスルナリ口伝

一馬上ヘ弓參スル直其趣ニヨリ馬手ナラハ右ノ鞍ノ際ニ我ヲ添テ弓鳥ホノ辺ヲ右ニテ持馬ノ頭ヲ違越テ馬上充ノ方ヘ弦ヲ上ヘテ參スヘシ勿論充手ハ弓ニ添間並ニ然凡手細鞍ナトニキヲ添タルハ善キナリ弓手ヨリ參スル此ハ左ノ手ヲ握ノ一尺ハカリ上ヲ持右ニテハ握ノ七八寸下ヲ持テ是モ弦ヲ上ナシテ參スヘシ西ノ掌ヲ柳ルヤウニスヘシ右ノ手ハ俯ムケテモ苦カラサルナリ勿論馬ノ頭ノ耳ノ間ヘ裏抜ノナルヤウニ進上スヘシ

一曰弓ト矢ヲ一度ニ參スル此ハ馬手ノ方ナラハ其方ヘ指寄我身ヲ馬ニ添テ右ニ弓ヲ持左ニ矢ヲ取テ弓ヲ前ノ如ク馬ノ頭ヲ違越テ馬上ノ左ノ方ヘ弦ヲ上ヘテ參スヘシ其此馬ニ添タル充ノ掌ヲ仰テ右ノ手ヲハ俯ケテ充ノ手ノ下ヲ取弓ノ下ニ矢ノナルヤウニシテ根ヲ前ヘテ指上ヘシ勿論上手ヲ御取ナサルヤウニスヘシ又手ノ方ヨリ參スル時ハ弓ヲハ右ニ持矢ヲハ左ニ取テ弓ヲ上ヘ矢ヲ下ニシテ十文字ノ如クニシテ參スヘシ勿論弓ノ裏抜ヲハ馬ノ耳間ヘナルヤウニシテ弓ト矢ト一度ニ指上ヘシ惣別馬ヘ物ヲ出ス此ハ馬ノ驚カルヤウニ氣遣有ヘシ前渡猶有ヘカラス

馬具目錄書様之直  
目錄 但此ニ字ハ不昏ニ次オヲ見スル迄ナリ

- 一 連
- 一 助 何色
- 一 手細 口
- 一 押懸 何押懸
- 一 鞆 并鞍何塗作付
- 一 切付 馬檀新
- 一 障泥 魚毛并緒

- 一 連
- 一 靱
- 一 口
- 一 筋
- 一 靱
- 一 指

鏡 何塗仕付  
御馬 何枚印付

一懸  
一疋

以上

小笠原大膳大夫  
長政

右、如ク調ヘキ者也、真行草ノ書進上献上  
品貴人ニヨリテアルヘシ又策ノ副タル所ハ  
寛ヲ初ニ書クヘキ者ナリ

日本武尊

貞純親王

八幡太郎

六條判官

甲斐黑源太

加賀美次郎

小笠原次郎

小笠原信濃守

小笠原大膳大夫

内 石道大夫

義家

為家

清光

遠光

長政

貞宗

長政

貞度

馬法禮 柳

當流馬法流常々

一 馬を造流馬中の日は申の付小繩法  
地糸糸と直取との横繩並六四繩廿八  
川繩形の中に廿八部衆廿八宿廿六舎共  
童子の御名と書之堅次は行也

一 馬を造流馬中の日は申の付小繩法  
為小史と焼たり流繩下の筋もろ流ふせぬ  
あり、馬を造流馬中の日は申の付小繩法  
流繩は行也

一 馬を造流馬中の日は申の付小繩法  
一 馬を造流馬中の日は申の付小繩法  
一 馬を造流馬中の日は申の付小繩法  
一 馬を造流馬中の日は申の付小繩法

一 馬を造流馬中の日は申の付小繩法  
一 馬を造流馬中の日は申の付小繩法  
一 馬を造流馬中の日は申の付小繩法  
一 馬を造流馬中の日は申の付小繩法

たはに船釣と踏右足に振と踏船の  
は右岸に下りて世に振の能と張之又馬  
船に振あるは明津よりせよい善か  
のたれよに振のいと守り振ふも  
よし

一 三任の河清の三日月の日に振  
ありてまゝのこけは財屋分小弟と入  
り龍根川の山にまゝてあすよ  
こ卯幣紙一帖を振川切の幣を  
河清の兄と唱へ振方一振又振れの  
後まゝ明の方へ流し一白糸と振ふ  
喰やてまゝ振ふとふも喰やて  
叔下事四口の方より振り、海を登  
あり 登の上をあり振方かまけを  
返帰振あり

一 三日月の初めは三日月の海に又三日月を別  
あも一三日月の海方へ向ひまの振ふを  
三日月の海の方へあかしたるより右岸  
を廻し来たる三日月の海に振ふのあへ  
三日月の海に流し退きまゝの振ふ振ふ  
不抜振ふ振ふの三日月の海に振ふの

一 三日月の海に三日月の海に又三日月を別  
あも一三日月の海方へ向ひまの振ふを  
三日月の海の方へあかしたるより右岸  
を廻し来たる三日月の海に振ふのあへ  
三日月の海に流し退きまゝの振ふ振ふ  
不抜振ふ振ふの三日月の海に振ふの

一 三日月の海に三日月の海に又三日月を別  
あも一三日月の海方へ向ひまの振ふを  
三日月の海の方へあかしたるより右岸  
を廻し来たる三日月の海に振ふのあへ  
三日月の海に流し退きまゝの振ふ振ふ  
不抜振ふ振ふの三日月の海に振ふの

一 三日月の海に三日月の海に又三日月を別  
あも一三日月の海方へ向ひまの振ふを  
三日月の海の方へあかしたるより右岸  
を廻し来たる三日月の海に振ふのあへ  
三日月の海に流し退きまゝの振ふ振ふ  
不抜振ふ振ふの三日月の海に振ふの

之發海より此物取人金より朱鶴  
馬塗れ物と不用は信おる東鳥帽子  
系袍袴あり

一 男子のせれ付は衣れごとく七みことなど  
女子出生の時ハ巾一巾とこなつた九度  
あり

一 馬は入られ仙居の事申れ其の  
女も髪と髪とまよとまよ印入箱のたを  
香をたふ精ぬまして衣の中へ入らぬに  
るとまよと衣のたをたせし一なる徳律  
ハ板ふ節のたをたせしと洗ふと傷ハ  
尸と洗つても一なるに個々の心

一 言の魚村と数事申れ申の日ま  
る洗油も申の日明れ方一向洗あり  
二人ハ引せ身二つの間ハ湯と魚を頼  
と洗ふの頼と洗鶴と洗友平首と  
洗あり大長のあるハあて背と洗百参  
より尾けしと洗ハ間の出ると洗  
間ハ水と打も平首も水と打竹  
刀と打も打竹も水と打竹と打  
物洗ハ尻際と洗ハ水も打竹も打竹

能成なり

一 公方様のる湯殿御殿と建て中に洗  
地の土布と一と下れる湯の中にも土布  
巻くた名ハ一とあるた名ハ一とある  
二天守橋二人ハ一とあるた名ハ一とある

一 公方様のる湯ハ度と又間ハ長とを  
湯の度候と候ふも一所ハ二町  
ハ一とある間あり平人のる湯ハ度と  
二間ハ二間あり一とあるた名ハ一とある  
みんま右あちんとこの度と一人あり

一 未だ也一湯の長きハ一間ハ湯の舟  
とあるハ長あちんとこの度と一人あり  
又あらハ一とあると喰違ふするこ  
湯中の只也に明かまの口ハ喰違ふこ  
つととあちんとこの湯の舟も二三ハ  
明ハ一とある湯ハ一とある湯の舟も二三ハ

一 湯に穿るハ靴とあるハ大徳の靴と  
けるの髪酒とあるハ髪酒とある

虎の皮七つと酒の帯と身下と  
牽牛人の御鳥帽子ふらと袍四箇袴  
又白丁ももりく馬六疋糸糸袴  
列多座子下一この及れと一糸  
言く座座の糸糸袴一糸糸  
天の糸細と糸糸袴の糸糸袴  
糸糸と作け糸糸袴一糸の糸糸  
糸糸と糸糸袴一糸の糸糸  
限る一人も糸糸牽人牽糸  
糸糸

一 鞆川おあす馬も鞆屋中あり  
之鞆一川帽子の糸糸袴  
熊の皮九疋陸虎通は糸糸袴  
虎の皮九疋

一 軍陣馬車内なる糸糸袴  
馬車内糸糸袴馬車内糸糸袴  
之鞆の鞆屋中糸糸袴  
陸虎に糸糸袴一軍陣の糸糸袴  
糸糸袴は糸糸袴糸糸袴  
一糸糸袴は糸糸袴糸糸袴  
糸糸袴は糸糸袴糸糸袴

一 袴村の糸糸袴糸糸袴糸糸袴  
糸糸袴糸糸袴糸糸袴  
糸糸袴糸糸袴糸糸袴

一 糸糸袴の糸糸袴糸糸袴  
糸糸袴の糸糸袴糸糸袴  
糸糸袴の糸糸袴糸糸袴

一 糸糸袴の糸糸袴糸糸袴  
糸糸袴の糸糸袴糸糸袴  
糸糸袴の糸糸袴糸糸袴

一 糸糸袴の糸糸袴糸糸袴  
糸糸袴の糸糸袴糸糸袴  
糸糸袴の糸糸袴糸糸袴

一 糸糸袴の糸糸袴糸糸袴  
糸糸袴の糸糸袴糸糸袴  
糸糸袴の糸糸袴糸糸袴

一 糸糸袴の糸糸袴糸糸袴  
糸糸袴の糸糸袴糸糸袴  
糸糸袴の糸糸袴糸糸袴

一 糸糸袴の糸糸袴糸糸袴  
糸糸袴の糸糸袴糸糸袴  
糸糸袴の糸糸袴糸糸袴

一 糸糸袴の糸糸袴糸糸袴  
糸糸袴の糸糸袴糸糸袴  
糸糸袴の糸糸袴糸糸袴



うろくを遣ふ能は流るるに怪下馬り  
唯すれあり

一 馬上にうろくをくも人半人(物云)付未詳  
と云ふ人(一)して流と人(二)向(三)を(四)是(五)とら  
ま(六)の(七)流(八)と云(九)

一 子龍子孫利根の流を流と云は引と流と  
表故ふと流と云う表故と云は色より彩  
と流と云は深の子龍八寸短ふ深と引と  
流と短ふを浅流にすたれと云外引と  
と流と云はちと云ふ小故うして引と流  
と流と云は流ちと云ふす流と

一 系深の子龍押入八逆の流と云ふ  
引と流と人(一)と云ふす

一 馬の右と頭と云ふと云は右と違ふ  
下と云は右と云ふるは奥右と云ふ一  
の方と云ふるなり

一 下書馬と云ふると引綱ハ七日の四日  
書と書流事二日流事なり

一 華陽(率)馬ハ心(者)其(毛)と用(る)を(の)こ  
う流(云)る(あり)引(と)流(の)系(初)逆(筋)逆  
流(あり)鞅(の)組(逆)逆(結)と云(は)流(と)雲(の)

とら金(一)付(二)之(三)奴(四)と云(は)流(も)白(布)と云(ふ)  
言(流)結(あり)引(綱)鞅(を)白(也)と云(ふ)

一 策(に)用(る)水(懸)柳(能)流(る)流(と)因(而)に  
う(ろ)く(と)云(ふ)は(れ)も(半)流(と)云(ふ)也  
其(外)華(黃)毒(南)天(猪)軍(木)と用(ゆ)  
懸(柳)の(策)と(華)黃(の)鞅(ハ)多(る)と云(ふ)  
用(ゆ)柳(南)天(猪)軍(ハ)軍(記)の(附)用(也)竹  
根(と)毒(馬)不(用)の(根)竹(鞅(ハ)夫(ら)あ(ら)わ  
け(取(之)尺(二)寸(二)尺(七)寸(み)に(と)す(と)云(ふ)  
子(龍)ハ(ち)流(より)あ(ら)は(ゆ)七(天)守(七)二  
三(寸)み(も)と(流(と)ら(り)漢(の)武(帝)此(者)  
使(心)の(符)の(古)事(あり)物(あり)なり

一 水(流)の(流)る(お)ね(表)東(津)津(烏)帽(子)と云(ふ)  
泡(流)と云(ふ)一(鞅)と(付)は(り)と(は)一(臭)  
懸(指)背(履)て(巾)使(了)事(古)流  
公(方)様(八)幡(勅)る(る)尾(大)京(地)山(野)  
中(依)山(守)八(衝)成(の)附(出)無(之)鞅(の)よ(不)  
神(頭)と(云)事(流)と云(ふ)

一 將(傷)と(は)弟(と)指(小)な(物)と(は)一(一)と云(ふ)  
策(と)と(は)一(一)と(は)入(流)の(流)る(事)の(時)  
鞅(と)鞅(の)よ(指)之(鞅)と(は)け(ぬ)人(ハ)流(不)

一 鞅(と)鞅(の)よ(指)之(鞅)と(は)け(ぬ)人(ハ)流(不)

板押依りそのの腸ふはうぬそのの指場  
おわてい主人の第とふり第と一夜り  
傍お指付おき主人の第の板とよしを  
指我の第の板とわしを指のこれ  
よ下の指とふりそのの

一 竹根れ敷の言敷まにすれまのこ三尺守  
二尺一寸と尺三寸守わふ二尺守一尺  
八寸守も長短人によし一尺板木と  
七尺七寸守と第先切とくと日のえと  
云一あさ切と月れえと云五板と守  
わく絶つらみ統板板守と守のま  
せ人紫綿草以下は草董草  
又反板と指く皮く包切の級糸糸  
黒糸の打結と行る事とともい糸の打  
結はる指先汗の付用は

一 昔の馬と守とをそ打て敷とせり指  
竹根と用まき敷の能くわひると打  
くくくあふると敷の能くわひると打  
葉葉香ふれも福をきおまを竹根  
同くは態柳かやらあてまの  
板板程くわも事しは

一 巾根の第と作りにはそのは出ふつとと  
三事とてその師敷と云は師のよと敷と  
指板とす事とつと敷と師と指と  
布と巻せはらと師と其行をと竹根第  
と云ふ

一 軍馬の中肝と良と良に組合と行  
のるとおあふし行るふとて敷と  
中肝の馬とあゆりま進むふは能く  
とむくくくくくくくくくくく  
損多し指も草毛を殺のる指軍に  
扱多し一寸と一寸とととととと  
良と良大長と良月年と自由れ指  
とま入るしとあ付ありんととと  
とくくくくくくくくくくくく  
と古人とらとと

一 百上の款はるに定せよる上の款ハ  
るのと切ると切んふりはと指と切  
しと古人しととととととと  
一 駒の指の駒と守とととととととと  
軍駒の指の駒と守ととととととと  
きハ板駒不利方あり





- 一 一馬を打能むのり七るの殿ふい三知るの殿ふい
- 二 所三るの殿ふい一あり
- 一 一と繫柱の打打と一いづか全と一
- 一 鞠場中をの中そ人あるはせり時、若きものる
- 一 一うとと引込節季の方、幸わきとこの一、んま
- 一 軒のま布より一
- 一 追纏昔、時、親或の時、布と刺した纏、上、ち
- 一 けり、と代、綿糸と、四、ち、ぬ、沙、茶、茶、組、こ
- 一 紅紫人のあ、う、う、下、折、尾、の、麻、く、り、す、て、母、ま
- 一 深、る、
- 一 一人、あ、う、り、る、の、盤、の、あ、だ、し、か、り、帽、子、の、さ、る、の、祝
- 一 式、の、付、ふ、く、よ、お、さ、る、ぬ、さ、の、さ、る、の、畧、の、あ、さ、る、あ、り
- 一 式、の、い、ゆ、後、舞、舞、の、あ、の、さ、る、沖、る、入、給、ふ、さ、り、馬
- 一 乃、事、
- 一 一車と、響、の、合、礼、響、の、方、あり、車、と、よ、け、り、響、と
- 一 馬、と、い、る、よ、け、り、車、と、い、る、よ、け、り、か、や、の、あ、り、
- 一 こと、古、実、と、い、る、
- 一 一貴人の、響、の、あ、り、る、と、い、る、一、平、人の、あ、り、る、と、い、る、合
- 一 一付、こ、る、上、の、人、控、の、礼、と、い、る、

馬法禮 梅

糸

五ノ五 梅

一 貴人の響のありるは、一平人のありるは、合

一 馬を見物の手に入る腕の肘の中の内より  
 入るの力(腕に入るの力を)と見(これと)の二  
 と云又は出る出るハるナリの肘と肩とよりと  
 云(これ取れはまた秘蔵の事を指入口の事  
 「新泉秋夜」奥の方(はか)と云の)  
 一 腕を見る物にて巻袖を何もえすの事と  
 一 腕の何足目の見る事と申(巻袖)の事

一 馬を見物の手に入る腕の肘の中の内より  
 入るの力(腕に入るの力を)と見(これと)の二  
 と云又は出る出るハるナリの肘と肩とよりと  
 云(これ取れはまた秘蔵の事を指入口の事  
 「新泉秋夜」奥の方(はか)と云の)  
 一 腕を見る物にて巻袖を何もえすの事と  
 一 腕の何足目の見る事と申(巻袖)の事

一 馬を見物の手に入る腕の肘の中の内より  
 入るの力(腕に入るの力を)と見(これと)の二  
 と云又は出る出るハるナリの肘と肩とよりと  
 云(これ取れはまた秘蔵の事を指入口の事  
 「新泉秋夜」奥の方(はか)と云の)  
 一 腕を見る物にて巻袖を何もえすの事と  
 一 腕の何足目の見る事と申(巻袖)の事



物と秤にするの足とやして成、首と取く  
見向を直と夫若くしてとなくおとの  
たの物とおと射るの足とやして首と  
取く見向を直と夫若くしてとなくおとの  
おとの之若くおとけるの足とやして  
射る夫若くおとの之若くおとの  
足への射は夫若くおとの他人と一か二射  
とも夫若くおとの人若く

九四十三ヶ条早

當家馬法禮

桃

一 馬ふり射し馬と足とそれ手徳と迫り  
云各目ハ度くそれたれと足との足と  
板とわけてをうして足との家徳と  
出して豊の力午に迫き板とそれと云  
り心手徳と板と心とゆめかそれと  
と云事

一 手徳と取事おとけりて取手  
手徳と取事おとけりて取手

小指とらりも志とておとなくも  
てとそま指と小指のる手徳と取事  
と云事

一 手徳を取事おとけりて取手  
手徳と取事おとけりて取手

一 手徳を取事おとけりて取手  
手徳と取事おとけりて取手

一 手徳を取事おとけりて取手  
手徳と取事おとけりて取手

一 手徳を取事おとけりて取手  
手徳と取事おとけりて取手

一 手徳を取事おとけりて取手  
手徳と取事おとけりて取手

五、六、桃



て踏へ——是の指乃内大指と踏の指の肉を  
海に指の肉の外の外より大指の指の肉を  
と能極——カの入指の肉も同事と云ふは  
眼と云ふは

一 目尻踏の指の肉も眼の肉も踏へ——  
後掌返——治上院の鼻と踏事ハ元より  
上二の踏力か——立伏の付もさふんたし指の  
化狭くると此の付も内目の踏と云ふは  
踏の事と云ふは

一 馬と青らふふ赤くも色くも中よも縄世  
をハ何のさふもさふ——互方にと出れり  
化くもたかく中か百もさふもさふも  
も此——静上——たり——又捨る  
此——大い指の付もさふもさふも

一 目尻の事ハ外目の踏ハ眼の肉上二文  
て踏へ——内目の踏ハ鼻と指の肉も  
也——

一 目も眼も指の肉も外目の肉も踏へ  
上二——眼の肉もさふもさふも  
目指と化の付もさふもさふも

一 目も眼も指の肉も外目の肉も踏へ  
と赤くも赤くも赤くも赤くも

一 目も眼も指の肉も外目の肉も踏へ  
も赤くも赤くも赤くも赤くも

一 目も眼も指の肉も外目の肉も踏へ  
も赤くも赤くも赤くも赤くも

一 目も眼も指の肉も外目の肉も踏へ  
も赤くも赤くも赤くも赤くも

一 目も眼も指の肉も外目の肉も踏へ  
も赤くも赤くも赤くも赤くも

一 目も眼も指の肉も外目の肉も踏へ  
も赤くも赤くも赤くも赤くも

一 目も眼も指の肉も外目の肉も踏へ  
も赤くも赤くも赤くも赤くも

一 目も眼も指の肉も外目の肉も踏へ  
も赤くも赤くも赤くも赤くも



一山( )と云ふは其の山を指し藤原の方( )川を以て

居( )一筆( )わたり休めしもの

一てつ( )山を眺め( )一際( )と山の( )ころは

一又( )下( )山( )中( )まの形( )死( )一( )而( )は

一山( )と云ふ( )山( )を指し( )藤原( )の( )方( )川( )を以て

一居( )一筆( )わたり休めしもの

一てつ( )山を眺め( )一際( )と山の( )ころは

一又( )下( )山( )中( )まの形( )死( )一( )而( )は

一山( )と云ふ( )山( )を指し( )藤原( )の( )方( )川( )を以て

一居( )一筆( )わたり休めしもの

一てつ( )山を眺め( )一際( )と山の( )ころは

一又( )下( )山( )中( )まの形( )死( )一( )而( )は

一山( )と云ふ( )山( )を指し( )藤原( )の( )方( )川( )を以て

一居( )一筆( )わたり休めしもの

一てつ( )山を眺め( )一際( )と山の( )ころは

一又( )下( )山( )中( )まの形( )死( )一( )而( )は

一山( )と云ふ( )山( )を指し( )藤原( )の( )方( )川( )を以て

一居( )一筆( )わたり休めしもの

一てつ( )山を眺め( )一際( )と山の( )ころは

一又( )下( )山( )中( )まの形( )死( )一( )而( )は

一山( )と云ふ( )山( )を指し( )藤原( )の( )方( )川( )を以て

一居( )一筆( )わたり休めしもの

一てつ( )山を眺め( )一際( )と山の( )ころは

一又( )下( )山( )中( )まの形( )死( )一( )而( )は

一山( )と云ふ( )山( )を指し( )藤原( )の( )方( )川( )を以て

一居( )一筆( )わたり休めしもの

一てつ( )山を眺め( )一際( )と山の( )ころは

一又( )下( )山( )中( )まの形( )死( )一( )而( )は

一山( )と云ふ( )山( )を指し( )藤原( )の( )方( )川( )を以て

一居( )一筆( )わたり休めしもの

一てつ( )山を眺め( )一際( )と山の( )ころは

一又( )下( )山( )中( )まの形( )死( )一( )而( )は

一山( )と云ふ( )山( )を指し( )藤原( )の( )方( )川( )を以て

一居( )一筆( )わたり休めしもの

一てつ( )山を眺め( )一際( )と山の( )ころは

一又( )下( )山( )中( )まの形( )死( )一( )而( )は

一山( )と云ふ( )山( )を指し( )藤原( )の( )方( )川( )を以て

一居( )一筆( )わたり休めしもの

一てつ( )山を眺め( )一際( )と山の( )ころは

一又( )下( )山( )中( )まの形( )死( )一( )而( )は

一息香のつ陰葉思焼人參一馬怪名の粉二ト  
右三色香と殊少梅乾みし七消上包衝  
一けり筆根の息香三梅干の内か加へまらか

小笠原治勅を傳  
長棟

同 大膳右又  
長取

同 大と右又  
貞愛

馬法禮

一 道余馬嘶者あ事

出陣旅次此道途より入るよ宗んと此上馬御  
時馬子あ事一馬馬より常いあをハ  
右口此肝能一す口より白泡とあ一首とるか  
多れ目より後と流し一人の〜んとあ時  
立馬よあ事一馬の空あする事と夫ト  
一馬の形常長にかや〜れ時或長一蹄法を  
向ひ帯と〜一護方法九字と切取外

柳子の市と流るり酒散の又と唱〜一文と曰天彦是  
心光明宿人筆教化書本惠流〜之返唱節と  
解合掌〜して摩利支天八幡乃よのを右之返死  
唱〜す存極乃印一枚とる子の大物も人指とて  
つまみあ〜〜人〜〜〜返唱〜二〜〜三  
あ事一馬の形〜〜〜〜〜の形とや  
あ〜〜の〜〜の〜〜の〜〜の〜〜の

一 款味オ〜の調〜事  
結寸の一〇首途の付〜あるといこの〜の〜の  
と〜〜〜〜〜の〜〜の〜〜の〜〜の〜〜の  
〜〜〜〜〜の〜〜の〜〜の〜〜の〜〜の

一 馬糖〜る〜る〜事  
味方ハ〜る〜る〜〜の〜〜の〜〜の〜〜の〜〜の  
脛の〜〜の〜

一 首途〜る〜法甲し〜事  
出陣旅次此道途より入るよ宗んと此上馬御  
立〜〜の〜〜の〜〜の〜〜の〜〜の〜〜の  
あ〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と  
〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と

五ノ七

一 馬と〜返閉〜事

干此日ハ尾の寸一短大九字文上つてててて  
角一平一この日平大平と云九字よとて  
字区閉左の区不短尾一

一 歌方より後言文一見を便引かき一先述尾  
尾の方と云は次後尾の云は尾よ引込云  
先と亦云云尾短と切短短とや

一 日本馬の宗法一

一 一ノ代より一ノ代一宗法一宗法一宗法一  
宗法一宗法一宗法一宗法一宗法一宗法一  
宗法一宗法一宗法一宗法一宗法一宗法一

一 宗法一宗法一宗法一宗法一宗法一宗法一  
宗法一宗法一宗法一宗法一宗法一宗法一  
宗法一宗法一宗法一宗法一宗法一宗法一

一 毛河原毛ハ本姓の人よ也。一。本姓ハ本姓ハ  
本姓の宗一廉毛也。本姓の毛也。廉毛也。一  
一廉毛也。本姓の毛也。廉毛也。一  
一廉毛也。本姓の毛也。廉毛也。一

一 天竺乃流ニ川あり一。一。一。  
一。一。一。一。一。一。一。一。一。  
一。一。一。一。一。一。一。一。一。

一 放馬止候し〜

お返の園の法水工かけ〜

つ〜  
と望〜  
と云字ニツ宛書や〜  
とPや〜  
唱〜  
と命〜

一 人食る止候し事

け青と草のふ〜  
了り物〜  
〜

■ 器々鳴く鳴水器

一 俄然する〜  
天啓 相板や板板中加〜  
了り物〜

一 将し付馬と射馬が矢是の

麻〜  
里とあ〜

夫者〜

一 人〜  
た〜  
〜  
〜  
〜

一 首途〜  
出陣の付〜  
海原〜  
余付〜  
た〜  
望京〜  
馬〜

一 若狭馬お式ね束し事

將軍家御前〜  
馬御前〜  
入一具〜  
と〜

一 一隊お〜

〜  
〜  
〜  
〜  
〜

備前中道を二文字の海軍を引、極子で  
舟作と書く度くうううと渡り是れ  
の字にあらう

漢語ううがううううは  
相之の舟の馬乃ううや

馬

一 斬木也一車うれい上極を車五人を衣  
うううからうう一人を中道とせし  
人うううううううううう

馬馬馬

一 産後養目く馬く云事

これい産不宿五日目と七日の月形は  
と対りれあとい月日と云うと日  
白字の鞭を九字と切悪産降伏  
と唱馬と二文字は四本を馬は  
楓と云ふれと二文字は五本と  
ハ楓と除き産後をハ楓と除き  
二と云ふ鞭ハ産後也也也也也  
切立と竹と云うて云ふハ一  
産の産主云や田子の出と云う  
赤安子ハ未一甲と二文字は  
乃馬田中魚の赤安子の田中魚  
秘り

一 石附法信取付取寸人老事

こまハ指多ハ身ハ指一各馬  
るやハ指の指多ハ二不ハ指  
すやハ指ハ指多ハ解すハ  
付系取の産長さこ入と二  
お係

一 指也指て森林の中通る

こまハ指多ハ身ハ指と云う  
さき指と云ふ指多ハ指多ハ  
平首ハ指多ハ指多ハ指多ハ  
指多ハ指多ハ指多ハ指多ハ

一 追繩古法也代事

ひうハ時乃知式の追繩は布と  
た繩ハ三つうううううう  
中言言ハ指多ハ指多ハ指多  
系又指五系人の指多ハ指多  
ハ指多ハ指多ハ指多ハ指多

一 手廻す尺ふし事  
たつて守野村六人七守原屋八九天二色を  
け家あし手栴澄二川子流一入守原あし手  
又ふ又表飯ことせり

一 狼帯寸法しりたつ七入守又ねん守も軍陣二  
守夜帯ハ一丈二尺三尺りもせりや  
一 二人縄すしりし人縄といへも想も思入守二合  
首登も原栗色よめあし手此流ハ白入とて主  
二五寸りとのや

一 馬扱川かを御目事  
三度此下ハ西面高方斗とみせ下川地ニ西面  
ハ西面を御目と定志とてせ高方斗下取川  
地ニ三度目のるハ志ハせ原高方斗り西面と  
せ川地ニくハあし手とせ下事或ハ程ハ墨

一 昔ニ職ニ職ハ入束の付を御目りあといり  
一 浅指とせしり先ハ野射も狩備もむむむ  
ましり時ハあし手と指のさしハ浅指とせり  
浅章乃ハ先ハとせしり後帯の両方ハ指り  
せりとせや々の世扱あし手ハ浅指のさし  
あし手とのや  
一 笠色に能るしり

馬扱あし手御目事と能るしり云やとれハ  
わりしりとのや

一 旧村扱あし手事  
一 村りあし手とせりあし手初ハあし手  
なりしりとのやとせりとのや

一 大逆帯に代はしりし事  
一 此色ハと二三寸の圓と大ハとさしりし事  
一 守ハ御目や

一 流流る馬扱あし手  
一 是ハけりもあし手とせりしり遊ハ射りし事  
あり

一 笠色も高方斗事  
一 ちりとの拍子とせりし  
一的もあし手ハ流ハとせりし事  
一 乃拍子あり

一 大逆帯も高方斗事  
一 麻子籠とせりし事  
一 ちりとのあし手ハ  
一 又ハ馬扱あし手  
一 守ハ御目や  
一 了りしり納後し事  
一 徳七カ納後しり  
一 右口ハ糸先状ハ後



一 勤勞に用事し事これいふが事と云ふ  
法也宗の事とすは流く事と云ふは長わたり  
火あつた(む)いふ名物まじり也

以上二十八ヶ条

脩口傳

一 三つ返りけををせたりいふやうけ三たり也  
一 三つをわうけ時鐘をききしり別は原をいふ  
こつむきりむね柄ふ鐘の先をこふあつたね板  
二つらうけすく一但一先は仙舟の事なり也

一 泥かた指の事と云ふは元と云ふ事と云ふの側  
に仍と云ふ事と云ふは元と云ふ事と云ふの側  
をよんあつ馬にとりし事と云ふは元と云ふ事  
わいふ人の泥と云ふ事と云ふは元と云ふ事  
催つて川に渡りかゝるゆふさうきりけは流る  
た(勸)といふ事と云ふは元と云ふ事と云ふの  
ゆふさうきりけは流るゆふさうきりけは流る  
中流と指志の事と云ふは元と云ふ事と云ふの  
ゆふさうきりけは流るゆふさうきりけは流る  
ぬの事極に我指志の事と云ふは元と云ふ事  
と云ふは元と云ふ事と云ふは元と云ふ事  
後(出)といふ事と云ふは元と云ふ事と云ふの  
事なり

六

一 一ツ返りの事と云ふは元と云ふ事と云ふの  
事なり一 早人の事と云ふは元と云ふ事と云ふの  
事なり



よとそつたれか中絶したれをうらつて  
えよと候しそ甚そえよと候そをひら  
たる能やその度南あて可繼

一 策竹の策の東へ坊のけり公方ぬる候の  
方ゆこふなり

一 主考人此るふ勤成もてそあるゆきこるよけ宜  
けり一勤成の事也左とひのさまのこふなり  
た我うあふこなりふ又とけ宜なり一我のこ  
とそ此勤成なりは時宜なり一主考  
のゆき世世にそふよと宜を載ふ人  
悉一ふあよりそ在乃よと宜を載ふ人  
悉一はくそひもせられたの候をかりあり  
よと宜なり一ぬりて後又そ人あり候  
事なり一主考人を我乃申とも拂のせ  
し候一乃そんも時宜なり一主考人早  
れとそ書と又と一れをそ後のけとむる  
と拂も何なりらんおあかりて候一ふあ  
候し時も石かとを候せりてをの事なり  
ケ候の候は事なりおあかり候一

一 幕がえり事一上の別におる三つをそと日毎の  
あえと云やけおえり返のトよりお入す候

それ二のれ物えれぬるとよりては中乃通より  
お入る一此そそ中乃通に主考人あり候  
入る候と何よりお入るとお若れと  
りえとおかぬる人の際とをいふと  
そは通ありあり候一主考人のなき時  
乃事也又幕一帖といふ二のれ事也一つは  
かゝり候一帖よりけり候一ちと  
たるを返つてのやけおを(板の事一  
たよ人のぬる下中)は幕とそを内より見  
てたれすとせんなる中か打返一遠目の  
かい返からり候一

一 おはの付くるの朝の志のり我家とあて一町の  
内あれは通なり祝事一さあなりとわ  
たるも口一書也

一 田舎より賞する息のゆきと能より事  
まははの鳴る候賞一秋をハ雄とそを  
一るよと候なり候なり候なり候なり

一 おとろてあはせはの付のゆかち一の付は右  
つたりともてお立候の上と智を返と上  
みしてたのゆよて取能ぬるをを

一 是ハ法の節の候

一 軍隊としての事別案か——但志うれば依  
にきち四つとせし——かゝる人も同じや  
的備ありし事と云ふればよか——主人  
をくあはせしむるのむすもまたある事  
あり——ホホホ申すは射はれか——堂とて  
事成のむすも也——内にも少敷くかとあれ  
は貴はよりわとむる——又かゝるもそん  
乃あ斗を加工——能るふより時ふらふ  
一 軍隊として其の取又か行をも披露此事  
か小啓るか——去はく——百とすか

一 具足おそあ事——先甲と錦籠のら  
能成の中——にわみくおま方乃神と能  
たの——わらふ身色——神乃能なと  
東方流し身中——又希の流のる振志の流の  
多被下は情さ——ちい——年——んぬやに  
眼とと——其様ち——能る乃能とる陸し  
ね与人——わきてあまなり——射向の才とそ  
成中——にわきて出屋——堂と小啓る人若本  
より何とをい——んぬ相あり——つて何と  
能ハ流といはるのたと能成——あれい  
与人——わきてあまのあ——んぬのあ

向てあ——也か中——れ物あす時三献か加多時き  
あ——り能也——具足と雲のあ——んぬ高——んぬ  
れす——又能ととり——んぬかきわたりん  
先——行きるは内はとかききるはす射向のむ  
し——んぬにり成也——具足と能成乃ふら  
長かかりを足相成流——おれと高——んぬ  
服人も——んぬとてを足とあの——んぬ  
——んぬと成也——んぬ時——後の見——ぬ中  
小核よあしゆり——

一 具足とへんせ中——此事おそあ事尚世  
のた——んぬとてなり——能成と能成と能成と能  
せぬ射向とんぬと後とて見せ——んぬ後  
不望か——んぬと能成なり——んぬ能成の益よ  
のせ——んぬと列の事なり——一人——んぬと能  
二人——んぬと能成——一人——んぬと能成と能成  
二人——んぬと能成と能成——小のこいたて  
あそゆりわ中——の能と能成の能成と能成  
能と能成——んぬと能成の能成と能成  
甲の——んぬと能成の能成と能成の能成と能成  
甲の能成の能成と能成の能成と能成の能成と能成  
能成の能成の能成と能成の能成と能成の能成と能成

えせしけも是是のり一先さ向の向はえせ  
ねん志成えせ一や後と不中よりきんか後  
えんさぬとの也折るおてりよ置けし向と表  
へりしをさしけけしむのひの法は甲の肉は  
あやぬ一

一馬と酒好まきあせ或麻糸紙の類はあせ  
片もねらうおをへ一たよりおのひさおの酒  
なとの事ハあせ大畏たよりあせぬ一た  
うりあせ地は掃た

一むらとる上あせ事はもあせしあせしあせ  
やし此事難の法と在物上あせ右のあせ  
我の言乃後成一して折るあせ左方あせ  
左柄の方とあせもくみあせしあせはあせ  
きあせ難をたのあせ中あせ折るあせ  
たのすれとあせ左乃あせくあせ柄のあせ  
しあせあせ一折列難なとあせくあせし  
あせ折の馬の側へあせ折るあせあせし  
あせ折のあせ折るあせあせしあせ折るあせ  
あせ折るあせ折るあせ折るあせ折るあせ  
あせ折るあせ折るあせ折るあせ折るあせ

一馬ととるよりあせ折るあせ折るあせ折るあせ

あせ折るあせ折るあせ折るあせ折るあせ  
あせ折るあせ折るあせ折るあせ折るあせ  
あせ折るあせ折るあせ折るあせ折るあせ  
あせ折るあせ折るあせ折るあせ折るあせ  
あせ折るあせ折るあせ折るあせ折るあせ

一折るあせ折るあせ折るあせ折るあせ  
あせ折るあせ折るあせ折るあせ折るあせ  
あせ折るあせ折るあせ折るあせ折るあせ  
あせ折るあせ折るあせ折るあせ折るあせ  
あせ折るあせ折るあせ折るあせ折るあせ  
あせ折るあせ折るあせ折るあせ折るあせ  
あせ折るあせ折るあせ折るあせ折るあせ  
あせ折るあせ折るあせ折るあせ折るあせ  
あせ折るあせ折るあせ折るあせ折るあせ  
あせ折るあせ折るあせ折るあせ折るあせ

一あせ折るあせ折るあせ折るあせ折るあせ

二筋をさへかりやに全無難とたのぞく  
在んくても又いやういんくも是も持能而  
取て我た乃すふを取お持ちしるゝ取て取  
也

一筋骨中持ておや一此事先いふよりそたそ  
いきて持ても筋ととんかへりしちあかり  
いさとはよのすうあうとみきりせうのさ  
や下よりいぢぬあり

一志づぬ筋巧である事たのよよ筋の故  
すとはさへりしそふ口乃而いふと入る持  
二筋の方と我前か一筋の内らとと  
とせて何ととふ口と持て右のよふて居  
つと一つは持てあう也一つは持てあう  
てお付けらとと成りも右とと成た持能  
よ筋一をかりしりいふ先ととんかへり  
筋一筋のいきハ何ととのすふあへり  
あふ筋一此中先うら乃いと我右の亦より  
もて先筋と筋乃を可也一筋一筋の亦  
人乃す成りて取共いふとすふ又ちり  
故のさ方とと一筋一と肉とと一筋一  
とていぎつと筋取方もと又我右の

よ三つなりちうくてもあやうくてもは  
りたとととたとなとと一はけもいさ  
先の方ととんかへり一はとととと筋の  
ととととととととととととととととととと  
取す筋のけも持て一筋のけも持て  
又筋取け先ちりりりりりりりりりりり  
本は先筋取成りてとととととととととと  
取ととととととととととととととととととと  
とととととととととととととととととととと  
とととととととととととととととととととと

一或は筋ととととととととととととととととと  
りりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
とととととととととととととととととととと  
とととととととととととととととととととと

一筋はりり持てあうりりりりりりりりりりり  
とととととととととととととととととととと  
此切身ととととととととととととととととと  
とととととととととととととととととととと  
とととととととととととととととととととと

一筋はりり持てあうりりりりりりりりりりり  
とととととととととととととととととととと  
筋持もととととととととととととととととと  
もあふりりりりりりりりりりりりりりりり  
ゆびいりりりりりりりりりりりりりりりり  
のりりりりりりりりりりりりりりりりりり

のりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりりりりりり

やハ茶のよ〜カ角あてあ〜

一 齋とあ〜カ角あてあ〜  
あ齋のまのま〜カ入右のまのま  
あ〜カ入て齋とあ〜カ入右のまのま  
あ〜カ入て齋とあ〜カ入右のまのま  
あ〜カ入て齋とあ〜カ入右のまのま

一 齋のまのま〜カ入右のまのま  
あ〜カ入て齋とあ〜カ入右のまのま  
あ〜カ入て齋とあ〜カ入右のまのま  
あ〜カ入て齋とあ〜カ入右のまのま  
あ〜カ入て齋とあ〜カ入右のまのま

一 齋のまのま〜カ入右のまのま  
あ〜カ入て齋とあ〜カ入右のまのま  
あ〜カ入て齋とあ〜カ入右のまのま  
あ〜カ入て齋とあ〜カ入右のまのま  
あ〜カ入て齋とあ〜カ入右のまのま

おもひひ〜カ角あてあ〜  
川よ〜カ入右のまのま  
あ〜カ入て齋とあ〜カ入右のまのま  
あ〜カ入て齋とあ〜カ入右のまのま

一 齋のまのま〜カ入右のまのま  
あ〜カ入て齋とあ〜カ入右のまのま  
あ〜カ入て齋とあ〜カ入右のまのま  
あ〜カ入て齋とあ〜カ入右のまのま

一 齋のまのま〜カ入右のまのま

あ〜カ入て齋とあ〜カ入右のまのま  
あ〜カ入て齋とあ〜カ入右のまのま  
あ〜カ入て齋とあ〜カ入右のまのま  
あ〜カ入て齋とあ〜カ入右のまのま  
あ〜カ入て齋とあ〜カ入右のまのま





不かくて糸細く一うんばとのんはあちんを  
とりす方とりし上甲口ト口なるの乃角  
乃口此事なりやうもりのうをさへしり  
ありふらうと此の口の口はしりきり付  
えをさへしり一但しりふあそおれ  
とてしるふもさるるその手廻らるる  
十足よ九足ふき及び口わりの手廻し  
の付さうとよまきあつたきふ知し  
の口指するもさるるの口はしりきり  
指さるるしりり一なれは乃さるるも  
えんはよきあつたきさこさあよき  
るといふ

一 馬よつたれは乃の事 鞆を成してせよと  
るとをさへしりあつたきさこさあよき  
手廻らるるしりり一なれは乃さるるも  
えんはよきあつたきさこさあよき  
とてしるふもさるるその手廻らるる  
十足よ九足ふき及び口わりの手廻し  
の付さうとよまきあつたきふ知し  
の口指するもさるるの口はしりきり  
指さるるしりり一なれは乃さるるも  
えんはよきあつたきさこさあよき  
るといふ

一 馬よつたれは乃の事 鞆を成してせよと  
るとをさへしりあつたきさこさあよき  
手廻らるるしりり一なれは乃さるるも  
えんはよきあつたきさこさあよき  
とてしるふもさるるその手廻らるる  
十足よ九足ふき及び口わりの手廻し  
の付さうとよまきあつたきふ知し  
の口指するもさるるの口はしりきり  
指さるるしりり一なれは乃さるるも  
えんはよきあつたきさこさあよき  
るといふ

とをのまらりあつたきさこさあよき  
とてしるふもさるるその手廻らるる  
十足よ九足ふき及び口わりの手廻し  
の付さうとよまきあつたきふ知し  
の口指するもさるるの口はしりきり  
指さるるしりり一なれは乃さるるも  
えんはよきあつたきさこさあよき  
るといふ

一 乃の口乃事先さけたの上角なる上角太  
乃下角た乃下角をさるるはしりきり  
とてしるふもさるるその手廻らるる  
十足よ九足ふき及び口わりの手廻し  
の付さうとよまきあつたきふ知し  
の口指するもさるるの口はしりきり  
指さるるしりり一なれは乃さるるも  
えんはよきあつたきさこさあよき  
るといふ

まけいこはなれらうぬ事ふ成さぬかき  
この能くはたしむる也

一 けふぬりんと云ふはこれと此中より下中此上  
中の中申す下下乃上下申す下下是れ此の  
のうはふりやうしはふふふふふ事人ふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふ

一 こけいこはなれらうぬ事ふ成さぬかき  
細長くあつたきもけりしきのも首す  
たふふのちう切んちうすうふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふ  
首すのふふふふ

一 けふぬりんと云ふはこれと此中より下中此上  
けりしきのも首すたふふのちう切んちう  
すうふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふ

一 けふぬりんと云ふはこれと此中より下中此上  
けりしきのも首すたふふのちう切んちう  
すうふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふ

一 けふぬりんと云ふはこれと此中より下中此上  
けりしきのも首すたふふのちう切んちう  
すうふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふ

一 けふぬりんと云ふはこれと此中より下中此上  
けりしきのも首すたふふのちう切んちう  
すうふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふ

一 けふぬりんと云ふはこれと此中より下中此上  
けりしきのも首すたふふのちう切んちう  
すうふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふ





けりきり波よそすお付の先一まふの程くさ  
るより一みちとゆわし神に程をくさ  
とすあふの程一先程くさあてぬあんと  
まふ付七ふとゆわし程をくさあて  
かやと此事の程をくさあてのさし

庭を乃宮



と高てきてきつるもか旅のちかおの志を  
〜一ふり事しをさるるさか〜一ふん  
おまれぬのやわや〜一たもな〜もこ  
を引ぬ事大事なりた尤もぬんとたも  
ふ附いふもたなりと想をほ〜一〜  
ともな〜た〜り〜旅〜に〜あ〜右〜  
を是〜一〜あ〜ま〜ぬ〜け〜馬〜  
活のほ〜と〜む〜ふ〜ゆ〜り〜  
自派の勢行のなり〜

一 音の節を系地事一取たる也一番三系たあ  
とのむ〜は〜あ〜中〜よ〜は〜の〜さ〜は〜  
なるあ〜さ〜あ〜河〜ん〜ぬ〜た〜乃〜  
二成ともさあ〜一輪〜さ〜あ〜も〜  
は〜一〜わ〜り〜

一 一を〜馬〜と〜し〜と〜目〜と〜あ〜事〜先〜  
かりと右乃〜あ〜取〜た〜の〜さ〜  
成お〜し〜思〜け〜ま〜あ〜さ〜  
短〜さ〜は〜右〜乃〜あ〜を〜  
ま〜わ〜か〜し〜と〜共〜と〜  
一〜一〜手〜思〜て〜あ〜方〜  
乃〜あ〜を〜ほ〜う〜と〜お〜る〜

一 一は〜そ〜な〜か〜ま〜  
ゆ〜え〜光〜も〜わ〜ら〜う〜  
出〜れ〜ま〜乃〜上〜面〜  
是〜と〜持〜さ〜し〜  
馬〜体〜む〜さ〜あ〜は〜  
あ〜ら〜う〜  
さ〜る〜乃〜志〜の〜方〜と〜  
立〜ん〜を〜  
は〜附〜さ〜  
な〜あ〜乃〜  
乃〜と〜  
て〜取〜初〜乃〜  
は〜く〜あ〜ひ〜  
て〜ゆ〜  
あ〜乃〜  
と〜さ〜  
乃〜本〜  
を〜  
一 一か〜け〜と〜  
よ〜く〜  
是〜の〜地〜上〜は〜

一 一は〜そ〜な〜か〜ま〜  
ゆ〜え〜光〜も〜わ〜ら〜う〜  
出〜れ〜ま〜乃〜上〜面〜  
是〜と〜持〜さ〜し〜  
馬〜体〜む〜さ〜あ〜は〜  
あ〜ら〜う〜  
さ〜る〜乃〜志〜の〜方〜と〜  
立〜ん〜を〜  
は〜附〜さ〜  
な〜あ〜乃〜  
乃〜と〜  
て〜取〜初〜乃〜  
は〜く〜あ〜ひ〜  
て〜ゆ〜  
あ〜乃〜  
と〜さ〜  
乃〜本〜  
を〜  
一 一か〜け〜と〜  
よ〜く〜  
是〜の〜地〜上〜は〜

りてゆそ叶ぬものやある付はよき事  
 りといふもくちやい乃ちさや一二月魚一  
 去かぐ一川斗うとは多しぬもの也月六  
 免くを一免付とは付とあけけりゆ  
 一たのつりまや口つきてゆをいへり  
 あり付乃秘事にさるやよきとけりり付  
 舟中のさるちらうの事を渡してさる一是  
 なるはのつりまをたぬる事や申れは  
 よくはつりまの時もさる一志中一とく  
 上はよそりたりし時をかけあき付より口  
 の中の口よええとよりあてけあを危一其  
 けりり口とあてけあを危一其も危  
 あり馬のまつりまをいり前てかけきりあ  
 也まは入らぬとゆゆ中一よあ危一  
 一けりり事いりよも一志中のゆきまの板  
 一はよりあてけとさす一とけさるる角  
 けりりことあてけあを危一急よか  
 たりとあてけ事一版急事やあつとけあ  
 せは二もあてけけあを危一事もあるありあ  
 のの内よもいり一志中とたさるるま  
 に口り合をさる一志中乃内一あてけ事

とも危一尚世をいりたあを危よせりけ  
 敷と多はうとぬものあり馬のたのこ  
 あり付又いけり内もいり一志中かう  
 たりとあてけ事一版急事やあつとけあ  
 せは二もあてけけあを危一事もあるありあ  
 のの内よもいり一志中とたさるるま  
 に口り合をさる一志中乃内一あてけ事  
 一豆の目よ危を打るもはむねむと敷敷  
 と多しさいまおとろけあ一たむむさ  
 らいもやき内り一とけあを危一たむむさ  
 らいもやき内り一とけあを危一たむむさ  
 一豆の目よ危を打るもはむねむと敷敷  
 と多しさいまおとろけあ一たむむさ  
 らいもやき内り一とけあを危一たむむさ  
 らいもやき内り一とけあを危一たむむさ  
 一豆の目よ危を打るもはむねむと敷敷  
 と多しさいまおとろけあ一たむむさ  
 らいもやき内り一とけあを危一たむむさ  
 らいもやき内り一とけあを危一たむむさ



一 轆と揚し格中一此事亦人共言ふも是より  
 一 揚し格中一此事亦人共言ふも是より  
 一 轆と揚し格中一此事亦人共言ふも是より  
 一 揚し格中一此事亦人共言ふも是より

一 轆と揚し格中一此事亦人共言ふも是より  
 一 揚し格中一此事亦人共言ふも是より  
 一 轆と揚し格中一此事亦人共言ふも是より  
 一 揚し格中一此事亦人共言ふも是より

文字お福ふおてハ轆先能福ふあり

一 轆と揚し格中一此事亦人共言ふも是より  
 一 揚し格中一此事亦人共言ふも是より

一 馬と揚し格中一此事亦人共言ふも是より  
 一 揚し格中一此事亦人共言ふも是より

一 轆と揚し格中一此事亦人共言ふも是より  
 一 揚し格中一此事亦人共言ふも是より

一 轆と揚し格中一此事亦人共言ふも是より  
 一 揚し格中一此事亦人共言ふも是より

一 轆と揚し格中一此事亦人共言ふも是より  
 一 揚し格中一此事亦人共言ふも是より

一 じりわり 一 一ひりや 一 一ひりひ  
右りりともや此よりの大筋流上指中一寸法下  
まらほか 一 一ひりひ 一 一ひりひ

一 細尾橋の事 一 一ひりひ 一 一ひりひ  
少もゆりまらや 一 一ひりひ 一 一ひりひ  
此よりのやまの肉とつらとるを引ちひいて  
のま 一 一ひりひ 一 一ひりひ  
かのたつむ事を娘

一 一ひりひ 一 一ひりひ 一 一ひりひ  
一 一ひりひ 一 一ひりひ 一 一ひりひ  
一 一ひりひ 一 一ひりひ 一 一ひりひ  
一 一ひりひ 一 一ひりひ 一 一ひりひ  
一 一ひりひ 一 一ひりひ 一 一ひりひ

一 一ひりひ 一 一ひりひ 一 一ひりひ  
一 一ひりひ 一 一ひりひ 一 一ひりひ  
一 一ひりひ 一 一ひりひ 一 一ひりひ  
一 一ひりひ 一 一ひりひ 一 一ひりひ  
一 一ひりひ 一 一ひりひ 一 一ひりひ

一 一ひりひ 一 一ひりひ 一 一ひりひ  
一 一ひりひ 一 一ひりひ 一 一ひりひ  
一 一ひりひ 一 一ひりひ 一 一ひりひ  
一 一ひりひ 一 一ひりひ 一 一ひりひ

一 一ひりひ 一 一ひりひ 一 一ひりひ  
一 一ひりひ 一 一ひりひ 一 一ひりひ  
一 一ひりひ 一 一ひりひ 一 一ひりひ  
一 一ひりひ 一 一ひりひ 一 一ひりひ  
一 一ひりひ 一 一ひりひ 一 一ひりひ

一 一ひりひ 一 一ひりひ 一 一ひりひ  
一 一ひりひ 一 一ひりひ 一 一ひりひ  
一 一ひりひ 一 一ひりひ 一 一ひりひ  
一 一ひりひ 一 一ひりひ 一 一ひりひ  
一 一ひりひ 一 一ひりひ 一 一ひりひ



ゆんろりかの人子及なと云申り云云云云  
やわらた又い徳心も一服元う能くか  
云々一云云云云云もん苦や氣乃あま  
肉成氣を云事りゆ一此多あ地中  
の物語も人の在中初らもの也悲劇人中  
雜漢家味なきとあり

- 一 新いこと云事なり事也云云云云
- 一 吾思と云るれも乃事尚世人のたまはれ  
事やあかひは思ひあはれ申し申し一余  
の毛いか糖も申も糖も又まぶら二聖も  
月もぶらぶら云いれもまぶら二聖も  
毛いふかゆら一まぶらいもぬもや  
乃白き云人一や一と痛せりあり一  
不事事や申し申し白き云云一  
か丸く白く菊ひくぬ云云右乃大一中  
りハハ流らぬと云や世もまぶら白  
まこと云よりいすさいせぬあり

- 一 痛りはとすとすらばもりつことりして  
不苦むら一もら云云云云
- 一 いらばら乃事なせきてむらよえら  
んとたのハ信りののやいらむむとら

や尻膝がたも海にゆらぐのあさや一川流  
結句志はらうして志りて不不かりて  
おとられもいも志はらうしてお  
と事あせ一いららな思のゆらぐの  
や一上志あつきて事おと一不あして  
在りと事おと一思はらも海にゆら  
れららら一思はら一ゆらららハ  
まららら也志られ又一不あらら一馬も  
信ら

- 一 思はら事か上池一在(思はららら  
ことぬきいらも外はの思と浩たの思  
をあらうつら川を流らるとい行て  
女いらら思はら一燈とと右といら  
とらつ不事なを造一在(思はら思はら  
思はら思はら一思はら思はら思はら  
事も思はら一思はら思はら思はら  
思はら思はら思はら思はら思はら  
思はら思はら思はら思はら思はら

一 思はら思はら思はら思はら思はら  
思はら思はら思はら思はら思はら

あてはし事もたつ——とつ——ふふあふり  
おれと世の世とふおむとあふりふはまらへ  
きとたつ——とあてはしおれへ——又た  
まらへとあふり口とふゆらうと大と世とあふ  
池と——と内のかうとあふり口とあふり口と  
とあふり口とあふり口とあふり口とあふり口と  
ともあふり口とあふり口とあふり口と

一 身総後帯は七尺の守半後帯はるよ  
うりて短きも能はるよ又斗とあふり——その身総  
後帯は五尺の寸約——一 身元の身総後  
帯は合乃足——

一 深やりの事と深と後帯とあふり口とあふり口と  
あふり口とあふり口とあふり口とあふり口と  
細くあつとあふり口とあふり口とあふり口と  
あふり口とあふり口とあふり口とあふり口と  
あふり口とあふり口とあふり口とあふり口と  
あふり口とあふり口とあふり口とあふり口と  
あふり口とあふり口とあふり口とあふり口と  
あふり口とあふり口とあふり口とあふり口と

あふり口とあふり口と

一 元と馬とソノ能やまか——とつ——せたいひ  
ア——とあふり口とあふり口とあふり口と

一 尚世帯はあふり口とあふり口とあふり口と  
あふり口とあふり口とあふり口とあふり口と  
あふり口とあふり口とあふり口とあふり口と  
あふり口とあふり口とあふり口とあふり口と

一 一帯は——とあふり口とあふり口とあふり口と  
あふり口とあふり口とあふり口とあふり口と

一 地とあふり口とあふり口とあふり口とあふり口と  
あふり口とあふり口とあふり口とあふり口と

一 一帯は——とあふり口とあふり口とあふり口と  
あふり口とあふり口とあふり口とあふり口と

一 一帯は——とあふり口とあふり口とあふり口と  
あふり口とあふり口とあふり口とあふり口と

一 一帯は——とあふり口とあふり口とあふり口と  
あふり口とあふり口とあふり口とあふり口と

法主人より人の心は... 此の心も... 又我田の... 一問法主... 此の心も... 又我田の...

たのぶすと法主... 一問法主... 此の心も... 又我田の... けなはむわたりおま...

小笠原大膳右大臣 長時 同 右邊左大臣 日登

馬法禮目御口傳 乾

一 神馬奉納る毛色事

神馬奉納る毛色事 用由其外ハ赤色也  
雀色也と用也

一 同馬具ハ赤色事

鞍馬具ハ赤色事 利也鞍馬ハ備定巴の目  
切付ニ草と不用草切付又ハ織物也  
包ニ界影也ナリト云消水ト云ハ  
巴と付響多深影ニ鞆也云云切付  
之鞍ハ刈帽子ト云刈振の鞍ト尾(幣  
と付紅)神馬の丸を地の子馬之候  
御神馬ニ天此事候と云候也

一 神馬ニ鞍馬也事

昔春日大 昔春日大 昔春日大  
明神馬國(海)セ候ハ是毛馬也  
毛馬ニ成成て故羽の附ハ草毛馬也  
驚リ候ニ之國の程多思皮と前太神  
ハ夜ニ思石神見と唱候ハ思候生すと  
云今ハ何モハ後ニ生候ハ毛之割  
一 昔此毛ハ豆首ハ云云候也  
神馬ハ不入る也

一 神代替獻上馬將軍事 附神古例

毛色事

梨地鞆御紋有澄も梨地御所  
他と月山ハ深紫大徳ニ界立候也  
神馬五馬ニ大徳ハ紫又ハ紅の肉ハ  
右例の毛ト云ハ深紫大徳軍の附ハ  
川原色馬ト云ハ天下古例也  
右例ニ系於將軍皇利義滿ハ南地  
の附ハ川原色ニ云ハ利義滿ハ  
退治也川原色ニ云ハ利義滿ハ  
あり世所古例ナリ也古例ト云  
一 若君候御所ニ獻上馬也事

神馬具ハ赤色事 同ハ神馬也馬也  
と云ハ赤色事 同ハ神馬也馬也  
根えられハ神馬也 一 深紫の赤  
智徳山ト云ハ猪猪ハ神馬也  
赤馬ト云ハ猪猪ハ神馬也  
一 遠ト云ハ利義滿の御所ト云ハ  
其馬ト云ハ猪猪ハ神馬也  
一 神馬ト云ハ猪猪ハ神馬也  
一 神馬ト云ハ猪猪ハ神馬也

口

一 御成之時秋上馬之色事 并副馬之色事

系御軍の山名一も七夜休来河川  
赤松小宮京木(御成)の神に秋上(何れ)  
川京その侍勅至(二七)目と副(三)と云  
何れも(七)とし(五)立(七)利(七)令(七)勅(七)使(七)  
用(七)也(七)大(七)福(七)冬(七)宗(七)も(七)右(七)紅(七)も(七)利(七)也(七)事(七)信(七)  
は(七)想(七)宗(七)も(七)川(七)の(七)源(七)長(七)故(七)不(七)あ(七)り(七)と(七)用(七)  
ゆ(七)あ(七)り(七)も(七)七(七)調(七)と(七)す(七)

一 入部 鼻馬なる鼻事

鼻馬(七)と(七)立(七)誓(七)切(七)は(七)後(七)上(七)り(七)相(七)成(七)  
P馬(七)八(七)川(七)帽(七)子(七)も(七)鼻(七)馬(七)は(七)ろ(七)く(七)新(七)院(七)  
行(七)く(七)有(七)内(七)鼻(七)馬(七)八(七)利(七)地(七)中(七)鼻(七)と(七)人(七)ら(七)  
七(七)是(七)也(七)七(七)也(七)七(七)事(七)す(七)れ(七)に(七)記(七)る(七)も(七)三(七)七(七)  
何(七)と(七)勅(七)を(七)後(七)ふ(七)ん(七)事(七)す(七)

一 移佐 鼻毛色事

粟(七)色(七)馬(七)毛(七)を(七)准(七)毛(七)ハ(七)上(七)馬(七)成(七)も(七)も(七)き(七)入(七)り(七)に(七)  
火(七)燈(七)の(七)毛(七)ハ(七)月(七)毛(七)馬(七)毛(七)を(七)准(七)毛(七)ハ(七)内(七)と(七)用(七)也(七)

一 増徳 佐る短毛色事

佐(七)を(七)比(七)る(七)と(七)月(七)の(七)短(七)毛(七)ハ(七)内(七)

一 同(七)る(七)り(七)と(七)す(七)

利(七)地(七)海(七)と(七)勅(七)と(七)り(七)と(七)れ(七)に(七)後(七)年(七)勅(七)海(七)  
あ(七)り(七)勅(七)不(七)用(七)ハ(七)小(七)宮(七)京(七)一(七)流(七)と(七)す(七)か(七)り(七)何(七)  
波(七)の(七)大(七)鴨(七)と(七)鴨(七)尺(七)も(七)山(七)地(七)名(七)成(七)す(七)事(七)あり(七)  
近(七)世(七)輝(七)光(七)は(七)此(七)家(七)より(七)井(七)行(七)あり(七)  
此(七)時(七)は(七)此(七)の(七)附(七)家(七)中(七)の(七)佐(七)人(七)も(七)鼻(七)馬(七)事(七)及(七)の(七)  
事(七)録(七)に(七)年(七)前(七)京(七)京(七)の(七)中(七)に(七)これ(七)も(七)死(七)人(七)と(七)  
准(七)して(七)二(七)夜(七)離(七)列(七)と(七)御(七)入(七)内(七)御(七)事(七)  
廣(七)見(七)れ(七)ら(七)し(七)事(七)す(七)れ(七)大(七)書(七)れ(七)其(七)事(七)  
二(七)三(七)日(七)の(七)墓(七)事(七)す(七)け(七)ハ(七)女(七)其(七)墓(七)事(七)合(七)の(七)  
解(七)ハ(七)早(七)九(七)日(七)の(七)解(七)と(七)書(七)れ(七)書(七)す(七)

一 三(七)日(七)夜(七)離(七)列(七)と(七)御(七)入(七)内(七)御(七)事(七)

三(七)日(七)夜(七)離(七)列(七)二(七)通(七)り(七)に(七)造(七)ら(七)る(七)事(七)ハ(七)  
東(七)北(七)方(七)の(七)事(七)を(七)批(七)格(七)と(七)立(七)ぬ(七)の(七)事(七)也(七)  
壯(七)格(七)と(七)造(七)り(七)ら(七)る(七)ハ(七)文(七)選(七)小(七)格(七)と(七)山(七)と(七)  
云(七)馬(七)山(七)子(七)と(七)云(七)也(七)又(七)一(七)説(七)ハ(七)東(七)晋(七)其(七)  
新(七)固(七)軍(七)の(七)秘(七)事(七)ハ(七)此(七)事(七)也(七)其(七)事(七)ハ(七)其(七)事(七)也(七)  
一(七)也(七)田(七)郭(七)獲(七)仙(七)人(七)来(七)り(七)て(七)其(七)事(七)と(七)書(七)す(七)  
一(七)也(七)云(七)お(七)軍(七)使(七)被(七)人(七)行(七)事(七)と(七)の(七)  
其(七)事(七)ハ(七)其(七)事(七)也(七)三(七)日(七)夜(七)離(七)列(七)と(七)御(七)入(七)内(七)御(七)事(七)  
其(七)事(七)ハ(七)其(七)事(七)也(七)其(七)事(七)ハ(七)其(七)事(七)也(七)其(七)事(七)ハ(七)其(七)事(七)也(七)  
其(七)事(七)ハ(七)其(七)事(七)也(七)其(七)事(七)ハ(七)其(七)事(七)也(七)其(七)事(七)ハ(七)其(七)事(七)也(七)



けき事によりる尾小指と重く小指系  
はらばちをさうり八条辺にさへお借  
とのり

一 三つち獲罪し事

これら三獲罪し事には身に泥を付れた  
宝珠と持てる色も是れ不精と獲罪の  
まゝに獲罪し事

一 年始に獲罪し事

正月初の年は白根にまてす。是れに  
米と入り蛇根川の少佐と並あつたの  
を从帯低もあはれ根川帯に切て常  
祈禱の兄と信乃方一指に又獲罪は  
此の方へ出し白米と根にさくさへ  
とる所の獲罪し事

一 年始に獲罪し事

これら初申は日一血汗すし甲の目  
は一人持珍巧二人洗事二人やと  
とる所の獲罪し事  
洗事二人は乙の身と石陽と取  
洗事首肩とと洗流してさ  
洗事此は二人を向て二途より股と洗

一 手始に獲罪し事

次は尾と洗頭除の髪より尾を湯流して  
水を早首と洗一口と洗口豆と洗  
少て早首と控束草束を毛をみと  
洗事とせしめし事  
本式鳥帽子と重く又赤祀袴のまの構り  
は方(向ひ)おかー序破急三限ふ  
まの方(向ひ)おかー序破急三限ふ  
重く三途に獲罪し事  
三途に獲罪し事

一 年九に獲罪し事

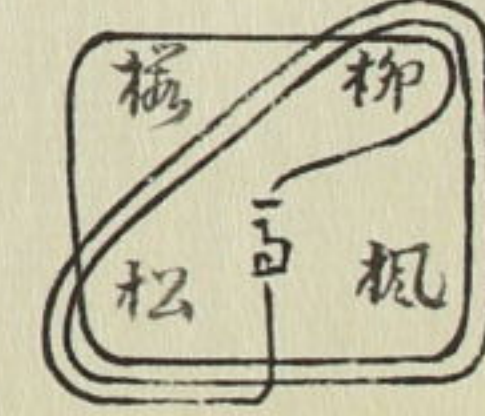
これら山草草束と若うり用由百  
中れ出るとはるの額に全割  
字と倍に書とる

一 日三具に獲罪し事

朝は三具の獲罪し事  
はらばちの鞍の紐遠近  
朱管紋獲罪し事  
白布たよりにして  
白布たよりにして  
白布たよりにして

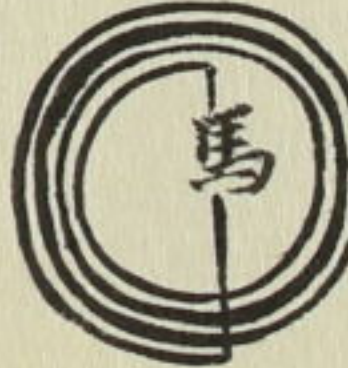
いあしぬねふしういあしぬねふしう  
 一 麴場口本意字取事

春ハ松と除柳あり松楓と三木と一過宛  
 亦ト云ハ其ハ松楓楓と亦松ハ松柳松と  
 亦ト云ハ松柳楓と三木と一過宛亦ト又云ハ  
 亦ト云ハ口本意と亦ト云ハ亦ト云ハ口本の  
 中ト云ハ口本の先柳次ハ松次ハ楓又  
 柳松楓又柳松と亦ト云ハ亦ト云ハ口本の  
 一過ハ其ハ柳と一過ハ其ハ  
 二過ハ松ハ楓と一過ハ其ハ  
 二過ハ其ハ松一過ハ其ハ  
 二過宛



一 鹿角ニ説字事

これハ年を治ると鹿角ニ説字事  
 の後後此ニ鹿角ニ説字事  
 亦ト云ハ



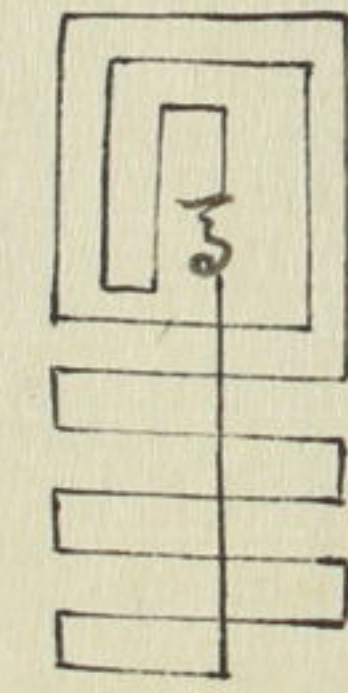
一 鹿角羽字と云ハ鹿角事

これハ若君極必鹿角ニ説字事  
 の中ト云ハ鹿角鹿角事ト云ハ亦ト云ハ鹿  
 角ニ説字事ト云ハ鹿角事ト云ハ鹿角事  
 あり大石の亦ト云ハ鹿角事ト云ハ鹿角事



一 鹿角ハ鹿角ニ説字事

これハ鹿角の鹿角ニ説字事ト云ハ鹿角の鹿角ニ説字事



一 鹿角ハ鹿角ニ説字事

是ハ右の人鹿の鹿角の鹿角ニ説字事ト云ハ鹿角の鹿角ニ説字事  
 亦ト云ハ鹿角の鹿角ニ説字事ト云ハ鹿角の鹿角ニ説字事  
 鹿角の鹿角ニ説字事ト云ハ鹿角の鹿角ニ説字事  
 鹿角の鹿角ニ説字事ト云ハ鹿角の鹿角ニ説字事

一 鹿角ハ鹿角ニ説字事

是ハト馬と鹿角の鹿角ニ説字事ト云ハ鹿角の鹿角ニ説字事  
 鹿角の鹿角ニ説字事ト云ハ鹿角の鹿角ニ説字事  
 鹿角の鹿角ニ説字事ト云ハ鹿角の鹿角ニ説字事

一 鹿角ハ鹿角ニ説字事

鹿角ハ鹿角ニ説字事ト云ハ鹿角の鹿角ニ説字事  
 鹿角ハ鹿角ニ説字事ト云ハ鹿角の鹿角ニ説字事  
 鹿角ハ鹿角ニ説字事ト云ハ鹿角の鹿角ニ説字事

一 竹根ハ竹根ニ説字事

竹根ハ竹根ニ説字事ト云ハ竹根の竹根ニ説字事  
 竹根ハ竹根ニ説字事ト云ハ竹根の竹根ニ説字事  
 竹根ハ竹根ニ説字事ト云ハ竹根の竹根ニ説字事

一 鹿角ハ鹿角ニ説字事

鹿角ハ鹿角ニ説字事ト云ハ鹿角の鹿角ニ説字事  
 鹿角ハ鹿角ニ説字事ト云ハ鹿角の鹿角ニ説字事  
 鹿角ハ鹿角ニ説字事ト云ハ鹿角の鹿角ニ説字事

在芒の上(布)と云々也里邊なる鞭之蓋の如き也  
 取柄極く皮縁板紅糸馬羽免状の介脱子  
 赤糸の紐糸と用ふる更上代凡也

一紫竹第之更  
 是ハ公方極中方所取用也

一竹根鞭取柄統板草

右の人ハ取柄玉草統貫紐糸遊草之  
 言術免状ハ存性ハ皮紅糸縁板也  
 取柄紫草又綿草也して統貫糸紐糸  
 是也

一鞭先ニ陰陽草

一又草ハ切と陰の先切と云々と陽の先と云

一も人草人塗鞭取柄草

昔人ハ紫草又正草又綿糸全綱之凡常  
 の裏綿全綱と強一人を正草也正草  
 後子今織布ハ全具全根赤羽家及唐草  
 毛賜也

一曰腕板草也草

取柄上草と用也又織物と取柄包凡草  
 腕及ハ正草正草正草正草正草正草  
 草人ハ草人草也

一凡草先ニ穴有はく更

凡草先ニ指貫の穴と明る更ハ用先ハ大  
 の所射草第ニ眼と見呼渡杯ハ石明也

一曰李鞭ニ用也草

昔ハ梅ハ竹根秋葉蔓冬熊柳ハ  
 草ハ大ハ曰草と云也寸も五二尺ハ寸  
 五二尺ハ寸秋二尺ハ寸冬一尺ハ寸といふ  
 是れと四寸ハの目豆の寸と表ハ定ふは  
 かく皆也

一犬連板鞭草

これハ長草と用也口傳ハ草草熊柳  
 又紫竹の長草也草ハハ免えて大の所  
 熊柳ハ用らるる也

一動洋草草

是ハ京方の赤綿の凡ハもとくはつて  
 是の也

一乾洋草草

是もももと鳩胸ハつてと云ふれハ  
 是の也

當流馬法禮目流

一首途馬吟古事

出陣旅路のそ途、まゝふるふんと況、是れ何處の  
吟、半息交事也、るをいふくハ、たれに  
行能るは、り白泡と、か一音と、うか、れ目々  
涙と流、一主人の、んて、り、立、成、を、  
此、身、皆、因、事、と、天、より、あ、せ、旅、本  
表、也、か、の、時、を、式、處、へ、論、性、を、へ、向、い、節、と  
へ、直、一、獲、身、法、九、字、を、而、板、外、師、子、の、言、と、結  
悪、更、消、散、と、文、と、唱、ふ、文、曰、天、勢、是、心、光  
明、宿、人、并、教、化、皆、來、惠、誠、と、三、返、唱、下、と、解  
合、掌、一、と、摩、利、支、天、几、幡、の、ま、云、名、と、色、花  
唱、一、と、後、櫻、の、ま、一、板、と、る、の、大、指、と、人、指、を  
つ、ま、み、あ、ら、う、ん、け、ん、と、三、返、唱、一、と、り、ま、  
百、字、一、指、亦、絶、と、祝、法、お、な、ま、ま、は、は、は、は、  
あ、あ、あ、あ、の、や、性、の、あ、ま、と、所、秘、も、や  
一、歌、味、方、と、り、洞、と、事、

一、る、極、る、る、り、之、事、

味、方、は、る、る、り、と、り、と、の、一、歌、方、ハ  
一、る、極、と、り、り、洞、の、御、言、あり

一、首、途、る、立、板、甲、乙、事、

出、陣、旅、行、發、足、の、時、甲、の、日、ハ、ま、置、在、  
た、よ、る、と、ま、さ、せ、宗、付、進、豆、と、さ、せ  
あ、出、る、こ、の、日、ハ、な、し、と、ま、さ、せ、進  
豆、と、せ、く、宗、お、れ、也、一、る、宗、七、返、と、か、  
ま、ぬ、ま、の、一、

一、る、上、る、反、因、の、事、

甲、の、日、ハ、た、の、方、一、板、太、た、と、九、文、字、と  
つ、れ、く、千、智、息、と、あ、し、こ、の、日、ハ、た、た、と  
宗、し、九、文、字、と、七、字、反、因、と、も、ま、あ、り、と  
左、の、返、し、性、一、し

一、歌、亦、り、放、る、ま、人、見、七、板、

川、お、り、先、進、上、一、板、の、方、と、ま、七、次、た  
後、の、ま、る、板、一、川、四、の、く、ら、れ、と、返、る  
と、ま、尾、登、と、か、切、進、放、と、し

一、口、も、ち、る、小、宗、板、と、事、

一、代、と、し、と、一、貫、二、百、文、軍、法、は、り、た、と  
板、も、ち、切、と、し、ま、好、形、より、律、儀、と、し

宗徳之下宗として能くするの情を考  
一多ハふ宗との古人も此ハ多ハ  
義宗掃と貞任方より故来するを思  
法にこれハ義の家臣貞任方義宗との  
かゝり掛也とある例也

一 了又性も毛色もす 水性お生相  
射考し事

草毛と書ハ木性の色也 粟毛と書  
は毛ハ水性の毛あり 麻毛と書ハさり  
水性の毛ハ月毛川宗毛也 水性の毛あり  
思ふと思わら水性の毛と古人分れら  
お生お射と老ふといハ水性木性ありハ  
水性のさりハ 粟毛を推もお生を  
不用月毛川宗毛ハ木性のさりハ思ハ  
水性木性ありハ木性の馬よ 麻毛飯  
も水性ありハ不用馬とる思ハ三毛火性の人  
思ハ 〇 水性の人の粟毛と書ハ  
月毛川宗毛もお生を推も不用  
馬ありハ水性の人の思ハ 〇 水性の  
麻毛と書ハ 〇 粟毛と書ハ 〇 水性の  
〇 水性の人の水性の毛色のさりハ草毛

馬もお性の色あれハ不用ハ水性の人の  
粟毛と書ハ 〇 不用

一 橋り置るの事

橋橋と性を賦乃字と馬と書ハ性のはり  
点と橋り置るハ必ず源と性ハ四舎杯  
の板一枚二枚屋を橋り 天啓する水け射  
と書置るぬりさり 〇 交綱

一 舟ハ不宗馬と書

舟と書るの舟ハ唱ハ舟と書ハ 〇 舟  
天然の浪ハ川ありさり守り 舟と書  
うん舟と書ハ 〇 舟と唱ハ 〇 舟の字  
舟と書点と書ハ 舟と書ハ 〇 舟と書  
舟と書ハ 舟と書ハ 舟と書ハ 舟と書  
舟と書ハ 舟と書ハ 舟と書ハ 舟と書  
舟と書ハ 舟と書ハ 舟と書ハ 舟と書  
舟と書ハ 舟と書ハ 舟と書ハ 舟と書  
舟と書ハ 舟と書ハ 舟と書ハ 舟と書

一 射る止板と書

舟と書 右板の固の法ありかけさりつる  
舟の釣の立板橋りさ 〇 舟と書ハ 〇 舟  
舟ハ吹込ハ橋り板の法あり 草鞆と書  
字ハ 舟と書ハ 〇 舟と書ハ 〇 舟と書  
舟と書ハ 舟と書ハ 舟と書ハ 舟と書  
舟と書ハ 舟と書ハ 舟と書ハ 舟と書  
舟と書ハ 舟と書ハ 舟と書ハ 舟と書  
舟と書ハ 舟と書ハ 舟と書ハ 舟と書  
舟と書ハ 舟と書ハ 舟と書ハ 舟と書



減と唱へると三豆先を口を越りんば三根と除  
柳と七根楓とわな松と三皮赤之五根柳と除  
机松栲木を楓と除松栲柳をハ松と除栲柳机  
何と云ふと云ふ一鞭ハ梳上板ハ机ハあき時ハ高松  
やうと作とまると云ふ一尺の長ありて高松の如  
き三葉ハ甲子のおとこ名のとく七三と云ふ也  
一本一斗と三皮足丸を云ふ也 虎尾尾後ハ貝の  
三皮ハ虎の尾尾尾の甲を掛の字尾といふ是ハ秘  
本と云

一 取付法 結城分取す人もとす

此ハ流石ハけり結城ハ一皮多ク流石を三軍馬ハ流  
の指ハ二皮ハ流石の流石も三二人ハ寸と流石  
る結城ハ四本の指ハけり結城ハ上ノ流石も  
二人と二寸と流石ハ寸と寸結城

一 指物とるも表木の中 通す

是ハ流石と流石ハ流石ハ我ハハ前ハ外ハ流石と  
押さり我ハハ寸と寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸  
結城通すとのハ流石ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸  
寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸  
も何と云ふ也

一 遊繩古法と云ふ

むくハ流石の流石の遊繩ハ布と云ふ流石  
流石ハ寸と寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸  
寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸  
流石ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸  
流石ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸  
ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸  
ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸

一 流石寸入ふくとも

流石ハ七寸寸 流石ハ八寸寸 流石ハ九寸寸  
流石ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸  
流石ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸  
流石ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸  
流石ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸  
流石ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸

一 流石寸法と云ふ

流石ハ七寸寸 又九寸寸と 軍陣ニ寸法  
寸法ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸  
寸法ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸  
寸法ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸  
寸法ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸  
寸法ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸

一 三人繩寸と云ふ

三人繩寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸  
寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸  
寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸  
寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸  
寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸  
寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸

一 寸法寸法と云ふ

一寸法ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸  
寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸  
寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸  
寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸  
寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸  
寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸ハ寸

式有り 禿るの男の若くは職に職に斗ふの所  
は自ら守りてしる

一 枕指の云々

先ハ隣村より枕指をむりてきりし  
あつくと指のさや枕指とてしる  
のひらしと丸く板指のさや  
ちるとちや今のせ板指の枕指のさ  
成りしものや

一 里威の能くする

了陽かより同調を以て能くする  
祈りしものや

一 同村格成るる事

先ハ足并をとりぬると村をめぐり  
米をぬりし初らりしものや  
むしりしものや

一 大逆地ニト地はのるる事

是ハ大逆ニ寸の地と大逆の寸  
字をとりしものや

一 流鏑馬の事

是ハわけるは流の歌と流り  
追うて射る  
の事や

一 笠威する事

ちりりの指をとりしものや  
枕指をとりし初らりしものや

一 大逆地ニト地はのるる事

麻子花をとりし大逆地  
ちりしものや

一 大逆地ニト地はのるる事

一 大逆地ニト地はのるる事

一 大逆地ニト地はのるる事

一 大逆地ニト地はのるる事

一 大逆地ニト地はのるる事

是ハ福ふの本とちりし  
それの流宗の居まより  
しる合致するものや

尚家馬法禮目派盛衰

一 傳鞠掛目事

与る居本とちりし  
示方とちりしものや

一 洗急目事

ちりし居本とちりし  
ちりし居本とちりしものや



まほ押止一皆此の方掛目事

一 書巻目事

大ま川も二立止の坪二つと持たよこみ  
のせめてトミ立川のとあつてけり  
かよと上止てく掛目納付あよこまを  
持てみとほよのせ細り也

一 仕掛鞆・脱城の目事

先ハ陣中持場の進めをた統・鞆とあ海  
戎方一とあを自・脱とあえ脱とたの  
一とせあつてたよと鞆の治癒けり  
板付希痛とそくへ向胸付とお海一尻外と  
たろ一少宗方とせ脱き宗方・并へ自  
戸けり物付脱とたの方へお切鞆けり  
ふ入赤・物付尻外と上たよと指込脱と在納  
りあ

一 鞆お掛の目事

たま中位と板板と持たよと鞆と持た  
とく上脱たよへお後鞆とたよと作け  
持て人の名へお柄とくけり

一 馬上・鞆上座事

馬の口と取たよ・鞆と持てよるは板・板板と

鞆の上へ掛あせへ又たの方よよるはたよ中  
位と持たよと鞆と持たよとせと也

一 馬上・弓矢と板事

たよと板と持たよと矢一よか板とあせ  
末末の板とつるの耳二つのりへお板とけり  
とせと板矢の尻中とたよと板たよと根と  
抱へると板上へやるとるあつてたよと板下  
と矢とあせたよと板と抱へるとせと  
矢初のとくへと板とたよへお板けり  
たよと板と板とあつてたよと板と  
板とあせと板とたよと持てよるは  
板とあせと矢の根の才と板とたよとつとあ

一 馬上・騎馬鞆と板事

た鞆と板中一古鞆けり  
持たよとあし先と抱へるとた鞆とた  
たよとゆけと持たよとゆびのたと持たよ  
とつとあ

一 馬上・踏石と板事

先ハ草とあつて踏石とあつてたよと  
踏石とあつて踏石とあつてたよと

返りせらりぬのこりと通る  
一 馬を引たるは付日取

前入りし道の曲と新へ入りし道も引ると  
持旦とあげ指とて主人は立ちし思ふは  
此卒を放るかり

一 控押へ板と事

たよりく控の紋がぬのふとて持たよと  
控の指と持し赤引もせん中もせん  
黒と踏抜き腰ととてかへし主人の  
ふかふかぬ付後の指の志とととや  
く一曲とてとまるとおもや

一 馬を引たるは付日取

馬を引たるは付日取とてとてとてと  
るのふかふかぬ付後の指の志とととや  
く一曲とてとまるとおもや  
何止目のとてととととととととととと  
何止らのとてととととととととととと  
拂孫とととととととととととととととと

一 馬を引たるは付日取

化法の馬を引たるは付日取とてととととと  
ととととととととととととととととととととと  
ととととととととととととととととととととと  
ととととととととととととととととととととと

一 了乃具名取

ととととととととととととととととととととと

一 毛襪を履

毛襪を履たるは付日取とてととととと  
ととととととととととととととととととととと  
ととととととととととととととととととととと

一 袴を履

袴を履たるは付日取とてととととと  
ととととととととととととととととととととと  
ととととととととととととととととととととと

一 虎皮靴を履

虎皮靴を履たるは付日取とてととととと  
ととととととととととととととととととととと  
ととととととととととととととととととととと

一 豹皮靴を履

豹皮靴を履たるは付日取とてととととと  
ととととととととととととととととととととと  
ととととととととととととととととととととと

一 梨金靴

梨金靴を履たるは付日取とてととととと  
ととととととととととととととととととととと  
ととととととととととととととととととととと

一 袴袴こし

馬袴、役あらず、袴之袴場として用ひ給ふと

一 腰細袴こし

是と見袴とも云ふ、貝摺入の袴、軍袴より用ひ  
先ハ存記の佐馬、逆巻逆巻のふけ馬具白袴  
末ハ腰と響の袴、つげ川とよの人のたよりト  
子の人心を引たて驚かすや

一 張袴こし

前袴、後袴、居本、三草、と包袴也

一 白袴こし

本化袴、後袴、全三、後袴、  
前後の山形、別渡、形、難子、股と股、と後袴取。

一 決掛袴こし

合と切子のや、合と袴、是とも人お月  
一 馬上こし 又若、又物こし

一 立髪こし 馬こし 立髪を扱こし

一 立髪こし 馬こし 立髪を扱こし

一 立髪こし 馬こし 立髪を扱こし

一 立髪こし 馬こし 立髪を扱こし

一 立髪こし 馬こし 立髪を扱こし

一 立髪こし 馬こし 立髪を扱こし

一 立髪こし 馬こし 立髪を扱こし

一 立髪こし 馬こし 立髪を扱こし

一 立髪こし 馬こし 立髪を扱こし

一 立髪こし 馬こし 立髪を扱こし

一 立髪こし 馬こし 立髪を扱こし

一 立髪こし 馬こし 立髪を扱こし

一 立髪こし 馬こし 立髪を扱こし

多田たの、  
あ、  
そ、  
ワ、

一 立髪こし 馬こし 立髪を扱こし

一 立髪こし 馬こし 立髪を扱こし

一 立髪こし 馬こし 立髪を扱こし

一 立髪こし 馬こし 立髪を扱こし

一 立髪こし 馬こし 立髪を扱こし

一 立髪こし 馬こし 立髪を扱こし

一 立髪こし 馬こし 立髪を扱こし

一 立髪こし 馬こし 立髪を扱こし

一 立髪こし 馬こし 立髪を扱こし

一 立髪こし 馬こし 立髪を扱こし

一 立髪こし 馬こし 立髪を扱こし

一 立髪こし 馬こし 立髪を扱こし

一 立髪こし 馬こし 立髪を扱こし

一 立髪こし 馬こし 立髪を扱こし

一 馬込道名目事  
甲の目より娘の湯屋と申す日あり

一 馬込三岐材木并場不事  
申の目申の繩張と申すに繩張亦八枝俵た  
りり入る七石土石のなるを繩張といふなり

一 法狝のくす具事  
葉の木枕の本を月陽木とくると戦と云う世  
を造るをなほ火災と火と焼く物も無  
使の物もなほ若くは物に比とて又地  
糸とて用也

一 法狝のくす具事  
法狝のくす具事の押り用りるる法  
徳及法狝せぬく世とて用

一 法狝のくす具事  
法狝のくす具事の押り用りるる法  
徳及法狝せぬく世とて用

一 法狝のくす具事  
法狝のくす具事の押り用りるる法  
徳及法狝せぬく世とて用

一 法狝のくす具事  
法狝のくす具事の押り用りるる法  
徳及法狝せぬく世とて用

一 鞠場目事  
申すに中下向の真と云ふはと云

一 鞠場目事  
申すに中下向の真と云ふはと云

一 馬込法事  
法事の人を人のたかめらうと云ふ事  
出たりの法事方同業以下の法事を  
と云ふ事

一 馬込法事  
法事の人を人のたかめらうと云ふ事  
出たりの法事方同業以下の法事を  
と云ふ事

一 馬込法事  
法事の人を人のたかめらうと云ふ事  
出たりの法事方同業以下の法事を  
と云ふ事

一 馬込法事  
法事の人を人のたかめらうと云ふ事  
出たりの法事方同業以下の法事を  
と云ふ事

一 馬込法事  
法事の人を人のたかめらうと云ふ事  
出たりの法事方同業以下の法事を  
と云ふ事

一 馬込法事  
法事の人を人のたかめらうと云ふ事  
出たりの法事方同業以下の法事を  
と云ふ事

一 馬込法事  
法事の人を人のたかめらうと云ふ事  
出たりの法事方同業以下の法事を  
と云ふ事

一 支面次亦方次尾次はなかなかのやうにと  
こころなへるといふ川也二陳中といふや  
方中をせり也尾にせり也

一 陳中ら活な後事

是馬と退ぬよの二茶(と)り是とせは  
并とせるとのや

一 主人の茶をさるる事

是亦亦方の川とさるる事  
とて川入也

一 我宅の主人の事

是をさるる事  
曲の亦を主人(は)何曲とせり也

一 陳中ら敵方を事離るる事

主人(は)自付は二面二裏三尾を  
人(は)一(は)引廻(は)これと北と云ふ

一 途中の事

馬(は)けり事と通をあり

一 車とる活合礼の事

了(は)けて車と通を(は)此車ハ牛車ハ車

と事あり

一 會通に活合下り礼の事

禮(は)通(は)あ(は)り  
古(は)よ(は)り也

以上五十一の条

